

Altova MobileTogether Server

ユーザーマニュアル

Altova MobileTogether Server ユーザーマニュアル

All rights reserved. No parts of this work may be reproduced in any form or by any means – graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or information storage and retrieval systems – without the written permission of the publisher.

Products that are referred to in this document may be either trademarks and/or registered trademarks of the respective owners. The publisher and the author make no claim to these trademarks.

While every precaution has been taken in the preparation of this document, the publisher and the author assume no responsibility for errors or omissions, or for damages resulting from the use of information contained in this document or from the use of programs and source code that may accompany it. In no event shall the publisher and the author be liable for any loss of profit or any other commercial damage caused or alleged to have been caused directly or indirectly by this document.

公開日: 2020

(C) 2020 Altova GmbH

目次

1	MobileTogether Server へようこそ	6
2	はじめに	8
2.1	MobileTogether 概要.....	9
2.2	MobileTogether Server の使用方法.....	11
3	MobileTogether Server のセットアップ	13
3.1	プロセッサコアとライセンス.....	14
4	サーバーの手順	15
4.1	Altova LicenseServer の開始.....	16
4.2	MobileTogether Server の開始.....	18
4.3	SSL 暗号化のセットアップ.....	20
4.4	管理者とモバイル クライアントポートの設定.....	25
4.5	ユーザーとロール.....	29
4.6	使用可能な特権.....	32
4.7	ファイアウォールの構成.....	35
4.8	サービスの構成.....	36
4.8.1	タイマーのトリガー.....	37
4.8.2	ファイルシステムのトリガー.....	38
4.8.3	HTTPトリガー.....	39
4.9	ソリューションを使用する統計.....	40
4.10	クライアントの情報.....	45
4.11	MobileTogether Server のバックアップと復元.....	46
4.12	よくある質問.....	48
5	Web UI リファレンス	49

5.1	ワークフロー.....	51
5.2	ユーザーとロール.....	57
5.2.1	ユーザー.....	59
5.2.2	ロール.....	62
5.2.3	パスワードポリシー.....	66
5.2.4	レポート.....	68
5.3	ユーザーライセンス.....	70
5.4	ログ.....	72
5.5	キャッシュ.....	74
5.6	バックアップと復元.....	76
5.7	設定.....	78
5.7.1	ネットワーク.....	79
5.7.2	ログ.....	85
5.7.3	LDAP.....	87
5.7.4	認証.....	89
5.7.5	JWT.....	89
5.7.6	キャッシュ.....	90
5.7.7	ソース.....	91
5.7.8	その他.....	94
5.7.9	LicenseServer.....	97
5.7.10	構成ファイル設定.....	97
6	MobileTogether Server コマンドライン	100
6.1	.addtorole.....	102
6.2	.applicationid.....	103
6.3	.assignlicense (Windows のみ).....	104
6.4	.createcontainer.....	106
6.5	.createrole.....	107
6.6	.createuser.....	109
6.7	.debug.....	111
6.8	.deploy.....	112
6.9	.exportresourcestrings.....	114
6.10	.grant.....	116
6.11	.help.....	117

6.12	.install.....	118
6.13	.licenseserver.....	119
6.14	.resetpassword.....	121
6.15	.setdeflang.....	122
6.16	.setpassword.....	123
6.17	.setsmtp.....	124
6.18	.start.....	125
6.19	.uninstall.....	126
6.20	.upgradedb.....	127
6.21	.verifylicense (Windows のみ).....	128
6.22	.version.....	129

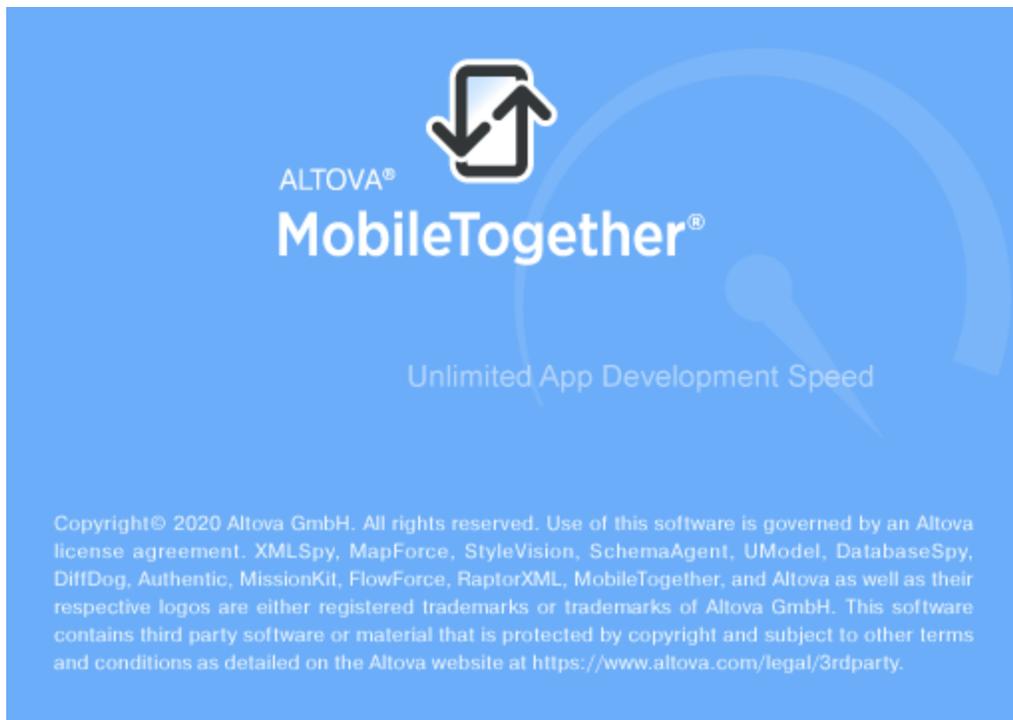
インデックス	130
---------------	------------

1 MobileTogether Server へようこそ

MobileTogether Server Advanced Edition（今後はMobileTogether Server と称されます）は、クライアントモバイルデバイスに対するMobileTogether ソリューションにサブscribesします。MS Windows、Linux、およびmacOS マシン上で作動します。Windows、Linux、およびmacOS システムで作動します。

- MobileTogether ソリューションはAltova のMobileTogether Designer アプリケーションで作成され、MobileTogether Designer からMobileTogether Serverへデプロイされます。
- クライアント モバイルデバイスにインストールされているMobileTogether Client アプリは、MobileTogether Server. にデプロイされたMobileTogether ソリューションにアクセスすることができます。

MobileTogether Server には使いやすいWeb UI が搭載されており、サーバープロセスおよびログを管理することができます。このユーザーマニュアルはMobileTogether Server のセットアップ方法およびプロセスの管理について説明します。



現在のバージョン: 7.2

このドキュメントについて

このドキュメントは次のセクションに整理されています:

- [はじめに](#)⁸
- [MobileTogether Server のセットアップ](#)¹³
- [サーバーの手順](#)¹⁵
- [Web UI レファレンス](#)⁴⁹
- [コマンドラインインターフェイスの使用法](#)¹⁰⁰

以下も参照してください! MobileTogether Server に関する [デモビデオ](#)¹⁵

Altova Web サイト: [アプリの開発](#)、[エンタープライズアプリ](#)、[エンタープライズアプリの開発](#)、[RMAD](#)、[コードの少ない開発](#)

最終更新日: 2020年12月04日

2 はじめに

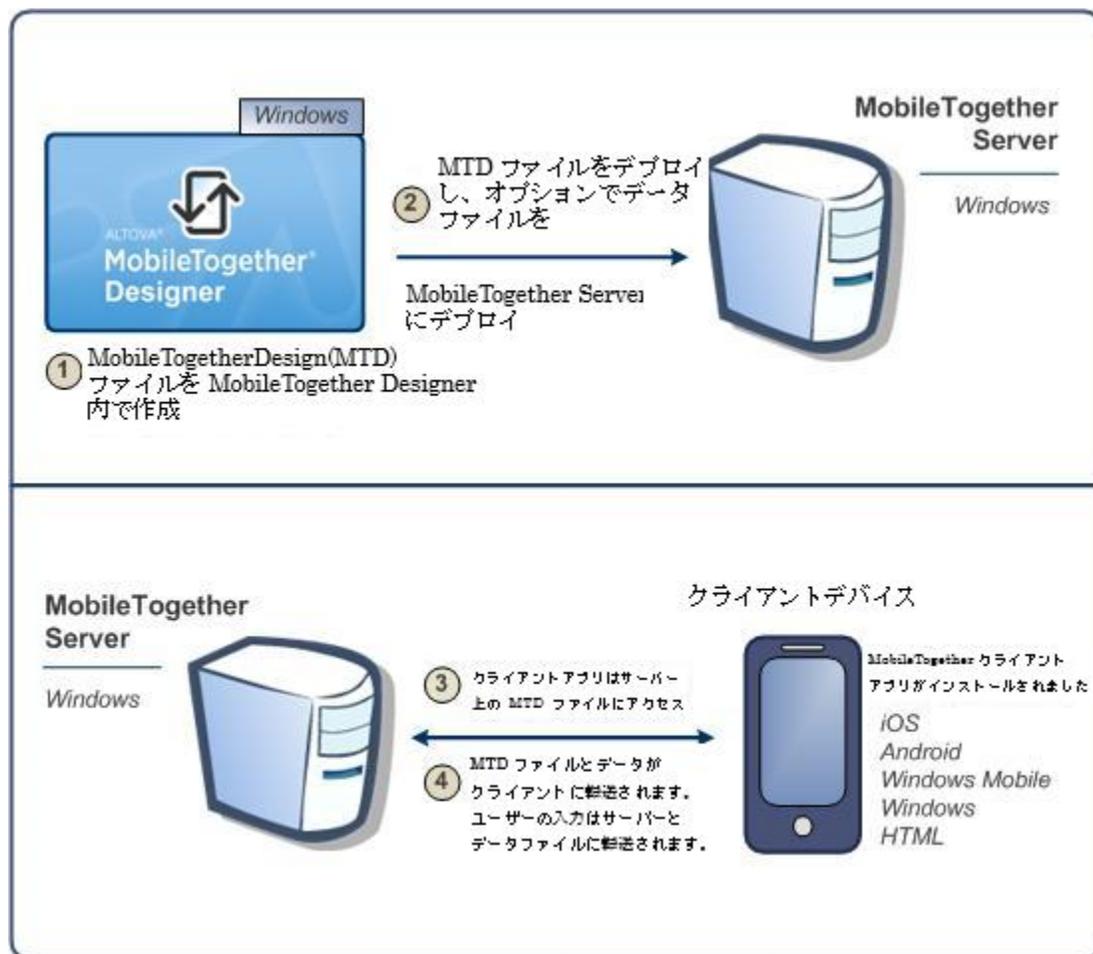
はじめに

- [MobileTogether 概要](#)⁹ は MobileTogether システムとシステム内の MobileTogether Server について紹介します。
- [MobileTogether Server の使用法](#)¹¹ セクションは MobileTogether Client アプリと使用される MobileTogether Server のセットアップに必要な手順を大まかに紹介します。

2.1 MobileTogether 概要

MobileTogether は以下のモジュールにより構成されています:

- **MobileTogether Designer**: モバイルクライアントのための MobileTogether ソリューションが作成され MobileTogether Server へデプロイされます。[[MobileTogether Designer ユーザーマニュアル](#)]を参照してください。
- **MobileTogether Server**: MobileTogether ソリューションをモバイルデバイスにインストールされた MobileTogether Client アプリへサーバします。サーバ管理タスクの[サーバーの手順](#)¹⁵のセクションを参照してください。
- **MobileTogether Client アプリ(モバイルデバイス)**: MobileTogether Server に接続して、そのサーバにデプロイされた MobileTogether ソリューションにアクセスします。[[MobileTogether Client App ユーザーマニュアル](#)]を参照してください。



システム必要条件

▼ MobileTogether Designer

Windows	プラットフォーム更新済みのWindows 7 SP1、Windows 8、Windows 10
---------	---

Windows Server	プラットフォーム更新済みのWindows Server 2008 R2 SP1 まで以降
----------------	--

▼ MobileTogether Server

Windows	プラットフォーム更新済みのWindows 7 SP1、Windows 8、Windows 10
Windows Server	プラットフォーム更新済みのWindows Server 2008 R2 SP1 まで以降
Linux	<ul style="list-style-type: none"> • CentOS 7 まで以降 • RedHat 7 まで以降 • Debian 8 まで以降 • Ubuntu 16.04 LTS まで以降
macOS	macOS 10.13 まで以降

▼ MobileTogether Client

iOS	Apple モバイルデバイスは9 以上
Android	Android モバイルデバイスは4.1 以上
Windows RT、Metro	Windows 10; Windows RT タッチが有効化されているPC とタブレットコンピューター
HTML	その他すべてのモバイルデバイスはHTML ブラウザー

2.2 MobileTogether Server の使用方法

MobileTogether クライアントと使用するために MobileTogether Server をセットアップする方法

- MobileTogether Server のインストールと構成方法
- MobileTogether Designer から MobileTogether Server への MobileTogether ソリューションのデプロイ
- MobileTogether Server 上のソリューションにアクセスするための (モバイルデバイス上の) MobileTogether Client アプリの構成

更に詳しい手順

1. MobileTogether Server のインストール方法

MobileTogether Server は Windows、Linux、および macOS システムで作動します。MobileTogether Server の最新バージョンをインストールする前に、前のバージョンをアンインストールします。Windows へのインストール、Linux へのインストール、および macOS へのインストール を参照してください。

2. MobileTogether Server のライセンス

MobileTogether Server のライセンスを供与するためには、ネットワーク上で LicenseServer に接続可能である必要があります。MobileTogether Server を開始して、MobileTogether Server を LicenseServer で登録します。LicenseServer から MobileTogether Server へライセンスを割り当てます。Windows でのライセンス、Linux でのライセンス、および macOS でのライセンスを参照してください。

3. SSL 暗号化のセットアップ

サーバーとクライアントの通信の暗号化を希望する場合 MobileTogether Server のための SSL 暗号化をセットアップすることができます ([SSL 暗号化のセットアップ](#)²⁰ を参照してください)。MobileTogether Client アプリを SSL を介して通信するように構成する必要があります。 [MobileTogether Client アプリユーザー マニュアル](#) を参照してください。

4. 基本設定の定義

基本設定は [管理者とクライアント ポート](#)²⁵ と他の [コミュニケーション設定とセキュリティ](#)⁷⁶ 設定を説明します。

5. ユーザーアカウントの設定

MobileTogether Server は常に [ユーザーアカウント](#)²⁹ を介してアクセスすることができます。ですので、ユーザーアカウントを適切にセットアップする必要があります。

- アクセスには 2 通りの方法があります: 管理者のアクセス を Web UI 介しての管理者のアクセスは管理タスクを実行するために使用されます。管理アクションはコミュニケーション設定、セキュリティ設定、およびユーザの管理を含みます。
- エンドユーザーのアクセス: エンドユーザーはモバイルデバイスを介してアクセスすることができ、MobileTogether ソリューションをクライアントにダウンロード時に使用されます。サーバー上のソリューションへのアクセスはクライアントがログインするユーザーアカウントにより決定されます。

6. MobileTogether ソリューションの MobileTogether Server へのデプロイ

MobileTogether ソリューションは MobileTogether Designer アプリケーション内でデプロイされます。[「Mobile Together Designer ユーザーマニュアル」](#)を参照してください。

7. MobileTogether Server にアクセスするための MobileTogether Client アプリの構成

モバイルデバイス上の MobileTogether Client アプリは MobileTogether Server へ接続できるよう構成されていなければなりません。MobileTogether Client アプリの構成に必要な MobileTogether Server 情報は[クライアントの情報](#)⁴⁵のセクションで説明されています。また、[「Mobile Together Client アプリユーザー マニュアル」](#)も参照ください。

サーバー IP アドレスとネットワークファイアウォールの設定

使用中のサーバーは(インターネットを介してアクセスすることのできる) 公開された IP アドレス およびポート(例えば、企業内ネットワーク内の WiFi など、プライベートのネットワーク内でアクセスすることのできる) プライベートの IP アドレスを持つことができます。もし、モバイルクライアントデバイスがインターネットにサーバーのプライベートの IP アドレスを使用して、アクセスした場合、アクセスがうまくいきません。これは、プライベートの IP アドレスは、インターネット上で検出されておらず、解決することができないからです。クライアントデバイスが、プライベートの IP アドレスを使用する場合、クライアントデバイスはプライベートネットワークへのアクセスを既に取得している必要があります。

サーバーへのアクセスを確実にするために、以下を行ってください！

- インターネットを介してアクセスできるように、サーバーに公開された IP アドレスを与えます。クライアントデバイスでは、この公開された IP アドレスを使用してサーバーにアクセスします。
- ファイアウォールを使用しており、MobileTogether Server をサーバーにプライベート IP アドレスを使用して(プライベートのネットワーク内)にインストールする場合、ネットワークのファイアウォールを使用して、公開された IP アドレス/ポートの組み合わせに送信されたリクエストを使用中の MobileTogether Server サーバーに転送します。クライアントデバイスでは、公開された IP アドレスを使用してください。

MobileTogether Client 通信のために使用されるサーバーポートが使用されてサーバーへのアクセスが許可されるようファイアウォールが構成されていることを確認してください。MobileTogether Server で使用されるポートは、MobileTogether Server の Web UI の設定ページで指定することができます。([Mobile Together Server ユーザーマニュアル](#)を参照してください)。クライアントデバイスでは、これはアクセスするサーバーポートとして指定されている必要があります。

ヒント: ポート 80 はデフォルトで通常ほとんどのファイアウォールに対して開かれています。ですから、ファイアウォールの設定で問題があり、ポート 80 が他のサービスにバインドされていない場合、ポート 80 をクライアントとの通信用の MobileTogether Server ポートとして指定することができます。

3 MobileTogether Server のセットアップ

このセクションはインストール、ライセンス許与および他のセットアップの手順について説明しています。このドキュメントは以下のセクションに整理されています:

- [プロセッサコアとライセンス](#)¹⁴
- Windows のセットアップ
- Linux 上のセットアップ
- macOS 上のセットアップ

3.1 プロセッサコアとライセンス

Altova サーバー製品へのライセンス供与は(ロジカルなコアの数量ではなく)製品マシン上で使用することのできる物理的なプロセッサのコアの数量をベースとしています。例えば、デュアルコアプロセッサ1コア、クアッドコアプロセッサ4コア、ヘキサコア6コアなどの2つのコアが存在します。製品にライセンス供与されるコア数は、物理または仮想マシン上に関わらず、サーバーマシン上で使用することのできるコアの数量と同等、またはそれ以上である必要があります。例えば、サーバーが8コア持つ場合、8コアライセンスを購入する必要があります。コアの数量を満たすためライセンスを組み合わせてもできます。ですから、2つの4コアライセンスを使用して、8コアライセンスの代わりに8コアを達成することもできます。

処理する容量は少ないが、CPU コアの大きなコンピューターサーバーを使用している場合、少ない数量のコア割り当てられている仮想マシンを作成し、その数量のライセンスを購入することもできます。このようなデプロイの場合、もちろん、コンピューターのすべてのコアを使用する場合に比べるようなデプロイの処理スピードは遅いです。

メモ 各 Altova サーバー製品ライセンスは、使用されていないライセンス供与能力が存在する場合でも、Altova サーバー製品がインストールされているマシンで、一度に1つのクライアントマシンのためのみ使用することができます。例えば、10 コアライセンスが6 CPU コアを持つマシンのためで使用されている場合、残りのライセンス許与能力の4 コアは、他のクライアントマシンのためには同時に使用することはできません。

Mobile Together Server Advanced Edition のためのメモ

サービス機能のため、MobileTogether Server Advanced Edition は2つまたは以上のコアを持つマシン上でのみ作動します。

単一スレッド実行

Altova サーバー製品が単一スレッドの実行を許可すると、単一スレッドの実行を使用できるようになります。この場合、Altova サーバー製品ライセンスはライセンスプール内でコアのみ使用することができます。複数のコアを持つマシンはこのコアライセンスを割り当てることができます。このような場合、その製品を作動するマシンは単一コアで作動します。(複数のコアで可能な)処理はマルチスレッドを使用できず遅いです。製品はそのマシン上で単一スレッドモードで実行されます。

マルチコアマシンに単一コアライセンスを割り当てるには、その製品のためにLicenseServer 内で「単一スレッド実行に制限する」チェックボックスを選択してください。

MobileTogether Server コアライセンスのための単一スレッド実行が選択されている場合、MobileTogether Server (一台のデバイス)のみが接続することができます。この場合、2番目のデバイスが接続され、2番目のデバイスからライセンスを受け取ります。この場合 MobileTogether Server に接続されている2台目のデバイスは接続不可能となり関連したエラーメッセージが表示されます。

必要とされるコアを見積もる方法

サーバーが扱うことのできるデータの量と処理回数を影響する多くの外部要素が存在します。(例えば、ハードウェア、CPU 上の現在のロード、サーバー上で作動する他のアプリケーションのメモリの割り当てなどが挙げられます)。パフォーマンスを正確に測定するため、データの量、条件、およびビジネスの環境に近い状態でアプリケーションをテストしてください。

以下の情報により必要なコアを見積もることができます: [Altova MyCollections アプリ](#) は Android で使用することができます。

MobileTogether Server のiOS およびWindows プラットフォームは4コアマシンで作動するマシンにインストールされます。このドキュメントの作成時(2019年3月) Google Play 統計によると [MyCollections アプリ](#) は Android クライアントデバイスがダウンロードされています(iOS とWindows データは対応するストアより公開されていません)。統計を考慮し、[MyCollections アプリ](#) 内の機能を評価すると、MobileTogether Server 機能に関連するコアの処理能力を見積もることができます。

4 サーバーの手順

このセクションは重要なサーバーの手順について説明します。Mobile Together Server に既にライセンスが供与されていると仮定します。メモ、しかし、Mobile Together Server にアクセスするには、LicenseServer と Mobile Together Server の両方が開始され、サービスが作動していなければなりません。

- [Altova LicenseServer の開始](#) ¹⁶
- [Mobile Together Server の開始](#) ¹⁸
- [SSL 暗号化のセットアップ](#) ²⁰
- [管理者とモバイルクライアント ポート](#) ²⁵
- [ユーザーとロール](#) ²⁹
- [使用可能な特権](#) ³²
- [ファイアウォールの構成](#) ³⁵
- [サービスの構成](#) ³⁶
- [ソリューションを使用する統計](#) ⁴⁰
- [クライアントの情報](#) ⁴⁵
- [Mobile Together Server のバックアップと復元の方法](#) ⁴⁶

ビデオデモ

下のリンクにより Mobile Together Server の構成方法を示す Altova Web サイト上のビデオとブログのポストに移動することができます。

- [Mobile Together Server のインストールと構成](#) Mobile Together Server と Altova LicenseServer をインストールし、Mobile Together Server を企業のファイアウォールの背景で作動する方法について説明しています。
- [Mobile Together Server をネットワーク上で構成する方法](#) Mobile Together Server がネットワークの外部および内部の両方から接続できるようにするためポートをセットアップする方法について説明しています。
- [Altova ブログポスト](#) は Mobile Together Server をネットワーク内で構成する方法について説明しています。

4.1 Altova LicenseServer の開始

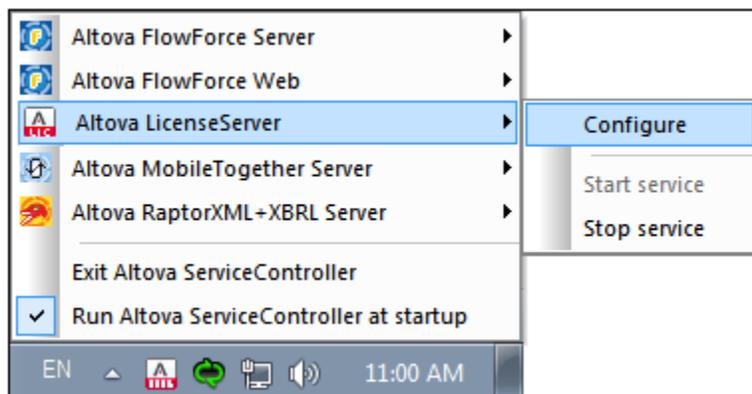
インストールを実行する方法 Altova サーバー製品(i) FlowForce Server; (ii) RaptorXML(+XBRL) Server; (iii) MobileTogether Server; (iv) MapForce Server; (v) StyleVision Serverのインストールを実行する場合、ネットワーク上の Altova LicenseServer によりインストールライセンスが供与されていなければなりません。接続された MobileTogether Server のインストールが実行されるためには LicenseServer はサービスとして、常時作動している必要があります。LicenseServer を停止すると、すべての接続された MobileTogether Server インストールが停止されます。この状態が発生した場合、LicenseServer を再起動する必要があります。。

LicenseServer の開始および停止は以下の通りです:

▼ Windows

システムトレイにある Altova ServiceController から LicenseServer を開始することができます。

最初に「スタート | すべてのプログラム | Altova LicenseServer | Altova ServiceController」をクリックして Altova ServiceController を開始すると、システムトレイアイコンが表示されます(下部スクリーンショット参照)。スタートアップ時に Altova ServiceController を作動する (Run Altova ServiceController at Startup) オプションを選択すると、Altova ServiceController はシステム起動時に開始され、以降システムトレイで使用可能となります。



LicenseServer を開始するには、システムトレイのサービスコントローラー (ServiceController) アイコンをクリックします。ポップアップメニューの **Altova LicenseServer** をポイントして、(下部スクリーンショット参照)、LicenseServer サブメニューからサービスの開始 (Start Service) を選択します。LicenseServer が既に作動している場合、「Start Service」オプションが無効化されます。

LicenseServer を停止するには、LicenseServer サブメニューから「サービスの停止」(Stop Service) を選択します(上部スクリーンショット参照)。

▼ Linux

LicenseServer を Linux システムでサービスとして開始する場合、ターミナルウィンドウで以下のコマンドを実行します:

```
sudo systemctl start licenseserver
```

(LicenseServer を停止する場合、上記コマンドで start を stop に置換えてください。)

▼ macOS

LicenseServer を macOS システムでサービスとして開始する場合、ターミナルウィンドウで以下のコマンドを実行します:

```
sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.altova.LicenseServer.plist
```

LicenseServer を停止する必要がある場合、以下を使用してください!

```
sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.altova.LicenseServer.plist
```

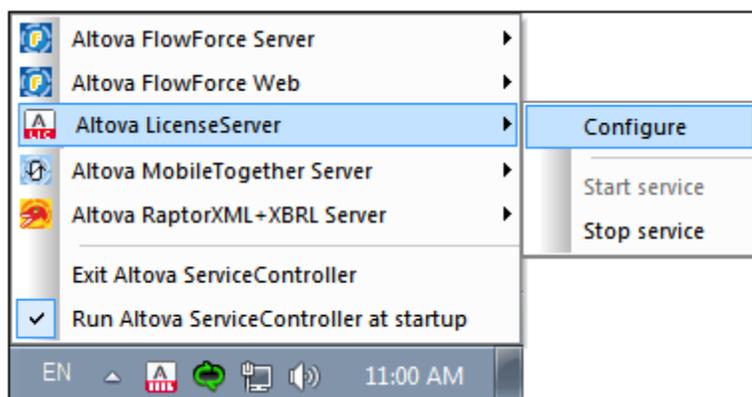
4.2 MobileTogether Server の開始

MobileTogether Server を作動するには、MobileTogether Server をサービスとして開始する必要があります。手順は以下の通りです。

▼ Windows

システムトレイにある Altova ServiceController から MobileTogether Server を開始します。

最初に「スタート | すべてのプログラム | Altova LicenseServer | Altova ServiceController」をクリックして Altova ServiceController を開始すると、システムトレイにアイコンが表示されます（下部スクリーンショット参照）。スタートアップ時に Altova ServiceController を作動する (Run Altova ServiceController at Startup) オプションを選択すると、Altova ServiceController はシステム起動時に開始され、以降システムトレイで使用可能となります。



MobileTogether Server を開始するには、システムトレイのサービスコントローラ (ServiceController) アイコンをクリックします。ポップアップしたメニューの **MobileTogether Server** をポイントして、（下部スクリーンショット参照）、MobileTogether Server サブメニューからサービスの開始 (Start Service) を選択します。**MobileTogether Server** が既に作動している場合、Start Service オプションは無効化されます。

MobileTogether Server を停止するには、MobileTogether Server サブメニューから「サービスの停止」(Stop Service) を選択します（上部スクリーンショット参照）。

▼ Linux

MobileTogether Server を Linux システムでサービスとして開始する場合、ターミナルウィンドウで以下のコマンドを実行します：

```
sudo systemctl start mobiletogetherserver
```

（ MobileTogether Server を停止する場合、上記コマンドで start を stop に置換えてください。）

▼ macOS

MobileTogether Server を macOS システムでサービスとして開始する場合、ターミナルウィンドウで以下のコマンドを実行します：

```
sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.altova.MobileTogetherServer.plist
```

MobileTogether Server を停止する場合以下を使用します:

```
sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.altova.MobileTogetherServer.plist
```

メモ MobileTogether Server にライセンスが割り当てられていない場合、then MobileTogether Server は起動後24時間後に自動的にシャットダウンされます。このようなシャットダウンの後、上記で説明される通りにMobileTogether Server を再起動します。MobileTogether Server のライセンスの供与後、24時間後に自動的にシャットダウンされることはありません。

4.3 SSL 暗号化のセットアップ

MobileTogether Server と MobileTogether Client デバイスの通信が暗号化された SSL プロトコルの使用を必要とする場合、以下の手順が必要です:

- SSL 秘密キーを生成し、SSL 公開キー証明書ファイルを作成する。
- SSL 通信のため MobileTogether Server をセットアップする。

手順は以下に説明されています。

MobileTogether はオープンソースの [OpenSSL toolkit](#) を使用して、SSL 暗号化を管理します。したがって、[OpenSSL](#) が利用可能なコンピュータで以下のステップは実行される必要があります。[OpenSSL](#) は通常、Linux と macOS コンピューターで既にインストールされています。また、[Windows で動作するコンピュータにインストール](#)することもできます。バイナリのインストーラーのダウンロードのリンクに関しては [OpenSSL Wiki](#) を参照してください。

1. 秘密キーの生成

SSL MobileTogether Server に秘密キーがインストールされることを必須とします。この秘密キーは、MobileTogether Client アプリへ送信されるすべてのデータを暗号化するために使用されます。秘密キーを作成するには、以下の OpenSSL コマンドを使用します:

```
openssl genrsa -out private.key 2048
```

これにより `private.key` という、秘密キーを含むファイルが作成されます。ファイルの保存場所をメモしてください。秘密キーは以下が必要です (i) 証明書署名要求 (CSR) の生成、および (ii) MobileTogether Server へインストールする際 (以下ステップ 8 参照)。

2. 証明書の署名要求 (CSR)

証明書署名要求 (CSR) は [VeriSign](#) または [Thawte](#) などの証明機関 (CA) に送信されます。CSR は秘密キーに基づき、組織の情報を含まれます。以下の OpenSSL コマンド (ステップ 1 でパラメータの 1 つとして作成された秘密キーファイル) の手順を踏んで CSR を作成します:

```
openssl req -new -nodes -key private.key -out my.csr
```

CSR の生成中、以下にリストされる所属組織の情報を提供する必要があります。この情報は企業のアイデンティティを検証するために使用されます。

- 国名
- 地域 (ビジネスが位置する都市)
- 組織 (企業名)。特殊文字を使用しないでください! 証明書が無効になります
- 共通名 (サーバーの DNS 名)。サーバーの公式名、つまりクライアントアプリがサーバーに接続する際使用する DNS 名、と一致する必要があります。
- チャレンジパスワード。この要素は空白にしてください!

3. SSL 証明書の購入

SSL 証明書は [VeriSign](#) または [Thawte](#) などの認識された証明機関 (CA) から購入してください。ここからの手順に関しては、VeriSign 手順に従ってください。他の証明機関での手順も類似しています。

- [VeriSign Web サイト](#) に移動します。
- SSL 証明書の購入をクリックします。

- 異なる種類の SSL 証明書が使用可能です。MobileTogether Server には Secure Site または Secure Site Pro 証明書で十分です。拡張検証 (EV) は、ユーザーが閲覧できる緑のアドレスバーが存在しないため必要ありません。
- 署名手続きの手順に従い、注文に必要な情報を入力してください。
- (ステップ2 で作成された) CSR がプロンプトされた場合、`my.csr` ファイルのコンテンツを注文フォームにコピーして貼り付けてください。
- クレジットカードで証明書の支払をしてください。

証明書の取得には時間がかかる場合があります

キー証明書を SSL 証明機関 (CA) から取得するには、通常 2~3 営業日 かかります。MobileTogether Server セットアップの際この点に留意してください。

4. 証明機関からの再帰的公開キー

証明機関は 2 ~ 3 営業日で登録プロセスを完了します。この間、電子メールまたは電話で DNS ドメインで SSL 証明書をリクエストする許可があるかの認証が行われます。このプロセスを完了するために関連機関に協力してください。

認証と登録プロセスが完了すると、SSL 証明書の公開キーを含む電子メールが送信されます。公開キーは書式なしテキストフォームまたは添付された `cer` ファイルで送信されます。

5. 公開キーをファイルに保存する

MobileTogether Server との使用の場合、公開キーは `.cer` ファイルで保存される必要があります。公開キーがテキストで提供された場合、以下の範囲の全てのラインをコピーして

```
--BEGIN CERTIFICATE--
...
--END CERTIFICATE--
```

`mycertificate.cer` と呼ばれるテキストファイルに貼り付けてください。

6. CA の中間証明書をファイルに保存する

SSL 証明書を完了するには、追加証明書が必要になります。プライマリとセカンダリ中間証明書。証明機関 (CA) は Web サイトに中間証明書をリストします。

- Verisign の中間証明書: https://knowledge.verisign.com/support/ssl-certificates-support/index?page=content&id=AR657&actp=LIST&viewLocale=en_US
- Verisign の Secure Site 製品の中間証明書: <https://knowledge.verisign.com/support/ssl-certificates-support/index?page=content&id=AR1735>

両方のプライマリとセカンダリ中間証明書をコピーして貼り付け、使用するコンピュータに個別のテキストファイルとして保存します。

7. 1 つの公開キー証明書ファイルに証明書をまとめる

3 つの証明書ファイル

- 公開キー (`mycertificate.cer`)
- セカンダリ中間証明書

- プライマリ中間証明書

各証明書は以下のような括弧の3行のテキストブロックを含みます:

```
--BEGIN CERTIFICATE--  
...  
--END CERTIFICATE--
```

3 つすべての証明書を1つのファイルに順番にコピーして貼り付けます。シーケンスの順番は重要です: (i) 公開キー、(ii) セカンダリ中間証明書、(iii) プライマリ中間証明書。証明書同士の間には空白行がないよう注意してください。

```
--BEGIN CERTIFICATE--  
    公開キー from mycertificate.cer (ステップ5 参照)  
--END CERTIFICATE--  
--BEGIN CERTIFICATE--  
    セカンダリ中間証明書 (ステップ6 参照)  
--END CERTIFICATE--  
--BEGIN CERTIFICATE--  
    プライマリ中間証明書 (ステップ6 参照)  
--END CERTIFICATE--
```

結合された証明書テキストに **publickey.cer** というファイル名を与えます。これがSSL 証明書の公開キー証明書ファイルです。このファイルは、CA により証明書を証明する際に使用される公開キー証明書と中間証明書の書式の完全な信頼チェーンを含みます。公開キーファイルは秘密キーと共に MobileTogether Server にインストールされます。(ステップ8 参照)。

8. MobileTogether Server に SSL 証明書をインストールする

SSL 証明書は、以下のファイルに保存された証明書のセットです:

- private.key: 秘密キー証明書を含みます
- publickey.cer: 公開キー証明書および証明機関の(プライマリとセカンダリ)証明書を含みます。

MobileTogether Server に SSL 証明書をインストールするには、以下の手順に従います:

- MobileTogether Server UI にログインします(デフォルトではサーバーのポート 8085)。
- 設定タブに移動します。
- SSL 証明書 (下部スクリーンショット参照) から2つの証明書ファイルをアップロードします。

SSL 証明書:

セキュリティ保護付き (SSL) 通信に必要な秘密キーと証明書を選択してください。
セキュリティ保護付き (HTTPS) ポートを使用するため有効な秘密キーと証明書が必要です。
秘密キー/証明書は PEM フォーマットでなければなりません。

秘密キー:

参照... ファイルが選択されていません。

証明書:

参照... ファイルが選択されていません。

第三者パーティ [Let's Encrypt](#) サービスを使用して安全な (SSL) 通信に必要な自動的に無料の証明書を取得することができます。
Encrypt サービスを使用するには、HTTP ポート 80 を使用する必要があります。

Let's Encrypt 証明書

- 秘密キーには **ステップ 1** で作成済み) `private.key` を選択します。
- 証明書には **ステップ 7** で作成済み) `publickey.cer` を選択します。
- 一般設定セクション下部にある「保存」をクリックして変更を保存します。

9. サーバーのHTTPS ポートを設定する

SSL 証明書をインストールした後、SSL クライアント通信のサーバーポートを指定することができます。以下の手順を踏みます：

- MobileTogether Server UI にログインします(デフォルトでは、サーバーのポート 8085 使用)。
- 設定タブに移動します。
- モバイルクライアント ポート(下部スクリーンショット参照) でHTTPS ポートが指定できます。

モバイルクライアントポート:

モバイルクライアントが利用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュリティ保護付き (HTTPS) を選択してください。
これらのポートは管理のために使用できません!

HTTP バインドアドレスを有効化する
● 全てのインターフェイス ○ ポート: 8082

HTTPS バインドアドレスを有効化する
● 全てのインターフェイス ○ ポート: 8084

匿名で自動的にログイン
 カスタム化されたログインとインデックスページを使用
 /mt-login を使用して MobileTogether のログインを許可する

HTTPS から MobileTogether Server へアクセスできるようにファイアウォールの設定を許可してください。

10. SSL 通信のテスト

SSL テストツールを使用して、HTTPS を介したサーバーからの安全な通信が作動しているかテストしてください。例えば、ブラウザを使用する場合、以下の SSL テストサイトを使用することができます:

<https://sslttools.websecurity.symantec.com/checker/views/certCheck.jsp>

これにより以下が把握できます: (i) 公開キーファイルが適切にステップ 7 の中間信頼チェーンと共に構築されているか、および (ii) サーバーが適切にファイアウォールを介して接続できるか。

11. MobileTogether ClientのSSLの使用を有効化する

SSL-有効化された MobileTogether Server と通信する MobileTogether Client アプリでは、SSL 暗号化 チェックボックスをチェックすることで SSL 通信が有効となります。このチェックボックスを検索するには、MobileTogether Client ドキュメンテーションを参照してください。

4.4 管理者とモバイル クライアントポートの設定

管理者ポートは MobileTogether Server の Web UI に接続するために使用されますが、モバイルクライアントポートはモバイルデバイスが MobileTogether Server のサービスに接続するために使用されます。

管理者ポートの設定

管理者ポートは以下の目的のためにアクセスを提供します:

- サーバーの Web UI に接続して、[ユーザーとロール](#)⁵⁷ などの設定などの管理機能を実行します。
- MobileTogether デザインを (MobileTogether ソリューションとして) サーバーにデプロイします。MobileTogether Designer はデザインをデプロイするための MobileTogether Server のアドレスとポートを指定する設定があります。

管理者ポート:

管理者が使用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュリティ保護付き (HTTPS) ポートを選択してください。

サーバー構成、ユーザー、ロール、ユーザーライセンスの管理、ワークフローのデプロイ、およびワークフローのシミュレーションのためにこれらのポートを使用することができます。

HTTPS バインドアドレスの有効化

全てのインターフェイス ポート: 8085

HTTPS バインドアドレスの有効化

全てのインターフェイス ポート: 8086

ホスト名:

Altova ServiceController から管理者ページを開く際にホスト名を指定してください。これにより、URL に証明書が一致しない際に表示されるブラウザ警告を回避することができます。

HTTP ポートはセキュリティ保護なしポート; HTTPS は保護付きポートです。HTTPS を使用する場合は [SSL 暗号化](#)²⁰ をセットアップする必要があります。HTTPS ポートを設定し、URL に一致しない SSL 証明書に関する警告を回避するには、MobileTogether Server 構成ページが開かれるコンピューターのホスト名を指定します。

サーバーが特定の IP アドレス、または、全てのインターフェイスと IP アドレスを使用するかを指定することができます。単一の IP アドレスが使用される場合、ラジオボタンの 2 番目のフィールドに入力してください。

モバイルクライアントポートの設定

サーバーに接続するためにモバイルデバイスが使用するポート。HTTP ポートはセキュリティ保護なしポート。HTTPS は保護付きポートです。HTTPS を使用する場合は [SSL 暗号化](#)²⁰ をセットアップする必要があります。サーバーが特定の IP アドレス、または、全てのインターフェイスと IP アドレスを使用するかを指定することができます。単一の IP アドレスが使用される場合、ラジオボタンの 2 番目のフィールドに入力してください。

モバイルクライアントポート:

モバイルクライアントが利用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュリティ保護付き (HTTPS) を選択してください。

これらのポートは管理のために使用できません!

- HTTP バインドアドレスを有効化する
- 全てのインターフェイス ポート: 8082
- HTTPS バインドアドレスを有効化する
- 全てのインターフェイス ポート: 8084
- 匿名で自動的にログイン
- カスタム化されたログインとインデックスページを使用
- /mt-login を使用して MobileTogether のログインを許可する

匿名として自動的にログインする

選択された場合、クライアントに自動的に `anonymous`⁵⁹ としてログインされます。ログインページがスキップされると、サーバーの最初のページが直接表示されます。最初のページはルートフォルダを表示する基準のページ、または定義されたカスタムページを表示します(次の点参照)。このオプションが選択されていない場合、クライアントは適切な資格情報必要とするデフォルトのログインページからログインします。もし、匿名のログインが選択されている場合、対応する特権⁵⁹を `anonymous`⁵⁹ のために設定してください。

ユーザーによりカスタム化されたログインとインデックスページ

カスタム化されたログインページと最初のページが使用される場合このオプションを選択します。これにより、自身のエンドポイントをクライアントのためにデザインすることができます。カスタム化されたページを以下のようにセットアップします:

- 2つのHTML ページを作成します。それぞれ `login.html` と `index.html` 名前をつけます。
- MobileTogether Server アプリケーションデータフォルダ内にある、**インデックス** フォルダにこれら2つのファイルを保存します(下のテーブル参照)。イメージファイルとCSS ファイルなどの追加ファイルは、**インデックス** フォルダのサブフォルダに保存することができます(例えば、`static` と呼ばれる仮定しましょう)。

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Mac	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

サンプルログインページとサンプルの最初(index)のページのロードのリストは以下に表示されています。リストは、基本的かつ変更する事が可能です。

login.html

```
<!DOCTYPE html>
<html>
  <head>
    <meta http-equiv="Cache-Control" content="no-store"/>
```

```
<title>Customized Login</title>
</head>
<body>
  <div>
    <h1>Sign in</h1>
    <p>A bare-basics custom page for client logins to MobileTogether Server.
    Modify this page as required, and use the Static sub-folder to save CSS
    stylesheets, images, etc.</p>
    <form method="post" action="/do_login" name="loginform">
      <table>
        <!-- The user to login -->
        <tr>
          <td>
            <label for="username">Username:</label>
          </td>
          <td>
            <input type="text" name="username" id="username" size="30"/>
          </td>
        </tr>
        <!-- The password of the user -->
        <tr>
          <td>
            <label for="password">Password:</label>
          </td>
          <td>
            <input type="password" name="password" id="password" size="30"/>
          </td>
        </tr>
      </table>
      <!-- The Active Directory domain details -->
      <h2>Active Directory Login:</h2>
      <table>
        <tr>
          <td>
            <label for="providernam-prefix">Domain prefix:</label>
          </td>
          <td>
            <input type="text" name="providernam-prefix"
            id="providernam-prefix" value="" />
          </td>
        </tr>
        <tr>
          <td>
            <label for="providernam-suffix">Domain suffix:</label>
          </td>
          <td>
            <input type="text" name="providernam-suffix"
            id="providernam-suffix" value="" />
          </td>
        </tr>
      </table>
      <!-- The Sign-In button -->
      <input type="submit" value="Sign in"/>
      <!-- The page to redirect to after a successful login. -->
      <input type="hidden" name="from_page" value="/index"/>
    </form>
  </div>
</body>
</html>
```

□ *index.html*

```
<html>
  <head>
    <meta http-equiv="Cache-Control" content="no-store" />
    <title>Custom Index</title>
  </head>
  <body>
    
    <hr />
    <p><a href="/do_logout">Logout</a></p>
    <h1>MobileTogether Custom Login</h1>
    <p><a href="/run?d=/public/About">Start the About app</a></p>
    <p><a href="/run?d=/public/DateCalc">Start the Date Calculator app</a></p>
    <p><a href="/run?d=/public/WorldPopulation">Start the World Population
Statistics app</a></p>
  </body>
</html>
```

メモ ユーザーがドメインユーザーの場合、ログインの資格情報は以下のような書式になります: `domainPrefix@domainSuffix`。
例: ドメインユーザーが `someUserName@someDomain.altova.com` の場合、ドメインプレフィックスは `someUserName` でドメインサ
フィックスは `@someDomain.altova.com` です。

/mt-login を使用してログインすることを許可する

このオプションは、ログインが、カスタム化されたログインとインデックスページを使用せずに、デフォルトのログインページと最初のページを使用して行われることを指定します。このオプションにより、`login.html` と `index.html` ファイルを保存先に保管しつつ、デフォルトページを使用することができます。クライアントまたはブラウザ設定は、この設定の効果を有効にするために、ブラウザのキャッシュを削除することを必要とするかもしれないことに注意してください。

4.5 ユーザーとロール

ユーザーアカウントはログイン名とパスワードで定義され、関連したアクセスの権利を持ちます。ユーザーは MobileTogether Server に管理のためにモバイルクライアントのエンドユーザーとしてアクセスします。

アクセスの権利はユーザーに与えられた特権により決められます。ユーザーは以下の方法で特権を得ることができます: (i) ユーザーがメンバーであるロールから継承された特権、(ii) ユーザーに直接割り当てられた特権。ロールは特権のセットから定義されています。ロールは特権を直接割り当てられるか、メンバーである他のロールから継承されます。特権は多種の MobileTogether Server 管理機能およびサービスにアクセスする権利です。特権の例: サーバー設定の管理、ユーザーのパスワード設定、サーバーでのシミュレーションの実行。

ロールの使用により、ユーザー特権は階層的に定義されます。例えば、SimpleAdmin のロールはサーバー設定の管理の特権を許可できます。AdvancedAdmin が SimpleAdmin のメンバーの場合、サーバー設定の管理を継承し、追加的にユーザーの管理、ロールと特権などの特権を割り当てることができます。階層的なチェーンは更に展開できます。特権のリストに関しては[使用可能な特権](#)³²を参照してください。

▼ ユーザーに関して

ユーザーは名前とパスワードの組み合わせにより定義されます。MobileTogether Server のユーザーアクセスには2つの方法があります:

- **Web UI アクセス** Web UI は MobileTogether Server の管理インターフェイスです。Web UI にログインするには名前とパスワードの組み合わせが必要です; このため、ユーザーとして実行されます。
- **サービス インターフェイス** HTTP サービスインターフェイスにより、MobileTogether Server のサービス、通常モバイルデバイスの MobileTogether Client アプリ、が公開されます。ユーザーは、名前とパスワードを使用してサービスインターフェイスにアクセスします。公開されるサービスは通常 MobileTogether のシミュレーションに関連したデータへのアクセスです。

2つの特別なユーザーは定義済みです:

root	root 最初の管理者ユーザーです。このユーザーは最も有力なユーザーで、すべての特権を持ち、他のユーザーの追加やロールの設定を行うことができます。このユーザーの最初の名前とパスワードは root-root です。パスワードは随時変更することができます。
anonymous	anonymous は匿名のユーザーのアカウントで、HTTP サービスインターフェイスを介してサービスにアクセスします。このユーザーは、最初のパスワードがないため、トップレベルの Web UI にログインすることができません。

▼ 特権に関して

特権はユーザーが実行を許可されたアクティビティです。MobileTogether Server 特権には定数があり、ユーザーにはゼロから利用可能なすべての特権を割り当てることができます。ですが、ユーザーに直接特権を割り当てるだけでなく、ロール別に特権を割り当てることも推奨されます(以下のセクション参照)。特権とロールの割り当ては最初この特権を割り当てられたユーザーにより実行されます。最初ユーザーがこの特権を有します。

以下のスクリーンショットにすべての利用可能な特権が表示されています。

特権

- ユーザー、ロール、特権の管理
- セキュリティの制限を無視
- クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。)
- フィルター処理なしのログの表示
- 概要のキャッシュの表示
- ユーザーライセンス概要の表示
- ユーザーとロールの読み取り
- サーバー設定の管理

- ワークフローのトレース
(「ファイルヘログ オプションが有効化されている場合、ファイルへ(作業中 XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する)

- 統計の読み取り
(サーバーの統計の読み取りを有効化します)

- データベース構造の読み取り
- グローバルリソースの読み取り
- グローバルリソースの書き込み
- デザイナーからワークフローを開く
- デザイナーからのワークフローの保存
- サーバー シミュレーションの実行

タブ [ユーザーとロール/レポート/特権レポート](#) ⁶⁸ ですべての特権がリストされています。各特権はその特権を有するすべてのユーザーロールと共にリストされています。

▼ ロールに関して

ロールは特権のセットです。ロールは他のロールまたはユーザーに割り当てることができます。ロールの特権は自動的に他のロールまたはそのロールを割り当てられたユーザーに与えられます。ユーザーは、いつでもロールを割り当てることができます。その結果、ユーザーは、割り当てられたロールに定義されたすべての特権を有することができます。

以下のロールは定義済みです:

- **authenticated** は **anonymous** 以外のすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。つまり、名前とパスワードを持つユーザーは **authenticated** ロールが割り当てられます。
- **all** は **anonymous** を含むすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。
- **workflow-designer** は MobileTogether Designer 内のワークフローをデザインするユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、ワークフローの開始や保存、またサーバーからのシミュレーションの実行ができます。
- **workflow-user** はモバイルデバイスでワークフローを実行しているユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、サーバーにログインし、クライアントでシミュレーションを開始することなく、サービスインターフェイスにアクセスできます。
- **admin** は使用することのできるすべての特権を持ち、管理者としてのユーザーによる使用が想定されています。

4.6 使用可能な特権

特権は多種の MobileTogether Server 管理機能およびサービスにアクセスする権利です。ユーザーが Web UI またはサービスインターフェイスを通じて MobileTogether Server にログインすると、ユーザーのアクセス権利がユーザーの特権によって決められます。特権はユーザーに直接的にまたは [ユーザーとロール](#)⁵⁷ タブのロールを介して割り当てられます。

特権

- ユーザー、ロール、特権の管理
- セキュリティの制限を無視
- クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。)
- フィルター処理なしのログの表示
- 概要のキャッシュの表示
- ユーザーライセンス概要の表示
- ユーザーとロールの読み取り
- サーバー設定の管理

- ワークフローのトレース
(“ファイルヘログ” オプションが有効化されている場合、ファイルへ(作業中 XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する)

- 統計の読み取り
(サーバーの統計の読み取りを有効化します)

- データベース構造の読み取り
- グローバルリソースの読み取り
- グローバルリソースの書き込み
- デザイナーからワークフローを開く
- デザイナーからのワークフローの保存
- サーバー シミュレーションの実行

使用可能な特権については下で説明されています。

☐ ユーザー、ロール、特権の管理

この特権を有するユーザーは、ユーザーとロール、特権の割り当て、パスワードの作成、削除、および編集することができます。これは管理特権で MobileTogether の管理者のみに割り当てられます。デフォルトでは、ユーザー“root”のみがこの特権を持ちます。

☐ パスワードの設定

この特権を持つユーザーは自身のパスワードを変更できます。この特権を持たないユーザーのパスワードは MobileTogether 管理者が設定します。デフォルトでは、“認証された”ロールと、したがって、“anonymous”以外のすべてのユーザーアカウントがこの特権を持ちます。

☐ セキュリティの上書き

この特権を持つユーザーは、セキュリティ書き込みがパーミッションを必要とせず、コンテナの階層内のパーミッションを変更することができます。これにより、Mobile Together 管理者は間違えてアクセス不可のユーザーに与えられてしまったり、リソースを取り戻すことができます。これは管理特権で Mobile Together の管理者のみが割り当てられます。デフォルトでは root のみがこの特権を有しています。

❑ クライアントに保存されたパスワードの使用の許可

ユーザーがクライアントに保存されたパスワードを使用することを許可します。ユーザーは認証が必要ありません。

❑ フィルター処理無しログの表示

デフォルトでは、ユーザーは「読み込み」アクセスのある構成に関連するログエントリのみを確認することができます。この特権を与えるとユーザーは、特定の構成に関連しないすべてのログエントリを閲覧することができます。デフォルトでは root のみがこの特権を有しています。

❑ キャッシュ概要のビュー

ユーザーにサーバーでのキャッシュの概要の閲覧を許可します。

❑ ユーザーライセンスのビュー

ユーザーにサーバーでのライセンスの概要の閲覧を許可します。

❑ ユーザーとロールの読み取り

デフォルトでは、ユーザーは、自身のユーザーアカウントとメンバーであるロールのみを閲覧することができます。この特権を与えるとユーザーは、全ての定義済みのユーザーとロールを閲覧することができます。デフォルトでは root のみがこの特権を有しています。

❑ サーバー設定の管理

ユーザーに [サーバーの設定](#)⁷⁸ の編集を許可します。

❑ ワークフローのトレース

ロググループの設定ダイアログボックスの「ファイルディレクトリへのログ」オプションが有効化されている場合、ファイルへログする詳細付きワークフローを許可します。

❑ 統計の読み取り

サーバーの統計は、内部データベースでトラックされており、statistics.mtd ソリューションを開くことにより読み取ることができます。この特権によりユーザーはサーバーの統計の読み取りを許可されます。[統計がトラックされる期間をゼロではなく数字に設定する](#)⁷⁸ ことによりこの機能を有効化します。詳細に関しては[統計設定の説明](#)⁷⁸ を参照してください。

❑ データベース構造の読み取り

サーバー上のデータベースへの読み取り書き込みアクセスをユーザーに許可します(管理者ポートとサーバー設定の管理を介してサーバーにアクセスする特権が与えられていることが前提で、書き込みアクセスは明示的になります)。この特権が与えられていない場合 [サーバー側のDB接続](#)⁷⁸ は表示されません。

❑ グローブ・リソースの読み込み

この特権を持つユーザーにサーバーからグローブ・リソースエイリアス構成の読み込みを許可します。

❑ グローブ・リソースへの書き込み

この特権を持つユーザーにサーバーからグローブ・リソースエイリアス構成に書き込み保存することを許可します。

☐ デザイナーからワークフローを開く

ユーザーにMobileTogether デザインファイルをサーバーから開くことを許可します。ホストログイン詳細はメニューオプション「ファイル | MobileTogether サーバーから開く」を選択します。

☐ デザイナーからワークフローを保存する

ユーザーにMobileTogether デザインファイルをサーバーへ保存/デプロイすることを許可します。ホストログイン詳細はメニューオプション「ファイル | MobileTogether サーバーにデプロイする」を選択します。

☐ サーバーシミュレーションの実行

この特権を持つユーザーはブラウザーからシミュレーションを実行し結果をプレビューすることができます。ブラウザーを戻すことによりリテナービューに戻ることができます。

4.7 ファイアーウォールの構成

サーバーIP アドレスとネットワークファイアーウォールの設定

使用中のサーバーは(インターネットを介してアクセスすることのできる) 公開されたIP アドレス およびまたは(例えば、企業内ネットワーク内のWiFi など、プライベートのネットワーク内でアクセスすることのできる) プライベートのIP アドレスを持つことができます。もし、モバイルクライアントデバイスがインターネットにサーバーのプライベートのIP アドレスを使用して、アクセスした場合、アクセスがうまくいきません。これは、プライベートのIP アドレスは、インターネット上で知られておらず、解決することができないからです。クライアントデバイスが、プライベートのIP アドレスを使用する場合、クライアントデバイスはプライベートネットワークへのアクセスを既に取得している必要があります。

サーバーへのアクセスを確実にするために、以下を行ってください！

- インターネットを介してアクセスできるように、サーバーに公開されたIP アドレスを与えます。クライアントデバイスでは、この公開されたIP アドレスを使用してサーバーにアクセスします。
- ファイアーウォールを使用しており、Mobile Together Server をサーバーにプライベート IP アドレスを使用してプライベートのネットワーク内にインストールする場合、ネットワークのファイアーウォールを使用して、公開されたIP アドレスポートの組み合わせに送信されたリクエストを使用中のMobile Together Server サーバーに転送します。クライアントデバイスでは、公開されたIP アドレスを使用してください。

Mobile Together Client 通信のために使用されるサーバーポートが使用されてサーバーへのアクセスが許可されるようファイアーウォールが構成されていることを確認してください。Mobile Together Server で使用されるポートは、Mobile Together Server の Web UI の設定ページで指定することができます。(*Mobile Together Server ユーザーマニュアル* を参照してください)。クライアントデバイスでは、これはアクセスするサーバーポートとして指定されている必要があります。

ヒント: ポート 80 はデフォルトで通常ほとんどのファイアーウォールに対して開かれています。ですから、ファイアーウォールの設定で問題が起らない限り、ポート 80 が他のサービスにバインドされていない場合、ポート 80 をクライアントとの通信用の Mobile Together Server ポートとして指定することができます。

4.8 サービスの構成

サーバーサービスはサービスリソースとして MobileTogether Designer 内で作成された MobileTogether アクションのセットで .mtd ファイルとして保存されます。サービスリソースは MobileTogether Designer から **MobileTogether Server Advanced Edition** にデプロイされます。サービス内で定義されるアクションは、MobileTogether Server 条件(おぼはトリガー)のセットが満たされると実行されます。このセクションは、トリガーの定義方法について説明しています。サービスのための複数のトリガーを作成することができ、定義済みのトリガーを有効化、おぼは、無効化することができます。

メモ サービスのリソースファイル(.mtd ファイル)は、MobileTogether Designer 内で作成される必要があります。詳細に関しては [MobileTogether Designer ドキュメント](#) を参照してください。

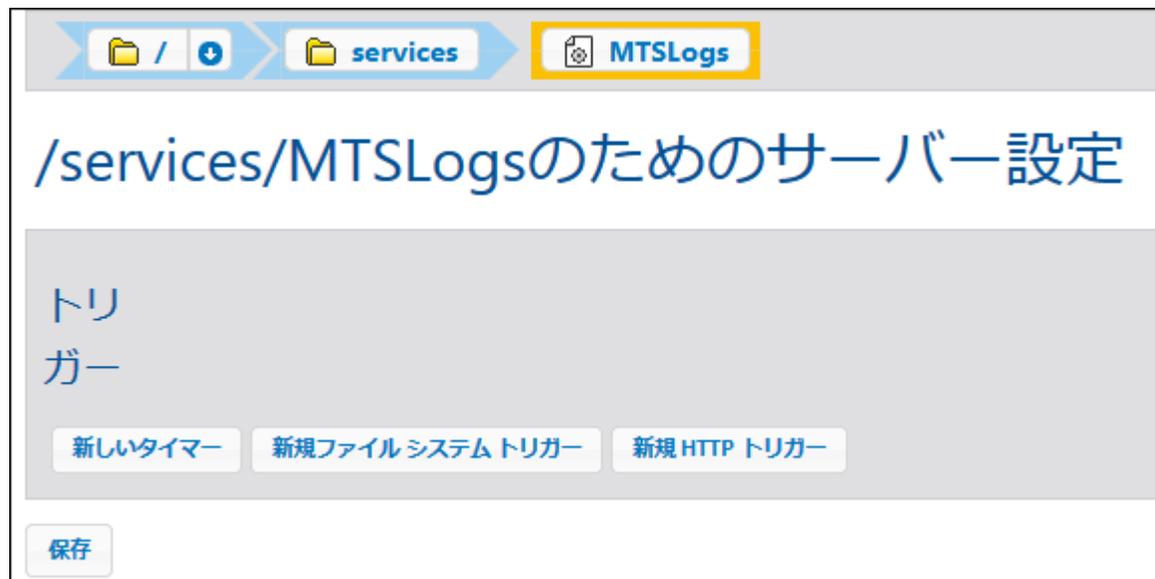
サーバーの構成 インターフェイスへのアクセス

サービスが(MobileTogether Designer から)デプロイされている場合、他のリソース同様、ワークフロータブ内に表示されます。ブラウザ内で実行列内のサービスの構成 ボタンにより他のリソースからサービスを区別することができます(下のスクリーンショットを参照)。下のスクリーンショットでは MTSLogs と呼ばれるサービスが /services コンテナにデプロイされています。サーバーの構成(おぼは設定) インターフェイスにアクセスするには、「サービスの構成」をクリックします。



サービスの構成(設定) インターフェイス

サーバーの構成(おぼは設定) インターフェイスにより、サービスを実行するトリガーを定義し管理することができます(下のスクリーンショットを参照)。



次の種類のトリガーを作成することができます:

- 特定の期間内でどの日時にどの頻度でサービスが実行されるか指定することができる [タイマートリガー](#)³⁷。
- サーバー上のファイル、または、ディレクトリ上の変更をチェックして、サービスをトリガーすることができる [ファイルシステムトリガー](#)³⁸。
- 指定済みのURI ロケーションのソースへの変更をチェックしてサービスをトリガー可能にする [HTTPトリガー](#)³⁹。

トリガーを追加するには、トリガーの種類に対応するボタンをクリックします。トリガーの各種類に関しては、このセクションのサブセクションで詳細に説明されています。トリガーの作成後、トリガーの右側にあるボタンを使用して管理してください。

	サービスをすぐに実行します。ファイルシステムトリガーのために無効化されています。ファイルディレクトリ変更がサービスをトリガーするためにリダンダントになります。
	トリガーの複製。
	トリガーの削除。
	前の削除アクションを元に戻します。

トリガーフィールドの一部では  と  ボタンが横に表示されています。これらのボタンを使用して、トリガーフィールドの値を設定、または、クリアすることができます。ページ内で表示されている値は設定されているものとして扱われます。例えば、下のスクリーンショットでは Repeat の値が設定されていませんが Start の値は 2018-01-26、00:00:00 に設定されています。

トリガー

実行 毎 日

繰り返し

開始:

サービスの設定の保存方法

サービスのトリガーを設定すると、ページの下にある「保存」をクリックして設定を保存します。

4.8.1 タイマーのトリガー

タイマーのトリガーにより、指定されている期間内でどの頻度、どのタイミングでトリガーが実行されるか定義することができます。下のスクリーンショットは(Firefox 内のUI で開かれた場合の)タイマーのトリガーの設定の定義方法を表示しています。

トリガーは次のパラメータの手助けにより定義されています:

- **名前:** トリガーの名前(トリガーの識別子としての役割を果たす文字列です)。
- **実行:** トリガーが1度、または、毎 N 日ごとで実行されるか定義します。
- **繰り返し:** サービスの頻度を定義します: 指定された期間内で毎 x 分ごと。
- **開始、終了:** サービスが実行される期間の開始、および、終了をそれぞれ定義します。
- **タイムゾーン:** 開始と有効期限フィールドの値のタイムゾーンを指定します。
- **有効化済み:** このチェックボックスによりトリガーを有効化/無効化することができます。

4.8.2 ファイルシステムのトリガー

ファイルシステムのトリガーにより、追加されたファイル、または、変更されたファイルなどの変更のために、ファイル、または、ディレクトリを監視することができます(削除されたファイルを監視できないことにご注意ください)。ポーリング間隔を構成することができ、トリガーの開始、及び、終了の日付を任意で設定することができます。ワイルドカードを使用して、ディレクトリ内の特定のファイルをフィルタすることもできます。下のスクリーンショットは(Firefox 内の UI で開かれた場合)のファイルシステムのトリガーの設定の定義方法を示しています。

トリガーは次のパラメータの手助けにより定義されています:

- **名前:** トリガーの名前(トリガーの識別子としての役割を果たす文字列です)。
- **コンテンツのチェック:** 指定されているファイル、または、ディレクトリ内のファイルのハッシュコードを計算し保管します。ポーリング間隔が変更されると、ハッシュコードは再度計算され、保管されている値と比較されます。差分が生じると、トリガーが実行されます(ディレクトリがチェックされると、サーバーに多量のロードが課されることにご注意ください)。トリガーはまた、新規のファイルがディレクトリに追加された場合、または、日付が変更された場合トリガーが実行されることにご注意してください。
- **変更された日付のチェック:** 最後に変更されたタイムスタンプをチェックします。変更されている場合、トリガーが実行されます。
- **ポーリング間隔:** ファイル、または、ディレクトリがポーリングされる際に使用される頻度を秒数で指定します。
- **解決するまで N 秒待つ:** 次のサービスが開始する前にサーバーが待つ時間を秒数で定義します。
- **開始、終了(任意):** サービスが実行される期間の開始、および、終了をそれぞれ定義します。

- **タイムゾーン**: 開始と有効期限フィールドの値のタイムゾーンを指定します。
- **有効化済み**: このチェックボックスによりトリガーを有効化/無効化することができます。

4.8.3 HTTP トリガー

HTTP トリガーにより、Last-Modified と Content-MD5 HTTP ヘッダーフィールドへの変更をチェックすることにより、変更のための URI を監視することができます。ポーリング間隔を構成することができ、トリガーの開始と終了の期間を任意で設定することができます。下のスクリーンショットは(Firefox 内の UI で開かれた場合の) HTTP トリガーの設定の方法が表示されています。

トリガーは次のパラメーターの手助けにより定義されます:

- **名前**: トリガーの名前はトリガーの識別子としての役割を果たす文字列です。
- **コンテンツのチェック**: 任意の HTTP ヘッダー Content-MD5 をチェックします。これはメッセージの整合性チェックとして使用される 128 ビット "ダイジェスト" です。ヘッダーがポーリング間隔が過ぎた後に変更されると、トリガーが実行されます。ヘッダーが HTTP ロケーションのサーバーで提供されていない場合、コンテンツが抽出され、ローカルでキャッシュされます。キャッシュは次のポーリングの際に比較されます。
- **変更された日付のチェック**: HTTP ヘッダー Last-Modified. ヘッダーが不足している場合、Content-MD5 ヘッダーがチェックされます (上記を参照)。
- **ポーリング間隔**: URI がポーリングされる際に使用される頻度を秒数で指定します。
- **解決するまで N 秒待つ**: 次のサービスが開始する前にサーバーが待つ時間を秒数で定義します。
- **開始、終了 (任意)**: サービスが実行される期間の開始、および 終了をそれぞれ定義します。
- **タイムゾーン**: 開始と有効期限フィールドの値のタイムゾーンを指定します。
- **有効化済み**: このチェックボックスによりトリガーを有効化/無効化することができます。

4.9 ソリューションを使用する統計

ソリューションを使用する統計はデフォルトで `/admin` コンテナ内にある **Statistics** ソリューションで確認することができます。**Statistics** ソリューションは、ユーザーにより選択された期間の個々のソリューションについての統計を表示します。ユーザーの数、デバイスまたはオペレーティングシステムの種類、ピークタイムの使用状況など多様なフィルターを使用することができます。

下のスクリーンショットは **Statistics** ソリューションの紹介ページを表示しています。



統計ソリューション: セットアップ

MobileTogether Server バージョン 4.0 以降から **Statistics** ソリューションは MobileTogether Server にデプロイ済みでソリューションは `/admin` コンテナに存在します。**Statistics** ソリューションは、レポートを向上するために定期的に更新されます。ソリューションの最新のバージョンの機能を活用するために **Statistics** ソリューションの最新のバージョンに更新することが奨励されます。

使 (4.0 より古いバージョンであるため) 用中のバージョンが **Statistics** ソリューションをデプロイしていない場合、またはソリューションの最新バージョンに更新する場合は、以下を行います:

1. 最新のバージョン (現在は 7.2) に MobileTogether Server ソフトウェアを更新します。
2. URL: `http://<serverIPAddressOrName>:8085/` を入力して、Web ブラウザーから MobileTogether Server **管理者インターフェイス**⁴⁹ にアクセスします。
3. ログイン情報を入力し、**ワークフロー**⁵¹ に移動します。
4. 「コンテナの作成」をクリックして、コンテナ名として `admin` を入力し、「保存して移動する」をクリックします。

5. MobileTogether Designer 内で、**Statistics.mtd** ファイルを開きます。このファイルは MobileTogether Server AppData フォルダのソリューション フォルダ内にあります（下のテーブル参照）。
6. ファイル **Statistics.mtd** が MobileTogether Designer 内で開かれると、MobileTogether Server の **/admin** コンテナにデプロイします。MobileTogether Designer のメニューコマンド「ファイル | **MobileTogether Server** | デプロイする」を使用して行います。
7. MobileTogether Server **管理者インターフェイス**⁴⁹ 内で **設定**⁷⁸ タブに移動し **その他のタブの統計ペイン**⁹⁴ 内で **統計の制限** を正の整数に設定し統計データのトラッキングを有効化します。
8. ソリューション 統計を今後確認するには、Statistics ソリューションを開始し以下を行います：以下の手順を行ってください！ MobileTogether Server 管理者インターフェイス内で、設定 タブに移動し、統計ペイン 内で、set 統計の制限 を正の整数に設定し、統計データのトラッキングを有効化します。または、以下の URL を入力します：
http://<serverIPAddressOrName>:8085/run?d=/admin/Statistics/。

メモ Statistics ソリューションを希望するコンテナにデプロイすることができます。ソリューションを実行するには、正確なコンテナに移動するためにソリューションの URL を変更します。

異なるオペレーティングシステム上での MobileTogether Server AppData フォルダのロケーション

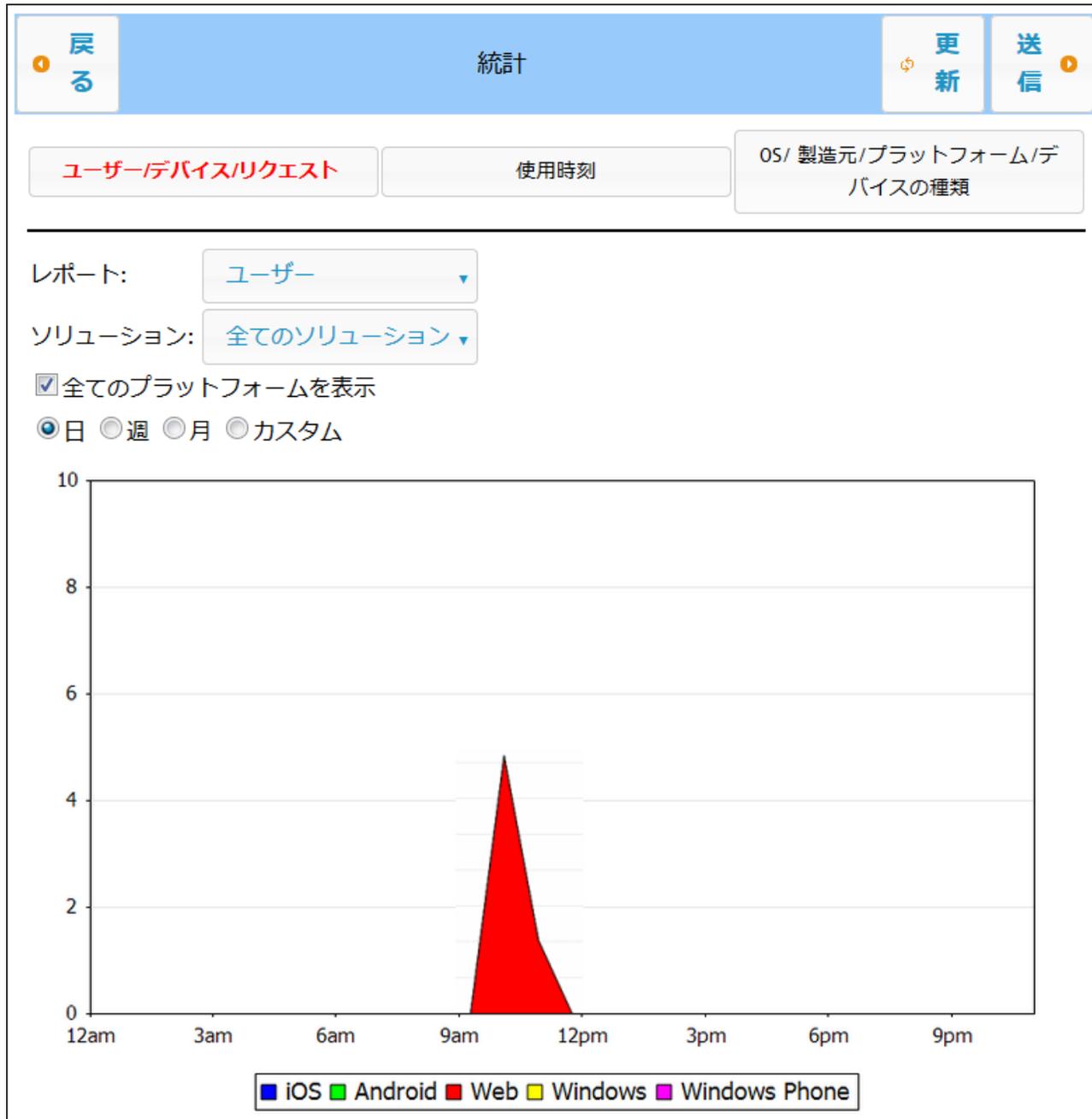
Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Mac	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

統計ソリューション 詳細

Statistics ソリューション インターフェイス（下のスクリーンショット）は3つのタブから構成されています：

- ユーザーデバイスリクエスト
- 時間別の使用状況
- OS/製造元/プラットフォーム/デバイスの種類

アクティブなタブが赤い色で表示されます（スクリーンショット参照）。



各タブには、2つまたは3つのフィルターが存在します。各タブ内のフィルターの一つは、常にソリューションフィルターです。これにより、サーバーにデプロイされている全てのソリューションから単一のソリューションを選択することができます。他のフィルターにより表示する統計のカテゴリを選択することができます。統計が表示される間隔の時刻を選択することができます。

ユーザーデバイスリクエスト

プラットフォームは異なる色により表示されています(上のスクリーンショットを参照)。すべてのプラットフォームを表示のチェックを解除すると、プラットフォームフィルターを使用して表示するプラットフォーム(iOS、Android、Web、Windows、およびWindows Phone)を選択することができます。レポートフィルター内で、以下から選択することができます:

- ユーザー: ユーザーの数量。
- デバイス: デバイスの数量。
- リクエストのカウント: リクエストの数量。
- リクエストの合計時間(秒): リクエストを処理するために使用された合計時間(秒)。
- リクエストの平均時間(ミリ秒): 単一のリクエストを処理するための平均時間(ミリ秒)。
- リクエストの最大時間(ミリ秒): 処理に最も長くかかったリクエストの処理時間(ミリ秒)。
- 開始するソリューション: プラットフォーム別に整理された開始するソリューション。
- 受信トラフィック(MB): MT クライアントからの受信トラフィックの総量(MB)。サーバーからMTサーバーへのHTTPトラフィックは含まれていません。
- 送信トラフィック(MB): MTクライアントへの送信トラフィックの総量(MB)。MTサーバーから他のサーバーへのHTTPトラフィックは含まれていません。
- 既読のファイル: サーバー上のすべての既読のファイルの総量。
- 書き込まれたファイル: サーバー上の書き込まれたファイル数量。
- 書き込まれたファイルサイズ(MB): サーバー上のすべての書き込まれたファイル総量。
- 書き込まれたファイルサイズ(MB): サーバー上のすべての書き込まれたファイル総量。
- データベースの読み取り/書き込み: ソリューション内で使用されているDBへの読み取り/書き込みの数量。または、DBからの読み取り/書き込みの数量からの数量。MT内部データベースは含まれていません。
- HTTPリクエスト: MTサーバーから他のサーバーへのHTTPリクエストの数量。
- HTTPリクエスト受信トラフィック(MB): 他のサーバーからMTサーバーへの受信HTTPトラフィック(MB)。MTクライアントとのトラフィックは含まれません。
- MTクライアントとのトラフィックは含まれません。他のサーバーからMTサーバーへの出力HTTPトラフィック(MB)。MTクライアントとのトラフィックは含まれません。
- イメージMTクライアントとのトラフィックは含まれません。
- イメージ: サーバー上でロードされたイメージの数量。
- チャート作成の合計時間(秒): サーバー上でチャートを生成するために使用された合計時間(秒)。
- チャート作成の平均時間(ミリ秒): 単一のチャートを生成するための平均時間(ミリ秒)。
- チャート作成の最長時間(ミリ秒): 単一のチャートを生成するために必要とされた最長時間(ミリ秒)。

すべてのプラットフォームを同時に表示するを選択した場合、すべてのプラットフォーム(iOS、Android、Web、Windows、およびWindows Phone)が一つのイメージ内に表示され、各プラットフォームが異なる色で表示されます。プラットフォームを同時に表示するオプションの選択が解除されている場合、各プラットフォームのイメージはプラットフォームフィルター内で対応するプラットフォームを個別に選択することにより表示されます。

時間別の使用状況

選択されたソリューションの使用状況を、過去の週の各日のための24時間を2時間の単位で表示してします。すべてのプラットフォームを表示のチェックを解除すると、プラットフォームフィルターを使用して表示するプラットフォーム(iOS、Android、Web、Windows、およびWindows Phone)を選択することができます。レポートフィルター内で、以下から選択することができます:

- ユーザー: ユーザーの数量。
- デバイス: デバイスの数量。
- リクエストのカウント: リクエストの数量。
- リクエストの合計時間(秒): リクエストを処理するために使用された合計時間(秒)。
- リクエストの平均時間(ミリ秒): 単一のリクエストを処理するための平均時間(ミリ秒)。
- リクエストの最大時間(ミリ秒): 処理に最も長くかかったリクエストの処理時間(ミリ秒)。
- 開始するソリューション: プラットフォーム別に整理された開始するソリューション。
- 受信トラフィック(MB): MTクライアントからの受信トラフィックの総量(MB)。サーバーからMTサーバーへのHTTPトラフィック

- は含まれていません。
- **送信トラフィック (MB):** MT クライアントへの送信トラフィックの総量 (MB)。MT サーバーから他のサーバーへの HTTP トラフィックは含まれていません。
 - **既読のファイル:** サーバー上のすべての既読のファイルの総量。
 - **書き込まれたファイル:** サーバー上の書き込まれたファイル数量。
 - **書き込まれたファイル サイズ (MB):** サーバー上のすべての書き込まれたファイル総量。
 - **書き込まれたファイル サイズ (MB):** サーバー上のすべての書き込まれたファイル総量。
 - **データベースの読み取り/書き込み:** ソリューション内で使用されている DB への読み取り/書き込みの数量。または、DB からの読み取り/書き込みの数量からの数量。MT 内部データベースは含まれていません。
 - **HTTP リクエスト:** MT サーバーから他のサーバーへの HTTP リクエストの数量。
 - **HTTP リクエスト受信トラフィック (MB):** 他のサーバーから MT サーバーへの受信 HTTP トラフィック (MB)。MT クライアントとのトラフィックは含まれません。
 - **MT クライアントとのトラフィックは含まれません。** 他のサーバーから MT サーバーへの出力 HTTP トラフィック (MB)。MT クライアントとのトラフィックは含まれません。
 - **イメージ MT クライアントとのトラフィックは含まれません。**
 - **イメージ:** サーバー上でロードされたイメージの数量。
 - **チャート作成の合計時間 (秒):** サーバー上でチャートを生成するために使用された合計時間 (秒)。
 - **チャート作成の平均時間 (ミリ秒):** 単一のチャートを生成するための平均時間 (ミリ秒)。
 - **チャート作成の最長時間 (ミリ秒):** 単一のチャートを生成するために必要とされた最長時間 (ミリ秒)。

OS/製造元/プラットフォーム/デバイスの種類

各必要条件 (OS、製造元、プラットフォーム、およびデバイスの種類) は、必要とされるインスタンスの選択されたソリューションの使用状況について表示します。例えば、プラットフォームの必要条件のために、各プラットフォームは総合の使用状況に対して表示されます。それぞれのケースにつき、円グラフで表示され、必要条件のインスタンスは円グラフの一部として表示されます。レポートフィルター内で、以下から選択することができます:

- **OS:** 各 OS は異なる色で表示されます。
- **製造元:** 各製造元は異なる色で表示されます。
- **プラットフォーム:** 各プラットフォームは異なる色で表示されます。
- **デバイスの種類:** 各デバイスの種類は異なる色で表示されます。

4.10 クライアントの情報

モバイルデバイス上の MobileTogether Client アプリは MobileTogether Server へ接続可能である必要があります。MobileTogether Client アプリには次のサーバー情報が必要とされています。

IP アドレス	MobileTogether Server の IP アドレス
ポート	モバイルクライアント ポート ²⁵ 設定により指定されている HTTP または HTTPS ポート
SSL	通信を SSL 暗号化するしない ²⁰
ユーザー名	ユーザーのログインに使用され、アクセス権利を決定する。 ユーザーとロール ²⁹ を参照。
パスワード	ユーザーアカウントのパスワード

メモ ウェブクライアントに保存されているデータは (Web ストレージとして知られる) ブラウザのローカルストレージに保存されています。HTML 5.0 ローカルストレージは以下のブラウザでサポートされます:

IE 8.0+	Firefox 3.5+	Safari 4.0+	Chrome 4.0+	Opera 10.5+	iPhone 2.0+	Android 2.0+
---------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------

クライアントデバイス上でサーバー設定の更新を行う

クライアントデバイスがリフレッシュを実行するときは、サーバーへのアクセスの設定がそのデバイスで構成される必要があります。サーバー設定が変更された場合、例えば、MobileTogether Server が異なる IP アドレスを有する他のマシンに移動された場合、クライアントデバイス上のサーバー設定は必要に応じて変更されなければなりません。MobileTogether Designer では、MobileTogether 関数 `mt-server-config-url` を使用して、次のような新しいサーバー設定を含む URL を生成することができます:

`mobiletogether://mt/change-settings?settings=<json encoded settings>`。この URL をクライアントユーザーに電子メールリンクとして送信することができます。リンクがタップされると、クライアント上のサーバー設定は自動的に更新されます。クライアント上のリンクがタップされると、設定は自動的に更新されます。URL 生成に関する詳細は、[MobileTogether Designer ユーザーマニュアル](#)を参照してください。

Web クライアント上で複数のワークフローを実行する方法

Web クライアントは個別のタブで複数のワークフロー (ソリューション) を並列に実行することができます。更に、前のワークフローはセッションがアクティブな間、メモリ内で保管されます。前のワークフローは F5 (再ロード) を押すことにより再ロードされます。以下の点に注意してください!

(i) 並列に複数のワークフローを実行すると、サーバーのメモリを使い切ります。(ii) アクティブなタブ内でのソリューションの実行中、背景タブ内のソリューションはタイムアウトする可能性があります。

4.11 MobileTogether Server のバックアップと復元

このセクションでは MobileTogether Server のバックアップおよび復元の方法が説明されます。

- MobileTogether Server のバックアップは、重要なアプリケーション データ ファイルを安全な場所 コピーすることにより構成されています。
- MobileTogether Server の復元は、バックアップされたファイルを新しいインストールされた場所 コピーすることにより構成されています。
- クライアントからサーバーへの接続をアップデートします。

これらの手順は下で説明されています。

MobileTogether Server のバックアップ

バックアップする前に、MobileTogether Server を停止する必要があります。(作業中のファイルとバックアップファイル間のDBの状態の不整合を防ぐためこの手順は必要です。)バックアップが必要な MobileTogether Server ファイルをデフォルトでアプリケーションデータフォルダーでロケートすることができます(下を参照)。`.cfg` 構成ファイルは [Web 管理インターフェイス](#)⁷⁸ または コマンドライン インターフェイスを使用して設定を変更する代わりにテキスト エディターで編集することができます。

アプリケーション データ フォルダーの場所は、オペレーションシステムとプラットフォームによります。

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Mac	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

下のテーブルは、アプリケーションデータフォルダー内のメインのファイルとフォルダーのリストを表しています。

cache	ソリューションのキャッシュのデフォルトのディレクトリ。キャッシュが使用できない場合は、ランタイムに自動的に作成されます。
logs	ログファイルのためのデフォルトのディレクトリは ファイル ディレクトリ ログ中 ⁷⁸ オプションが有効化されている場合、一般 MobileTogether Server ログのために作成されます。
SolutionFiles	デプロイされたソリューションから参照された XML またはイメージ ファイルのデフォルトのディレクトリ。
cert.pem	安全な(SSL) 通信に必要な PEM ファイル。
key.pem	安全な(SSL) 通信に必要な秘密キーを持つ PEM。
mobiletogether.db	これは、MobileTogether Server オブジェクト システム ユーザーデータ、デプロイされたソリューション、ファイル、および他を保管する、主なデータベース ファイル(SQLite) です。
mobiletogetherlog.db	MobileTogether Server ログを保管するデータベース ファイル(SQLite) です。
mobiletogetherserver.cfg	(ポート番号、ソリューション ディレクトリなどの) MobileTogether Server グローバル 構成設定 ⁷⁸ を保管します。
mobiletogetherserver.licsid	LicenceServer ¹³ クライアントに登録された ID を持つファイル。
mobiletogetherserver.licsvr	指定されている場合、LicenceServer とエールオーナーのアドレスを含むファイル。

メモ MobileTogether Server の各バージョンのインストールの前に、上記のファイルとフォルダーは、デフォルトで、アプリケーションデータフォルダー内のバックアップフォルダーにコピーされます（上を参照）。個々のバックアップフォルダーの名前にはバックアップデータと時刻が含まれています。次回のインストールまで自動バックアップを無効化するには、「[設定の設定セクションの更新 | その他](#)」⁹⁴ タブで設定します。

MobileTogether Server の復元

バックアップファイル（上を参照）から前のMobileTogether Server 構成を復元するには以下を行います：

1. バックアップするMobileTogether Server の同じバージョンをインストールします（上記参照）。
2. [MobileTogether Server を停止します](#) ¹⁸。
3. バックアップファイルを新規のインストールにコピーします（上記参照）。
4. [MobileTogether Server を開始します](#) ¹⁸。

クライアントからサーバーへの接続のアップデート

MobileTogether Server を他のマシンで新しいIP アドレスなどの新規文字列などと共に移動した場合、MobileTogether Server に接続する際クライアントデバイスの設定をアップデートする必要があります。詳細に関しては[クライアントの情報](#) ⁴⁵ を参照してください。

4.12 よくある質問

- ▼ *サーバー上に複数のワークフローが存在します。IBM DB2 データベースに接続するための、ADO 接続が新しいソリューションが追加されました。クライアントがソリューションにアクセスしようと試みると、Mobile Together Server がクラッシュします。ワークフローの削除を行っても改善されません。サーバーを再起動しない限り問題は解決されません。しかし、クライアントがソリューションにアクセスを試みる都度、同じ問題が発生します。どう対応したらよいのでしょうか？*

これは既知の問題であり、IBM DB2 または Informix データベースに関する問題です。ADO 接続を含むワークフローは、ワークフローが最初にサーバーにデータベースへの接続を命じるとクラッシュを起こす可能性があります。問題がワークフローの削除後も発生する場合は、サーバーのメモリ内に接続データの一部が保管されているからです。この接続データはサーバーが再起動された後にのみ削除されます。

5 Web UI リファレンス

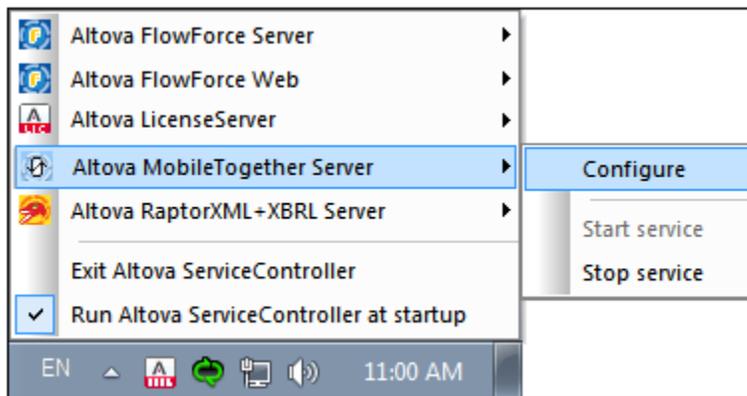
MobileTogether Server Web ユーザー インターフェイス (Web UI) により MobileTogether Server を簡単に構成することができます。Web UI はすべてのインターネット ブラウザーで開くことができ、[サポートされるオペレーティングシステム](#)⁹ で作動します。

MobileTogether Server の Web UI へのアクセス

Web UI へのアクセスは MobileTogether Server がインストールされているオペレーティングシステムによります。

▼ Windows

Web UI にアクセスするにはシステムトレイの **ServiceController** アイコンをクリックします。(下のスクリーンショット参照)。メニューの **Altova MobileTogether Server** をポイントしたときに表示される MobileTogether Server サブメニューポップアップから「Configure」を選択します。もし、MobileTogether Server が作動していない場合、**Start Service** オプションを選択して MobileTogether Server を開始してください。



サインインするには、パスワードとユーザー名を入力します。デフォルトの設定は次のとおりです。username/password は root/root。[アクティブ ディレクトリ ログイン](#)⁷⁸ を介した 1 つ以上のドメインが定義されている場合、(i) 定義されたドメインから選択、または(ii) (ドメインを介さず) 直接ログインを選択することのできるログインコンボボックスを使用することができます。

▼ Linux

Web UI にアクセスするには、ブラウザーのアドレスバーに URL を入力して、「Enter」を押します。(管理アクセス) のためのデフォルトは、Web UI ページの URL です：<http://<serverIPAddressOrName>:8085/>

サインインするには、パスワードとユーザー名を入力します。デフォルトの設定は次のとおりです。username/password は root/root。[アクティブ ディレクトリ ログイン](#)⁷⁸ を介した 1 つ以上のドメインが定義されている場合、(i) 定義されたドメインから選択、または(ii) (ドメインを介さず) 直接ログインを選択することのできるログインコンボボックスを使用することができます。

▼ Mac OS X

Web UI にアクセスするには、ブラウザーのアドレスバーに URL を入力して、「Enter」を押します。(管理アクセス) のためのデフォルトは、Web UI ページ URL のです：

<http://<serverIPAddressOrName>:8085/>

サインインするには、パスワードとユーザー名を入力します。デフォルトの設定は次のとおりです。username/password は root/root。[アクティブ/デレトリログイン](#)⁷⁸ を介した1 つ以上のドメインが定義されている場合、(i) 定義されたドメインから選択、または(ii) (ドメインを介さず) 直接ログインを選択することのできるログインエポボックスを使用することができます。

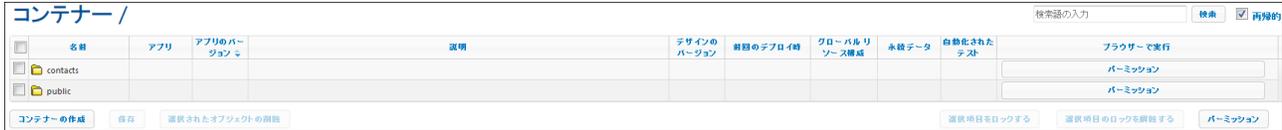
Web UI タブ

Web UI は Mobile Together Server の管理者インターフェイスです。多種の管理機能は以下の Web UI タブで使用可能です:

- [ワークロー](#)⁵¹: サーバーのコンテナ構造とコンテナのパーミッションを管理するインターフェイス。
- [ユーザーとロール](#)²⁹: ユーザーアカウントとロール、ユーザーとロールに関連した特権をセットアップします。ユーザーのアクセス権はこのタブで定義されます。
- [ユーザーライセンス](#)⁷⁰: 現在ライセンスを取得しているモバイルデバイスおよびライセンスの詳細を表示します。
- [ログ](#)⁷²: 選択されたフィルターに基づき、ログされたサーバーアクションを表示します。
- [キャッシュ](#)⁷⁴: このタブはサーバー上で現在使用可能なキャッシュの詳細を表示します。キャッシュはアクティブ化/非アクティブ化および削除することができます。
- [バックアップと復元](#)⁷⁶: (i) バックアップの構成のための設定 (ii) 使用することのできるバックアップから復元する機能を提供します。
- [設定](#)⁷⁸: アクセスポート、ログ設定、とサーバーセッションのタイムアウトなどの Mobile Together Server 設定がこのタブでできます。

5.1 ワークフロー

(*Advanced* エディションを表示している以下のスクリーンショット) ワークフロータブにより MobileTogether Server の `root` フォルダのコンテナ構成および各コンテナのアクセス権(パーミッション)を管理するインターフェイスが表示されます。コンテナはサブコンテナおよび `mtd` デザインファイルまたは `.mtd` ファイルとして知られるソリューションを含むフォルダです。MTD ファイルはサーバーの Web UI からコンテナに追加することはできず、MobileTogether Designer からサーバーにデプロイされます。デプロイ時、完全一致するコンテナへのアクセスが指定されなければなりません。これにより MobileTogether Designer 内の必要とされるコンテナを参照することが容易になります。



- ワークフロータブは、最初に `"/` 文字により表示される、`root` コンテナを表示します。
- コンテナ名の横の「下向きの」矢印をクリックし、そのコンテナのサブコンテナを表示します。ポップアップリスト内のサブコンテナをクリックし、サブコンテナに移動します。
- コンテナに移動する場合、クリックします。
- コンテナの階層内でレベルを掘り下げると、breadcrumbs / パスとしてウィンドウの上の部分で表示されます。各レベルの「下向きの」矢印により、異なるコンテナに簡単に移動できるように、そのコンテナのサブコンテナが表示されます。



- コンテナを選択するには、コンテナのチェックボックスを選択します。コンテナの名前の変更、移動、削除のために選択を使用することができます (記の機能の説明を参照してください)。

▼ 機能

タブのボタニには以下の機能が搭載されています:

コンテナの作成	現在のフォルダにコンテナを作成する。コンテナをクリックして開く。
保存	詳細の修正などの変更を保存する。
選択されたオブジェクトの移動、または、名前の変更	1つのオブジェクトが選択されると、以下を行うことのできる「名前の変更と移動」ダイアログが開かれます (i) 名前の変更 (ii) 新規のコンテナに対するオブジェクトの移動。複数のオブジェクトが選択されている場合、移動先のコンテナを選択することのできる移動ダイアログが開かれます。
選択されたオブジェクトの削除	選択されたコンテナまたはファイルを削除する
選択項目のロック	新規のデプロイはロックされているソリューションを上書きすることはできません。試みがある場合、エラーメッセージが MobileTogether Designer に表示されます。
選択項目のロックの解除	ロックされたソリューションのロックを解除します。
パーミッション	ユーザー/ロールが個々のコンテナにアクセスできるか、そのアクセスのレベルを設定する。
検索	入力された用語を検索する。再帰 をチェックして子孫コンテナを検索する。

他の利用可能なアクション:

- コンテナの階層を上向きにナビゲートする場合、ワークフロータブの 内の必要とされる先祖フォルダーをクリックします。
- コンテナの階層を下向きにナビゲートする場合、コンテナをクリックして開きます。
- ソリューションファイルの URL をクリックしてソリューションを実行します。

▼ コンテナ /public/

public コンテナをクリックして、コンテナを開きコンテンツを表示します。public は既定定義のコンテナでサンプルのデザインファイル(ソリューション)を含み、プログラムに含まれています。ソリューションの URL をクリックして実行します。

名前	アプリ	アプリのバージョン	説明	デザインバージョン	最後のデプロイ日時	グローバルリソース構成	永続データ	自動化されたテスト	ブラウザで実行
contacts									パーミッション
new									パーミッション
CityTimesViaSOAP			世界の都市の現在の時刻	3.0	2016-10-20 13:25:52	Default			http://127.0.0.1:8085/mtde-public/CityTimesViaSOAP
logTime	logTime	1.0	Altova logTime custom app	3.0	2016-10-20 13:01:38	Default			

▼ コンテナのコンテンツの表示

コンテナはサブコンテナおよび/またはデザインファイルまたは .mtd ファイルとして知られるソリューションを含むフォルダーです。各コンテナのコンテンツは表形式リストとして表示されます。テーブルの列はソリューションのプロパティを表示します:

- **名前:** MobileTogether Designer で保存されたソリューションの名前
- **アプリ、アプリバージョン:** (ページの上の最初のスクリーンショット参照) アプリとアプリバージョンの列は AppStore App がサーバーにデプロイされた場合のみ表示されます ([Mobile Together Designer ユーザーマニュアル](#)参照)。AppStore App とバージョンの名前がそれぞれ表示されます。
- **説明:** ソリューションの短い説明
- **デザインのバージョン:** ソリューションが作成された MobileTogether Designer のバージョン
- **前回のデプロイ:** ソリューションが前回最後にデプロイされた日時。
- **グローバルリソース構成:** ソリューションのために定義されたサーバーにデプロイされたグローバルリソース。グローバルリソースが指定されていない場合、Default が表示されます。
- **言語:** ソリューションが **サービスソリューション**³⁶ サービスソリューションの場合、ソリューションの言語を選択することのできるドロップダウンメニュー付きのボタンを使用できるようになります。ドロップダウンリストのアイテム、ソリューション内で定義されている自動と言語名。使用する言語を選択します: 自動を選択すると **Mobile Together Server の言語**¹²² (サーバーの言語) がソリューションの言語として使用されます。ソリューションがサーバーの言語でローカライズされていない場合、ソリューションのデフォルトの言語がソリューションの言語として使用されます。ソリューションのデフォルトの言語がデザイン内で明示的に与えられていない場合、ドロップダウンリスト内で **デフォルト** とリストされます。
- **永続データ:** ソリューションを実行中にデータが変更された場合、「データをクリア」ボタンがこの列に表示されます。変更を元に戻した場合はこのボタンをクリックします。
- **自動化されたテスト:** 青色のホイールは、そのソリューションの自動化されたテストが、アクティブではありませんが、少なくとも1つ存在することを示しています。赤いホイールは、使用することのできるテストラの少なくとも1つのテストがアクティブであることを示しています。デザインのテストラのアクティブ化、または、クライアント上でテストラかのように実行されるか決定するには、ソリューションのホイールアイコンをクリックしてください(上のスクリーンショット内で表示されています)。これは、そのソリューションの自動化されたテストを表示するページを表示します(次のセクション参照)。自動化されたテストの情報に関しては、[Mobile Together Designer](#) ドキュメントを参照してください。
- **ブラウザでの試行:** ソリューションファイルがデプロイされるサーバー。クリックしてソリューションを実行します。ソリューションが **サーバーサービス**³⁶ を定義する場合、**サーバーの構成、インターフェイス**³⁶ にアクセスするためにこの列内の「サーバーの構成」ボタンをクリックします。(Web ブラウザーで AppStore App を開くことができないため、AppStore Apps のために、URL は表示されません)。

▼ 自動化されたテスト

ソリューションの自動化されたテストの列のホイールアイコンをクリックすると、そのソリューションの自動化されたテストを示す構成ページが表示されます（下のスクリーンショット）。

名前	クライアント	開始	長さ (秒)	アクティブ	実行の速度	ログアクション	各ステップの後に自動的に スタックアクションを作成する	スタックウォッチ セット	スタックウォッチ インフォ	スタックウォッチ スタイル	スタックウォッチ クライアント ビュー
<input checked="" type="checkbox"/> CityTimes01-Cities	simulating Samsung Galaxy S3	2016-10-14 14:11:21	57.965	<input checked="" type="checkbox"/>	元の速度	<input checked="" type="checkbox"/>					
<input checked="" type="checkbox"/> CityTimes02-UTC	simulating Samsung Galaxy S3	2016-10-14 14:16:49	81.562	<input checked="" type="checkbox"/>	元の速度	<input checked="" type="checkbox"/>					
<input checked="" type="checkbox"/> CityTimes03-Refresh	simulating Samsung Galaxy S3	2016-10-14 14:20:02	944.117	<input checked="" type="checkbox"/>	元の速度	<input checked="" type="checkbox"/>					

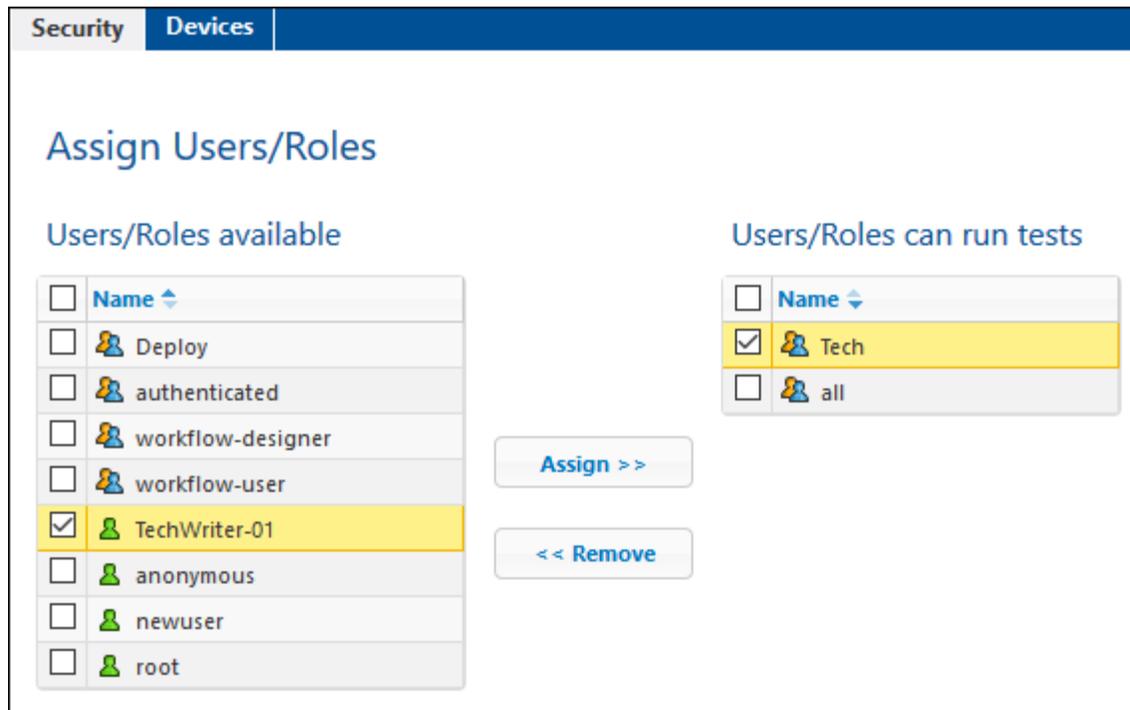
自動化されたテストのページは、選択されたソリューションのためにデプロイされたテストの実行のすべてを表示します。クライアント上での再生のためのこのテストの実行を以下のようにセオアップすることができます。

1. 「アクティブ」の列から、アクティブ化するテストランをチェックします。これらのテストはクライアント上で再生されます。クライアント上で自動化されたテストが開始される際、自動化された複数のテストランが選択されると、選択されたすべてのテストランが再生されます。ソリューションのテストランがアクティブ化されていると、ワークフローのページで、デザインの「自動化されているテスト」の列に赤いホイールのアイコンが表示されます。Web クライアント上でテストを再生する場合、ワークフローページで自動化されたテスト列内の再生 アイコンをクリックします。
2. ランの種類列内でのテストランの速度を設定します。列のヘッダーのドロップダウンリストから速度を選択して全てのテストランのための速度を設定することができます。
3. 再生中のログの詳細を設定します。希望する列のチェックボックスをチェックしておこないます。これらのオプションに関する詳細は [Mobile Together Designer ドキュメント](#) 内の自動化されたテストのセクションを参照してください。
4. 「保存」をクリックして完了します。

テストランを削除する場合は、左側の列のチェックボックスを選択して、「選択項目の削除」をクリックしてください。

パーミッション

自動化されたテスト ページの下の部分で次を指定することができます（下のスクリーンショット）: (i) (セキュリティ タブ内) ユーザーとロールが実行することができる選択されたソリューションのために自動化されたテスト、(ii) (デバイス タブ内で選択することのできるテストを実行することのできるデバイス。



- ユーザーとロールはセキュリティタブ内で選択され、デバイスタブ内でデバイスが選択されます（上のスクリーンショットを参照）。
- 許可済みのリストにユーザー・ロール、または、デバイスを割り当てるには、左側のペイン内で選択し、「割り当て」をクリックします（上のスクリーンショットを参照）。
- 許可済みのリストからユーザー・ロール、または、デバイスを「削除」をクリックすることにより、削除することができます。
- 1度に複数の選択を割り当て、または、削除することができます。
- 許可済みのリストにデバイスが割り当てられていない場合、ソリューションのためのテストランはすべてのデバイス上で実行することができます。

メモ（2018年2月27日にリリースされた）バージョン4.1 にサーバーをアップグレードする前の自動化されたテストには全てのユーザー・ロールのためのセキュリティ・パーミッションが提供されます。すなわちすべてのユーザー・ロールはアップグレード以前と同様に振る舞う自動化されたテストを実行することができます。バージョン4.1以降にデプロイされた自動化されたテストではセキュリティ・パーミッションはユーザー・ロール無しに設定されています。すなわち自動化されているテストを実行するユーザーまたはロールは指定されていません。

▼ パーミッション

パーミッションはアクセス権で、各コンテナに個別に設定することができます。パーミッションはコンテナにアクセスできるユーザーおよびロール、ユーザー・ロールなどの種のアクセス（読み込み、書き込み、使用）を持つかを決定します。アクセス権はコンテナ、ワークフロー（またはソリューション）、セキュリティへの書き込み読み込みを設定します。

[/ public / contactsのパーミッション](#)

ユーザーまたはロール名	パーミッション	
anonymous	コンテナー: 読み取り, 書き込み ワークフロー: 読み取り, 書き込み, 使用 セキュリティ: 読み取り	変更
authenticated	コンテナー: 読み取り ワークフロー: 読み取り, 書き込み, 使用 セキュリティ: 読み取り	変更
root	コンテナー: 読み取り, 書き込み ワークフロー: 読み取り, 書き込み, 使用 以下から継承: authenticated セキュリティ: 読み取り, 書き込み	変更

[パーミッションの追加](#)

□ パーミッションの継承ルール

- コンテナのパーミッションは親コンテナから継承されます。
- ユーザーのパーミッションはユーザーがメンバーのロールすべて、また直接ユーザー割り当てられたパーミッションから継承されます。
- ユーザーのルールの継承は前例をコンテナ階層ルールより優先します
- ユーザーがメンバーであるロールのパーミッションが再定義された場合、この特定のパーミッションのコンテナ階層の継承はオーバーライドされます。

パーミッションはすべてのユーザーインタラクションで確認されます。全ての必要なパーミッションが与えられている場合、ユーザーはアクセスおよび読み編集をすることができます。パーミッションは次のグループのために設定されます:

コンテナ

- **読み込み:** ユーザーはコンテンツをリストし、コンテナ内のオブジェクトを検索することができます。
- **読み込み書き込み:** 読み込みを追加して、適応されるパーミッションにより、新しいオブジェクトを作成 (そして既存のオブジェクトを削除する) ことができます。
- **継承:** 親コンテナからパーミッションを継承します。
- **アクセス無し:** コンテナからのアクセスが与えられていません。

ワークフロー

- **読み込み:** ユーザーはリクエストを実行できます。
- **読み込み書き込み:** ユーザーは更にデプロイリクエストであるリクエストを上書きすることができます。
- **継承:** 親コンテナからパーミッションを継承します。
- **アクセス無し:** ワークフローへのアクセスが与えられていません。

セキュリティ

- **読み込み:** ユーザーはコンテナの子オブジェクトのパーミッションリストを読み込むことができます。
- **読み込み書き込み:** ユーザーはコンテナの子オブジェクトのパーミッションリストを追加的に変更することができます。
- デフォルトでは、ユーザーは割り当てられたロールのメンバーであるパーミッションを読み込むことを許可されています。ユーザーの読み込みとロールの特権が与えられている場合、ユーザーはすべてのパーミッションエントリを読み込むことができます (see [ユーザーとロール](#)⁵⁷ を参照)。
- **継承:** 親コンテナからパーミッションを継承します。
- **アクセス無し:** パーミッションへのアクセスが与えられていません。

□ コンテナのパーミッションの編集

1. コンテナの横の「パーミッション」ボタンをクリックします。これによりコンテナのパーミッションページに移動します (下部のスクリーンショット)。

[/ public / contacts](#)のパーミッション

ユーザーまたはロール名	パーミッション	
anonymous	コンテナ: 読み取り, 書き込み ワークフロー: 読み取り, 書き込み, 使用 セキュリティ: 読み取り	変更
authenticated	コンテナ: 読み取り ワークフロー: 読み取り, 書き込み, 使用 セキュリティ: 読み取り	変更
root	コンテナ: 読み取り, 書き込み ワークフロー: 読み取り, 書き込み, 使用 セキュリティ: 読み取り, 書き込み	変更

パーミッションの追加

2. 既に許可されているユーザーロールアクセス権を編集するには「変更」ボタンをクリックします(上のスクリーンショット参照)。新しいユーザーロールへパーミッションを追加するには「パーミッションの追加」をクリックしてください。これらのボタンにより「パーミッションの変更」ペインが開かれます。

パーミッションの編集

すべてに対してセット:

コンテナ:

ワークフロー:

セキュリティ:

3. パーミッションの編集ペイン内で、チェックボックスをチェックして、ユーザーロールを選択します。既存のパーミッションを編集する場合、パーミッションはこのユーザーロールから継承されます。パーミッションを追加する場合、ユーザーロールがこのコンテナの許可済みのユーザーロールに追加されます。(MobileTogether Server または Directory Service) 検索ボックス内で、 MobileTogether Server または、有効化済みのドメインのために定義されている [ユーザー](#)⁵⁹ と [ロール](#)⁶² を選択します。ドメインのユーザーとロールはドメインの管理者により定義されます。 [Active Directory Login 設定](#)⁸⁷ が [設定タブ](#)⁷⁸ で有効化されている場合ペイン内で使用することができます。
4. 必要に応じてパーミッションを変更します。継承オプティオはパーミッションが親コンテナから継承されるパーミッションです。

5.2 ユーザーとロール

ユーザーとロールタブ (下部のスクリーンショットは *Advanced Edition* を表示していません) には4つのサブタブがあります。タブ() これらのサブタブはユーザーアカウントを管理するために共に使用されます。ユーザーアカウントは特権のためにセトアップされ構成されます。レポートサブタブでアカウントのサマリーが閲覧できます。詳細に関しては、サブセクションを参照してください。

▼ ユーザーに関して

ユーザーは名前とパスワードの組み合わせにより定義されます。MobileTogether Server のユーザーアクセスには2つの方法があります:

- **Web UI アクセス** Web UI はMobileTogether Server の管理インターフェイスです。Web UI にログインするには名前とパスワードの組み合わせが必要です; このため、ユーザーとして実行されます。
- **サービス インターフェイス** HTTP サービスインターフェイスにより、MobileTogether Server のサービス、通常モバイルデバイスのMobileTogether Client アプリ、が公開されます。ユーザーは、名前とパスワードを使用してサービスインターフェイスにアクセスします。公開されるサービスは通常MobileTogether のリソースと関連したデータへのアクセスです。

2つの特別なユーザーは定義済みです:

root	root 最初の管理者ユーザーです。このユーザーは最も有力なユーザーで、すべての特権を持ち、他のユーザーの追加やロールの設定を行うことができます。このユーザーの最初の名前とパスワードは root-root です。パスワードは随時変更することができます。
anonymous	anonymous は匿名のユーザーのアカウントで、HTTP サービスインターフェイスを介してサービスにアクセスします。このユーザーは、最初のパスワードがないため、トップレベルのWeb UI にログインすることができません。

▼ 特権に関して

特権はユーザーが実行を許可されたアクティビティです。MobileTogether Server 特権には定数があり、ユーザーはゼロから利用可能なすべての特権を割り当てることができます。ですが、ユーザーに直接特権を割り当てるだけでなく、ロール別に特権を割り当てることも推奨されます(以下のセクション参照)。特権とロールの割り当ては最初この特権を割り当てられたユーザーにより実行されます。最初ユーザーはこの特権を有します。

以下のスクリーンショットにすべての利用可能な特権が表示されています。

特権

- ユーザー、ロール、特権の管理
- セキュリティの制限を無視
- クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。)
- フィルター処理なしのログの表示
- 概要のキャッシュの表示
- ユーザーライセンス概要の表示
- ユーザーとロールの読み取り
- サーバー設定の管理

- ワークフローのトレース
(「ファイルヘログ オプションが有効化されている場合、ファイルへ(作業中XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する)

- 統計の読み取り
(サーバーの統計の読み取りを有効化します)

- データベース構造の読み取り
- グローバルリソースの読み取り
- グローバルリソースの書き込み
- デザイナーからワークフローを開く
- デザイナーからのワークフローの保存
- サーバー シミュレーションの実行

タブ [ユーザーとロール/レポート/特権レポート](#) ⁶⁸ ですべての特権がリストされています。各特権はその特権を有するすべてのユーザー/ロールと共にリストされています。

▼ ロールに関して

ロールは特権のセットです。ロールは他のロールまたはユーザーに割り当てることができます。ロールの特権は自動的に他のロールまたはそのロールを割り当てられたユーザーに与えられます。ユーザーはいつでもロールを割り当てることができます。その結果、ユーザーは割り当てられたロールに定義されたすべての特権を有することができます。

以下のロールは定義済みです:

- **authenticated** は **anonymous** 以外のすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。つまり、名前とパスワードを持つユーザーは **authenticated** ロールが割り当てられます。
- **all** は **anonymous** を含むすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。
- **workflow-designer** は MobileTogether Designer 内のワークフローをデザインするユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、ワークフローの開始や保存、またサーバーからのシミュレーションの実行ができます。

- `workflow-user` はモバイルデバイスでワークフローを実行しているユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、サーバーにログインし、クライアントでシミュレーションを開始することなく、サービスインターフェイスにアクセスできます。
- `admin` は使用することのできるすべての特権を持ち、管理者としてのユーザーによる使用が想定されています。

5.2.1 ユーザー

ユーザーとロール/ユーザータブ(下部スクリーンショット)では(ユーザー名をクリックすることにより)すべてのユーザーを表示、新しいユーザー作成、ユーザーのプロファイルにアクセス、ユーザーの削除が行えます。



▼ ユーザーに関して

ユーザーは名前とパスワードの組み合わせにより定義されます。Mobile Together Server のユーザーアクセスには2つの方法があります:

- **Web UI アクセス** Web UI は Mobile Together Server の管理インターフェイスです。Web UI にログインするには名前とパスワードの組み合わせが必要です; このため、ユーザーとして実行されます。
- **サービスインターフェイス** HTTP サービスインターフェイスにより、Mobile Together Server のサービス、通常モバイルデバイスの Mobile Together Client アプリ、が公開されます。ユーザーは、名前とパスワードを使用してサービスインターフェイスにアクセスします。公開されるサービスは通常 Mobile Together のシミュレーションに関連したデータへのアクセスです。

2つの特別なユーザーは定義済みです:

<code>root</code>	<code>root</code> 最初の管理者ユーザーです。このユーザーは最も有力なユーザーで、すべての特権を持ち、他のユーザーの追加やロールの設定を行うことができます。このユーザーの最初の名前とパスワードは <code>root-root</code> です。パスワードは随時変更することができます。
<code>anonymous</code>	<code>anonymous</code> は匿名のユーザーのアカウントで、HTTP サービスインターフェイスを介してサービスにアクセスします。このユーザーは、最初のパスワードがないため、トップレベルの Web UI にログインすることができません。

▼ 特権に関して

特権はユーザーが実行を許可されたアクティビティです。Mobile Together Server 特権には定数があり、ユーザーにはゼロから利用可能なすべての特権を割り当てることができます。ですが、ユーザーに直接特権を割り当てるだけでなく、ロール別に特権を割り当てること

が推奨されます(以下のセクション参照)。特権とロールの割り当ては最初この特権を割り当てられたユーザーにより実行されます。最初にはユーザーがこの特権を有します。

以下のスクリーンショットにすべての利用可能な特権が表示されています。

特権

- ユーザー、ロール、特権の管理
- セキュリティの制限を無視
- クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。)
- フィルター処理なしのログの表示
- 概要のキャッシュの表示
- ユーザーライセンス概要の表示
- ユーザーとロールの読み取り
- サーバー設定の管理

- ワークフローのトレース
(「ファイルヘログ オプションが有効化されている場合、ファイルヘ(作業中XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する)

- 統計の読み取り
(サーバーの統計の読み取りを有効化します)

- データベース構造の読み取り
- グローバルリソースの読み取り
- グローバルリソースの書き込み
- デザイナーからワークフローを開く
- デザイナーからのワークフローの保存
- サーバー シミュレーションの実行

タブ [ユーザーとロール/レポート/特権レポート](#) ⁶⁸ ですべての特権がリストされています。各特権はその特権を有するすべてのユーザー/ロールと共にリストされています。

▼ ロールに関して

ロールは特権のセットです。ロールは他のロールまたはユーザーに割り当てることができます。ロールの特権は自動的に他のロールまたはそのロールを割り当てられたユーザーに与えられます。ユーザーは、いくつかのロールを割り当てることができます。その結果、ユーザーは、割り当てられたロールに定義されたすべての特権を有することができます。

以下のロールは定義済みです:

- **authenticated** は **anonymous** 以外のすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。つまり、名前とパスワードを持つユーザーには **authenticated** ロールが割り当てられます。
- **all** は **anonymous** を含むすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。
- **workflow-designer** は MobileTogether Designer 内のワークフローをデザインするユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、ワークフローの開始や保存、またサーバーからのシミュレーションの実行ができます。
- **workflow-user** はモバイルデバイスでワークフローを実行しているユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザー

は、サーバーにログイン、クライアントでリクエストを開始することなく、サービスインターフェイスにアクセスできます。

- admin は使用することのできるすべての特権を持ち、管理者としてのユーザーによる使用が想定されています。

▼ ユーザーの作成

新しいユーザーは root ユーザー または、管理ユーザー、ロールおよび特権を持つユーザーにより作成されます。新しいユーザーは以下の手順で作成されます:

1. ユーザーとロール/ユーザータブでユーザーの作成をクリックします。(下部スクリーンショット参照)。これによりユーザーの作成ページが表示されます。



2. ユーザーの作成ページで、ユーザー名とパスワードを入力します。
3. ユーザーに特権を割り当てる場合、特権を(チェックボックスをチェックして)直接、および/またはユーザーロールを割り当てることができます。(次のセクションを参照)。ユーザーは直接割り当てられた特権と割り当てられたロールから継承された特権を有することができます。ロールを使用して特権をユーザーに割り当てること奨励されます。(次のセクションを参照)
4. 「保存」をクリックして終了します。ユーザーがユーザーリストに表示されます。(上部スクリーンショット参照)。ユーザーのプロパティをユーザーのリストのユーザー名をクリックすることで編集できます。

▼ ドメインユーザーのインポート

[アクティブディレクトリログイン](#)⁷⁸ が設定されたユーザーを自動的にインポートすることなく、ドメインに対して有効化されている場合、有効化されたドメインの個別ドメインユーザーをインポートすることができます。「ドメインユーザーのインポート」をクリックします。(下部スクリーンショット参照)。ユーザーのインポートダイアログが表示されますので、インポートしたいドメインユーザーを検索し、ユーザーを選択した後「選択をインポート」をクリックします。



このユーザーがインポートされたら、他のロールと同様ユーザーロールを割り当てることができます。新しいユーザーは、ユーザーのドメイン特有のユーザー名とパスワードで Mobile Together Server にログインすることができます。

▼ ユーザーへのロールの割り当て

ロールはプロ ページでユーザーに割り当てることができます。ユーザーのプロ ページにアクセスするには、ユーザーとロール/ ユーザータブ のユーザー名をクリックします。ユーザーのプロ ページの下部に割り当てられたロールペインが表示されます。(下部スクリーンショット)。



すべての利用可能なロールは左側リストされています。ユーザーに割り当てられたすべてのロールは右側リストされています。割り当てたい(左側リストされた)利用可能なロールを選択して、割り当てをクリックしてください。ください。割り当てられたロールを削除するには、右側のリストから選択して、「削除」をクリックしてください。

ユーザーの特権のリストを閲覧するには [ユーザーとロール/ レポート/ ユーザーの特権](#)⁶⁸ に移動してください。

▼ ユーザーの削除

ユーザーは root またはユーザー、ロール、および特権の管理の特権を有するユーザーにより削除することができます。以下の手順でユーザーを削除します: ユーザーとロール/ ユーザータブから、削除したいユーザーを選択して(下部スクリーンショット参照)、選択されたユーザーの削除をクリックします。



5.2.2 ロール

ロールは特権のセットです。ロールは他のロールまたはユーザーに割り当てることができます。ロールの特権は自動的に他のロールまたはそのロールを割り当てられたユーザーに与えられます。ユーザーはいつでもロールを割り当てることができます。その結果、ユーザーは、割り当てられたロールに定義されたすべての特権を有することができます。

以下のロールは定義済みです:

- `authenticated` は `anonymous` 以外のすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。つまり、名前とパスワードを持つユ

ユーザーは authenticated ロールが割り当てられます。

- all は anonymous を含む全てのユーザーに自動的に割り当てられます。
- workflow-designer は MobileTogether Designer 内のワークフローをデザインするユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、ワークフローの開始や保存、またサーバーからのシミュレーションの実行ができます。
- workflow-user はモバイルデバイスでワークフローを実行しているユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、サーバーログイン、クライアントでシミュレーションを開始することなく、サービスインターフェイスにアクセスできます。
- admin は使用することのできるすべての特権を持ち、管理者としてのユーザーによる使用が想定されています。



ユーザーとロール / ロールタブから新しいロールの作成、ロールのプロパティの編集、ユーザーへのロールおよび/または他のロールの割り当てができます。特権の選択/選択解除およびユーザーおよび/または他のロールへのロールの割り当てができる、ロールのプロパティページへアクセスするため、ロールの名前をクリックしてください。

▼ ロールの作成と特権の定義

新しいユーザーは root ユーザーまたは、ユーザー、ロールおよび特権の管理の特権を持つユーザーにより作成されます。新しいユーザーは以下の手順で作成されます:

1. ユーザーとロール / ロール タブのロールの作成をクリックすると (下部スクリーンショット参照) ロールの作成ページが表示されます。



2. ロールの作成ページでロールに名前を与えます。
3. ロールの特権を定義するために、チェックボックスをチェックして特権を選択します。

特権

ユーザー、ロール、特権の管理

セキュリティの制限を無視

クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。)

フィルター処理なしのログの表示

概要のキャッシュの表示

ユーザーライセンス概要の表示

ユーザーとロールの読み取り

サーバー設定の管理

ワークフローのトレース
(「ファイルへログ オプション」が有効化されている場合、ファイルへ(作業中XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する)

統計の読み取り
(サーバーの統計の読み取りを有効化します)

データベース構造の読み取り

グローバルリソースの読み取り

グローバルリソースの書き込み

デザイナーからワークフローを開く

デザイナーからのワークフローの保存

サーバー シミュレーションの実行

4. 「保存」をクリックして完了します。

ロールを保存した後、ページ下部のメンバーペインのメンバーロールを割り当てることができます。(次のセクションを参照)。メンバーはユーザーまたは他のロールであることができます。その後、ロールのプロパティをユーザーとロール/ロール タブのロールのリストのロール名をクリックして編集することができます。

ロールの全ての特権のリストを閲覧するには、[ユーザーとロール/レポート/ユーザー](#)⁶⁸の特権タブに移動してください。

▼ メンバーのロールへの割り当て(ユーザーまたは他のロール)

ユーザーまたは他のロールであるロールはメンバーを持つことができます。親ロールからメンバーは特権を継承します。

ロールにメンバーを割り当てるには、ロールのプロパティページの下部にあるメンバーペインに移動してください(下部スクリーンショット)。

メンバー

利用可能なユーザー/ロール

検索:

検索: MobileTogether Server

名前	説明
<input type="checkbox"/> all	MobileTogether Server
<input type="checkbox"/> authenticated	MobileTogether Server
<input type="checkbox"/> workflow-user	MobileTogether Server
<input checked="" type="checkbox"/> TechWriter-01	MobileTogether Server
<input type="checkbox"/> anonymous	MobileTogether Server
<input type="checkbox"/> root	MobileTogether Server

割り当て >>

<< 削除

ロールのメンバー 'workflow-designer'

名前
<input checked="" type="checkbox"/> deploy

- すべての利用可能なユーザー/ロールは左側リストされています。
- (MobileTogether Server または Directory Service をコンボボックスからそれぞれ選択してコンボボックスの [検索](#) で MobileTogether Server またはすべての有効化済みのドメインのため定義済みの [ユーザー](#)⁵⁹ と [ロール](#)⁶² を選択することができます。ドメインユーザーとロールはドメインの管理者により定義されます。[Active Directory Login 設定](#)⁸⁷ が [設定タブ](#)⁷⁸ 内で有効化されている場合のみ使用が可能です。
- 検索フィールド内で名前をテキスト検索することによりユーザー/ロールと検索することができます。
- ロールのすべてのユーザー/ロールは右側リストされています。
- メンバーとして割り当てたい左側リストされたユーザー/ロールを選択して、「割り当て」をクリックしてください。
- 割り当てられたユーザー/ロールを削除するには、右側のリストから選択して、「削除」をクリックしてください。

上部のスクリーンショットは、例えば workflow-designer ロールのメンバーページを表示しています。Deploy という単一のメンバーが存在し、workflow-designer ロールの全ての特権を継承します。

ユーザーまたはロールに複数の特権セットを与えることができます。もしユーザー/ロールが複数のロールのメンバーとして追加された場合、すべての親ロールの特権を継承します。ユーザーまたはロールの全ての特権のリストを閲覧するには [ユーザーとロール/レポート/ユーザー](#)⁶⁸ の特権へ移動してください。

▼ ドメインロールのインポート

[アクティブディレクトリログイン](#)⁸⁷ がドメインのために有効化されている場合、有効化されたドメインの個別のロールをインポートすることができます。「ドメインロールのインポート」をクリックしてください。(下のスクリーンショット参照)。表示されるドメインロールのインポートダイアログ内でインポートするロールを検索して、「インポートの選択」をクリックします。



このロールのインポート後、他のロールとしてロールに特権を与えることができます。新しい特権はこれらのドメイン固有のロールに許可されます。

5.2.3 パスワードポリシー

パスワードポリシーはそのポリシーを使用するパスワードの強さを定義します。自身のパスワードおよび異なるユーザーへの異なるポリシーの適用を定義することができます。「ユーザーとロール/パスワードポリシー」タブ（下部スクリーンショット）ですべての定義されたパスワードポリシーが表示されており、新しいポリシーの作成、ポリシーのユーザーへ割り当て、ポリシーの削除を行うことができます。



メモ デフォルトでは、新しいユーザーは、制約を定義しなく変更できない**デフォルトのパスワードポリシー**に割り当てられています。デフォルトポリシーにより定義されたパスワードより強いパスワードをユーザーに与えたい場合、強いポリシーを作成し、各ユーザーに割り当てます。

▼ パスワードポリシーの作成

新しいパスワードポリシーはrootユーザーまたは、ユーザー、ロールおよび特権の管理の特権を持つユーザーにより作成されます。新しいユーザーは以下の手順で作成されます。

1. ユーザーとロール/パスワードポリシータブの「ポリシーの作成」(下部スクリーンショット参照)をクリックします。これによりパスワードポリシーの作成ページが表示されます。



2. パスワードポリシーの作成ページで、ポリシーに名前を与えます。
3. パスワードの制約を定義するためには、制約(合計の長さ、英字、数字)の横のプラスアイコンをクリックして、制約の値を入力します(下部スクリーンショット参照)。



4. 「保存」をクリックして終了します。

ポリシーを保存した後、ページ下部のメンバーペインから次のセクションを参照からユーザーを割り当てることができます。後に、ユーザーとロール/ポリシーのプロパティリストの中の名前をクリックしてポリシーのプロパティを編集することができます。

▼ メンバー(ユーザー)へのパスワードポリシーの割り当て

ポリシーのプロパティページ下部のメンバーペインでユーザーをポリシーのメンバーとして追加することにより、パスワードポリシーはユーザーに適用することができます(下部スクリーンショット参照)。

すべての利用可能なユーザーは左側にリストされています。ポリシーのメンバーであるすべてのユーザーは右側にリストされています。左側のリストからメンバーとして割り当てたいユーザーを選択して、「割り当て」をクリックします。割り当てられたユーザーを削除するには、右側のリストから選択して、「削除」をクリックします。上部のスクリーンショットは、MediumSecurity ポリシーのメンバーページを表示しています。単一メンバー、ユーザー TechWriter-01、が存在します。

5.2.4 レポート

ユーザーとロール/レポート タブにレポートと特権へのリンクがあります。これらのレポートはユーザーロールの使用する特権の役に立つサマリーがレポートされています。

▼ 特権レポート

特権レポート(下部スクリーンショット)には各特権とこの特権を使用するすべてのユーザーとロールがリストされています。また、継承も表示されています。

特権	プリンシパル	与えられた、またはプリンシパルにより継承
保存されたパスワードのクライアントでの使用を許可する。	<ul style="list-style-type: none"> TechWriter-01 authenticated root workflow-user 	<ul style="list-style-type: none"> 以下より継承された authenticated 以下に与えられた authenticated 以下に与えられた root 以下に与えられた workflow-user
ユーザー、ロール、特権の管理	<ul style="list-style-type: none"> TechWriter-01 authenticated root 	<ul style="list-style-type: none"> 以下より継承された authenticated 以下に与えられた authenticated 以下に与えられた root
サーバー設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> TechWriter-01 authenticated root 	<ul style="list-style-type: none"> 以下より継承された authenticated 以下に与えられた authenticated 以下に与えられた root
デザイナーからワークフローを開く	<ul style="list-style-type: none"> deploy root workflow-designer 	<ul style="list-style-type: none"> 以下より継承された workflow-designer 以下に与えられた root 以下に与えられた workflow-designer

▼ ユーザーレポートの特権

ユーザーレポートの特権(下部スクリーンショット)には各ユーザーロールが特権のサマリーと共にリストされています。また、継承も表示されています。

ユーザーレポートの特権

プリンシパル	特権	
 TechWriter-01	保存されたパスワードのクライアントでの使用を許可する。	以下から継承  authenticated
	ユーザー、ロール、特権の管理	以下から継承  authenticated
	サーバー設定の管理	以下から継承  authenticated
	セキュリティの上書き	以下から継承  authenticated
	ユーザーとロールの読み取り	以下から継承  authenticated
	独自のパスワードをセット	以下から継承  authenticated
	概要のキャッシュの表示	以下から継承  authenticated
	ユーザーライセンス概要の表示	以下から継承  authenticated
	フィルター処理なしのログの表示	以下から継承  authenticated
	 authenticated	保存されたパスワードのクライアントでの使用を許可する。
ユーザー、ロール、特権の管理		以下に許可  authenticated

5.3 ユーザーライセンス

ユーザーライセンス タブ (下部スクリーンショット) では現在接続されており Mobile Together Server とライセンスされているデバイスの情報を表示し、ライセンスのアクティブ化および非アクティブ化をすることができます。

ユーザー ライセンス

使用されているライセンス: 7 (最大数 8)

ライセンス モード: 自動

ID	ユーザー名	デバイス	バージョン	リクエスト日時	アクティブ	アクティブバージョン日時
27	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:46.0) Gecko/20100101 Fire		2016-05-18 09:53:08	<input checked="" type="checkbox"/>	2016-05-18 09:53:08
26	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:45.0) Gecko/20100101 Fire		2016-02-22 10:10:27	<input checked="" type="checkbox"/>	2016-02-22 10:10:27
25	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:41.0) Gecko/20100101 Fire		2015-10-20 15:46:01	<input checked="" type="checkbox"/>	2015-10-20 15:46:01
24	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64) AppleWebKit/537.36 (KHTML,		2015-06-12 12:55:42	<input checked="" type="checkbox"/>	2015-06-12 12:55:42
23	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64) AppleWebKit/537.36 (KHTML,		2015-06-12 12:52:20	<input checked="" type="checkbox"/>	2015-06-12 12:52:20
22	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:38.0) Gecko/20100101 Fire		2015-06-12 12:50:59	<input checked="" type="checkbox"/>	2015-06-12 12:50:59
21	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:38.0) Gecko/20100101 Fire		2015-06-12 12:38:45	<input checked="" type="checkbox"/>	2015-06-12 12:38:45

検索 1 ページ中 1 ページ目 25 7件中 1-7を表示

保存 選択項目の削除

- Mobile Together Server ライセンスは特定数のデバイスと Mobile Together Server の通信を指定された時間で許可します。この数は使用されているライセンスフィールドに与えられています。例えば、上部のスクリーンショットでは、サーバーは8つのデバイスと通信できるようにライセンスされています。2つのデバイスが接続されており、両方がライセンスを持っています(アクティブチェックボックスが選択されていることにより示されています)。使用されているライセンスフィールドに8つ中5つのライセンスが使用されていることが表示されています。
- クライアントデバイスがサーバーに接続されると、ライセンスモードのオプションが自動(上部スクリーンショット参照)に設定されている場合、自動的にライセンスが割り当てられます。手動に設定されている場合、新しく接続されるモバイルデバイスが接続されたデバイスのリストに表示されます。管理者がデバイスのアクティブチェックボックスをチェックして「保存」をクリックするとライセンスが与えられます。
- ユーザーライセンスの制限に達すると、これ以上のデバイスにライセンスを与えることができません。追加デバイスにライセンスを与えるためには、既存のライセンスを非アクティブ化しなければなりません。管理者はデバイスのアクティブ化および非アクティブ化をいつでも行うことができ、ユーザーライセンス制限を超えることなく新しいデバイスにライセンスを授けることができます。

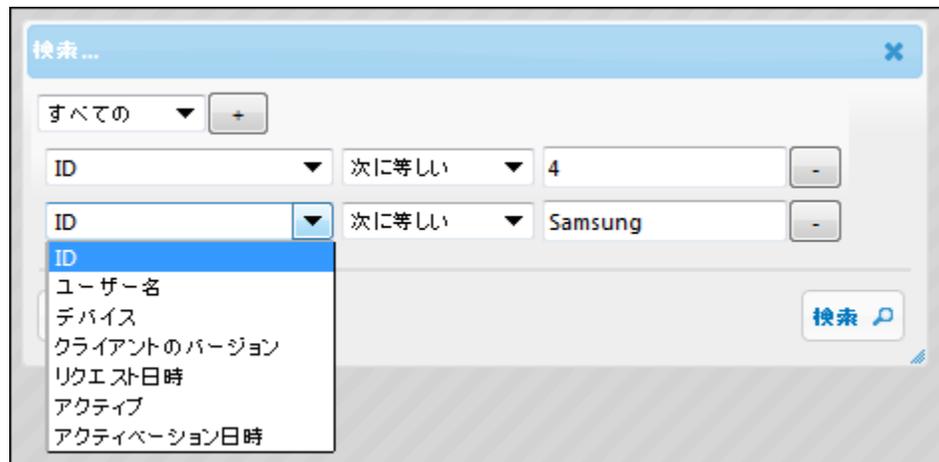
ユーザーライセンスのフィールド

以下にユーザーライセンスタブのフィールドの詳細が説明されています。

- **ライセンスモード:** 自動は自動的に新しく接続されたデバイスをアクティブにします。手動は管理者が手動でデバイスをアクティブにして保存した後、アクティブ化設定の効果が実行されます。
- **ID:** ライセンスを与えられたデバイスの内部番号
- **ユーザー名:** クライアントデバイスが接続しログインしたユーザー名。ユーザー名により、クライアントデバイスに与えられる特権が決定されます。
- **クライアント IP:** クライアントデバイスのIP アドレス
- **デバイス:** ライセンスをリクエストしたモバイルデバイスまたはブラウザ。
- **バージョン:** クライアントデバイス上の Mobile Together Client アプリのバージョン。クライアントデバイス上で発生するバグとトラブルシューティングエラーのためにクライアントバージョンを確認することは重要です。
- **リクエストの時刻:** クライアントがライセンスをリクエストした時刻。
- **アクティブ化:** アクティブチェックボックスによりライセンスのアクティブ化/非アクティブ化が行われます。「保存」をクリックして変更を確定します。
- **アクティブバージョン日時:** ライセンスがリクエストされたおよびアクティブ化された日時。

検索

「検索」ボタンをクリックして検索ダイアログを開き(下のスクリーンショット) 1つ以上のライセンスフィールドを検索します。



- どれかのすべてのエントリボックスは、定義されるルールがすべて対応するルールを満たすかを指定します。
- どれかのすべてのエントリボックスの横「ルールの追加」アイコンは、検索の定義のルールを追加します。
- 各ルールはおつのパートから構成されています: (i) ユーザーライセンスフィールド、(ii) リレーションシップの定義、(iii) 値。
- 提出された値は、一致を返すために指定されたフィールドの値と同じである必要があります。
- 空白の値のパートは、フィールドの提出された値として空の文字列を使用します。
- 各ルールの横の「値の削除」アイコンはルールを削除します。
- 「検索」は検索を開始します。
- 「リセット」はすべてのユーザーライセンスを表示します。

5.4 ログ

ログタブはサーバー設定(誰が何を)への変更を含むログ済みのアクションを表示します。または、ログはタブの上にある選択されたフィルターにだけ表示されます(下のスクリーンショット参照)。(警告とエラーのみではなく)全てのログされたアクションを確認するには [設定 | ログ](#) ⁸⁵ タブに移動して、ログのレベルの詳細が Info に設定されていることを確認してください。各デザインアクションに関連するログカラムは、以下に示して表示します: ユーザー名、(関連した詳細をユーザーライセンスタブで確認することのできるID により識別されている) クライアントデバイス、デバイス上の MobileTogether Client アプリのバージョン、デザインが作成された MobileTogether Designer のバージョン、およびメッセージの重要度 (情報、警告、エラー)。

The screenshot shows the 'Log Viewer' interface. At the top, there are search filters: '前日から 7 日を表示' (Previous 7 days), '最小重大度: 情報' (Minimum severity: Info), and '表示' (Display). There are also buttons for 'すべて削除' (Delete all) and '削除: 開始 2015-10-07 終了 2015-10-14'. Below the search bar is a table with columns: '日付' (Date), 'ユーザー' (User), 'デバイス' (Device), 'デザイン' (Design), '重大度' (Severity), and 'メッセージ' (Message). The table contains several rows of log entries, all with severity 'Info' and message 'コンテナ "/c>

ビューは以下によりフィルターすることができます:

- **日付:** 範囲または特定の日付が設定できます。
- **最小重大度:** エラーは最高の重大度です(エラーのみ表示); 警告は次に高い重大度です(エラーと警告のみ表示)。情報は最小重大度で、エラー、警告および情報が表示されます。
- **検索条件:** ログテーブルの上部または下部の左側の「検索」ボタンをクリックして、(以下に説明される)検索ダイアログを開きます。検索条件により定義されるフィルターを削除するには、「検索」ボタン横「再ロード」アイコンをクリックします。

ログタブ下部の「全て削除」ボタンをクリックすることまたは、日付範囲を定義して「削除」をクリックすることで削除できます。

ログメッセージの検索

検索ダイアログ(下部スクリーンショット)にアクセスするには、ログテーブル上部または下部の左の「検索」ボタンをクリックします(上部スクリーンショット参照)。

The screenshot shows a search dialog box titled '検索...'. It has a close button in the top right corner. The dialog contains several input fields: 'すべての' (All) with a dropdown arrow, '日付' (Date) with a dropdown arrow, '次を含む' (Include next) with a dropdown arrow, '20014-0610' in a text box, 'ユーザー' (User) with a dropdown arrow, '次に等しい' (Equal to next) with a dropdown arrow, and 'system' in a text box. There are also 'リセット' (Reset) and '検索' (Search) buttons.

各検索ルールは、検索する日付またはユーザーなどのフィールド、(含むまたは等しいなどの)演算子、および値を選択します。新しい検索ルールを追加するには「ルールの追加」ボタンをクリックします。検索ルールを削除するには「ルールの削除」ボタンをクリックします。「すべての」セクターは指定の上部あり、全ての検索ルールが個別に満たされた場合のみ検索条件が満たされます。「いずれかの」セクター

—は、検索ルールが1 つでも満たされているかにより検索条件が満たされたかを指定します。「検索」は検索を開始します。「リセット」をクリックして検索フィルターを削除します。

5.5 キャッシュ

キャッシュは(通常 XML ファイル、または データベースである) デザインのページソースから生成されたデータファイルです。Mobile Together Designer 内でキャッシュは定義され、Mobile Together Server 内に保存されます。キャッシュ内のデータはページソース内にあります。キャッシュのプロパティ内でキャッシュ更新の頻度と時刻は定義されています。

「キャッシュ」タブは現在サーバー上に存在するキャッシュに関する情報を表示し、個別のキャッシュのプロパティを変更することができ、キャッシュの有効化/無効化およびキャッシュの削除を実行することができます。

メモ Mobile Together Designer 内で最初のキャッシュは作成され、Mobile Together Server 上で作成することはできません。キャッシュの作成に関する情報に関しては、[Mobile Together Designer ドキュメント](#) を参照してください。

メモ キャッシュ(キャッシュディレクトリ、ログディレクトリなど)のためのサーバー設定は [設定 | キャッシュ](#) ⁹⁰ タブ内で使用することができます。

説明の表示と利用可能なアクション

サーバー上で現在使用することができるキャッシュは名前別にキャッシュに関する情報と共にリストされます(下のスクリーンショットを参照)。キャッシュのリストを展開/折りたたむことができます。展開されている場合、キャッシュが接続されているページソースがリストされます(データ構造が他のページソースと互換性がある場合、キャッシュは複数のページソースに接続することができます)。

キャッシュの概要				
<input type="checkbox"/>	名前	最大キャッシュエントリ	キャッシュのサイズの合計	アクティブ
<input checked="" type="checkbox"/>	NEW_CACHE	1	0 KB	<input checked="" type="checkbox"/>

保存 選択対象の削除

表示された詳細

次のキャッシュの情報が表示されます:

- 名前: Mobile Together Designer 内でキャッシュが定義される際に名前は与えられ、Mobile Together Server 内で変更することはできません。
- 最大キャッシュエントリ: クエリパラメータを使用して DB ページソースからのデータがキャッシュに含まれている場合、キャッシュのための複数のエントリを同時にここで指定される最高キャッシュエントリまで保存することができます。ここに表示される数は、最初のキャッシュエントリが削除される前に、保管されるキャッシュエントリの数値を指定します。この機能は最高値がより大きいページソースの型のみのために使用されます。この数値は、キャッシュの構成ボタンをクリックした際に表示されるスクリーン内で編集することができます(上のスクリーンショットを参照)。
- 最も長い更新: 各キャッシュは複数回更新することができます。この列は最も長くかかっていた更新の時間を表示しています。
- キャッシュのサイズの合計: ディスク(または他のメディア)上のキャッシュに割り当てられているキャッシュサイズ(すべてのキャッシュエントリ)です。キャッシュのサイズは自動的に割り当てられます。
- アクティブ: キャッシュが現在アクティブかどうかを表示しています。

使用可能なアクション

次のアクションを実行することができます:

- **キャッシュの有効化/無効化:** アクティブな列内のボックスのチェック/チェックの解除を選択し有効化/無効化します。キャッシュが無効化されていると、サーバー上にメタデータ(プロパティ)がまだ存在しますが、キャッシュが削除されると、使用することができなくなります。設定を確認するために「保存」をクリックします。
- **1つまたは複数削除する:** 削除するキャッシュを選択し、「選択項目を削除」をクリックします。キャッシュが定期的に更新されるように定義されている場合、新規のキャッシュが次の更新の際に生成されます。
- **最大キャッシュエントリの変更:** 「構成」をクリックして、表示されるスクリーンの数を変更し、「保存」をクリックします。このオプションは、クエリパラメータを使用してフィルタされているページソースのためこのみ使用することができます。
- **キャッシュの更新の頻度と時刻を変更する:** 「構成」をクリックして、頻度を更新し、「保存」をクリックします。
- **キャッシュエントリのログのビュー:** ログを確認するためにキャッシュエントリを展開します。

5.6 バックアップと復元

バックアップと復元 タブは、次のMobile Together Server ファイルをバックアップし復元する設定とコントロールを提供する2つのサブタブ、バックアップと復元、が含まれています: (i) サーバーデータベースファイル(常にバックアップされます)、(ii) サーバー構成ファイル、(iii) ソリューションファイル、(iv) 統計 データベース および(v) サーバーログデータベース。通常のバックアップのためにタイムトリガーを設定することもできます。各バックアップはバックアップの日時により名前が付けられ個別のフォルダーに保管されます。

バックアップ(フォルダー) からいつでもバックアップされたファイルの何れか、または、全てを復元することができます。

バックアップ設定

バックアップタブ(下のスクリーンショット)はバックアップの構成と実行を行う設定とコントロールを提供します。設定を構成した後、バックアップを実行する前に「保存」をクリックします。

バックアップ 復元

設定のバックアップ

ディレクトリ: C:\MTBackup 今すぐバックアップ
 バックアップファイルを保存することのできるサーバー側のディレクトリを指定します。

バックアップのカウンタ: 0 ↓
 保管するバックアップの最大数を指定してください。'0'は無限を意味します。

サーバー構成ファイルのバックアップ
 ソリューションのバックアップ
 統計データベースのバックアップ
 ログデータベースのバックアップ

トリガー 最後のバックアップ 2018-07-18 13:25:00

新しいタイマー

保存

次のバックアップ設定を構成することができます:

- サーバー上のフォルダーにはバックアップされたファイルが含まれています。
- 補完されるバックアップの数量。この数量に達すると、最も古いバックアップが削除されます。無制限の数のバックアップを補完するには、バックアップの数量を0に設定します。バックアップフォルダーのサイズを確認して、補完するバックアップの最大数を決定してください。

- サーバーデータベースファイル(mobiletogether.db) は常にバックアップされます。追加ファイルをバックアップするには、型を確認してください。上のスクリーンショットでは、例えば、サーバー構成ファイルは追加でバックアップされます。バックアップを復元する場合、バックアップ内に存在するすべてのファイルが復元されます。
- 1つ、または複数のバックアップのためにタイムトリガーを設定することができます。これを行うには、「新しいトリガー」をクリックして、バックアップのための時刻を設定します。一時的なトリガーを有効化することができ、複数のトリガーを作成することもできます。
- バックアップを構成した後、「保存」をクリックして、設定を保存します。
- 今すぐ設定されている設定を使用してバックアップするには、「今すぐバックアップ」をクリックします。

復元

復元タブ(下のスクリーンショット)は、現在保存されているバックアップを表示します。各バックアップに関しては、バックアップされたファイルはチェックマークと共に表示されます(下のスクリーンショット参照)。

バックアップ		復元				
復元						
バックアップ	サーバー構成ファイル	メインデータベース	ログデータベース	統計データベース	ソリューションファイル	
2018-07-18 13:25:00	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	復元
2018-07-18 13:17:00	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	復元

特定のバックアップを復元するには、バックアップの「復元」ボタンをクリックします。復元するファイルを選択することのできるダイアログが表示されます。選択されたファイルを復元するためにダイアログ内の「復元」をクリックします。サーバー上の他のファイルは影響を受けません。

5.7 設定

「設定」タブにより、MobileTogether Server が作動する多種の аспекを構成することができます。キャッシュの設定を含む「キャッシュ」タブは下のスクリーンショットに表示されています。設定を変更する場合、設定を必要に応じて変更してください。変更された設定を反映するためにタブの下にある「保存」ボタンをクリックします。

一般設定

ネットワーク
ログ中
LDAP
JWT
キャッシュ
ソース
その他
ライセンスサーバー

キャッシュ 設定:

キャッシュ ディレクトリ:

 キャッシュが置かれるサーバー側ソリューション作業ディレクトリの指定.

キャッシュ オペレーション タイムアウト: 秒
 各キャッシュ操作のためのタイムアウト (秒)。「0」は無限を意味します。

キャッシュ ログリミット: 日

このセクションのサブセクションで各タブ内の設定について説明されています:

- [ネットワーク](#)⁷⁹: メールクライアントポート、管理者ポート、およびSSL 証明書のための設定。
- [ログ中](#)⁸⁵: ログ中の設定。
- [LDAP](#)⁸⁷: デレクトリサービスログインのための設定。
- [認証](#)⁸⁹: 他のMobileTogether Server からのユーザーの認証を有効化する設定です。ユーザーの2番目のMobileTogether Server ログインを保存します。
- [JWT](#)⁸⁹: JSON Web トークン (JWT) 認証の設定。
- [キャッシュ](#)⁹⁰: キャッシュ設定
- [その他](#)⁹⁴: サーバー統計、サーバーシミュレーション、サーバー上でのワークフローの実行、セッションのタイムアウト、更新のアップグレード、電子メールの設定。
- [ソース](#)⁹¹: サーバー側のデータフォルダのロケーション、サーバー側のデータベース接続の管理。
- [LicenseServer](#)⁹⁷: Altova LicenseServer を使用した登録とライセンス供与。
- 非-WebUI 設定: 他の設定はMobileTogether Server 構成ファイル内で編集可能です。

5.7.1 ネットワーク

「ネットワーク」タブによりサーバにアクセスする方法を定義するネットワーク設定を構成することができます (i) クライアントデバイスによりアクセス (ii) 管理者によりアクセス。クライアントアクセスにより、デバイスはサーバにアクセスすることができ、サーバにデプロイされているリソースを使用することができます。設定を変更した場合、タブの下の「保存」をクリックして、変更された設定の効果を反映させることができます。

▼ モバイルクライアントポート

サーバに接続するためにモバイルデバイスが使用するポート。HTTP ポートはセキュリティ保護なしポート。HTTPS は保護付きポートです。HTTPS を使用する場合は [SSL 暗号化](#)²⁰ をセットアップする必要があります。サーバが特定の IP アドレス または 全てのインターフェイスと IP アドレスを使用するかを指定することができます。単一の IP アドレスが使用される場合、ラジオボタンの 2 番目のフィールドに入力してください。

モバイルクライアントポート:

モバイルクライアントが利用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュリティ保護付き (HTTPS) を選択してください。
これらのポートは管理のために使用できません!

HTTP バインドアドレスを有効化する

全てのインターフェイス ポート: 8082

HTTPS バインドアドレスを有効化する

全てのインターフェイス ポート: 8084

匿名で自動的にログイン

カスタム化されたログインとインデックスページを使用

/mt-login を使用して MobileTogether のログインを許可する

匿名として自動的にログインする

選択された場合、クライアントに自動的に [anonymous](#)⁵⁹ としてログインされます。ログインページがスキップされると、サーバの最初のページが直接表示されます。最初のページはルートフォルダを表示する基準のページ、または定義されたカスタムページを表示します (次の点参照)。このオプションが選択されていない場合、クライアントは適切な資格情報必要とするデフォルトのログインページからログインします。もし、匿名のログインが選択されている場合、対応する [特権](#)⁵⁹ を [anonymous](#)⁵⁹ のために設定してください。

ユーザーによりカスタム化されたログインとインデックスページ

カスタム化されたログインページと最初のページが使用される場合このオプションを選択します。これにより、自身のエンリポイントをクリックのためにデザインすることができます。カスタム化されたページを以下のようにセットアップします:

- 2つのHTML ページを作成します。それぞれ login.html と index.html 名前をつけます。
- MobileTogether Server アプリケーションデータフォルダ内にある、**インデックス** フォルダにこれら2つのファイルを保存します (下のテーブル参照)。イメージファイルと CSS ファイルなどの追加ファイルは、**インデックス** フォルダのサブフォルダに保存することがあります (例えば、static と呼ばれる仮定しましょう)。

Linux

/var/opt/Altova/MobileTogetherServer

Mac	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

サンプルログインページとサンプルの最初(index)のページのロードのリストは以下に表示されています。リストは、基本的かつ変更する事が可能です。

■ login.html

```
<!DOCTYPE html>
<html>
  <head>
    <meta http-equiv="Cache-Control" content="no-store"/>
    <title>Customized Login</title>
  </head>
  <body>
    <div>
      <h1>Sign in</h1>
      <p>A bare-basics custom page for client logins to MobileTogether
Server. Modify this page as required, and use the Static sub-folder to save
CSS stylesheets, images, etc.</p>
      <form method="post" action="/do_login" name="loginform">
        <table>
          <!-- The user to login -->
          <tr>
            <td>
              <label for="username">Username:</label>
            </td>
            <td>
              <input type="text" name="username" id="username" size="30"/>
            </td>
          </tr>
          <!-- The password of the user -->
          <tr>
            <td>
              <label for="password">Password:</label>
            </td>
            <td>
              <input type="password" name="password" id="password"
size="30"/>
            </td>
          </tr>
        </table>
        <!-- The Active Directory domain details -->
        <h2>Active Directory Login:</h2>
        <table>
          <tr>
            <td>
              <label for="providernam-prefix">Domain prefix:</label>
            </td>
            <td>
              <input type="text" name="providernam-prefix"
id="providernam-prefix" value="" />
            </td>
          </tr>
          <tr>
            <td>
              <label for="providernam-suffix">Domain suffix:</label>
            </td>
            <td>
              <input type="text" name="providernam-suffix"
id="providernam-suffix" value="" />
            </td>
          </tr>
        </table>
      </form>
    </div>
  </body>
</html>
```

```

        <td>
            <input type="text" name="providernamesuffix"
id="providernamesuffix" value="" />
        </td>
    </tr>
</table>
<!-- The Sign-In button -->
<input type="submit" value="Sign in" />
<!-- The page to redirect to after a successful login. -->
<input type="hidden" name="from_page" value="/index" />
</form>
</div>
</body>
</html>

```

□ index.html

```

<html>
<head>
<meta http-equiv="Cache-Control" content="no-store" />
<title>Custom Index</title>
</head>
<body>
</img>
<hr />
<p><a href="/do_logout">Logout</a></p>
<h1>MobileTogether Custom Login</h1>
<p><a href="/run?d=/public/About">Start the About app</a></p>
<p><a href="/run?d=/public/DateCalc">Start the Date Calculator
app</a></p>
<p><a href="/run?d=/public/WorldPopulation">Start the World Population
Statistics app</a></p>
</body>
</html>

```

メモ ユーザーがドメインユーザーの場合、ログインの資格情報は以下のような書式になります:
domainPrefix@domainSuffix。例: ドメインユーザーが **someUserName@someDomain.altova.com** の場合、ドメイン
 プレフィックスは **someUserName** でドメインサフィックスは **@someDomain.altova.com** です。

mt-login を使用してログインすることを許可する

このオプションは、ログインがカスタム化されたログインとインデックスページを使用せずに、デフォルトのログインページと最初のページを使用
 して行われることを指定します。このオプションにより、login.html と index.html ファイルを保存先に保管しつつ、デフォルト
 ページを使用することができます。クライアントまたはブラウザ設定は、この設定の効果を有効にするために、ブラウザのキャッシュを削
 除することを必要とするかもしれないことに注意してください。

▼ 管理者ポート

管理者ポートは以下の目的のためにアクセスを提供します:

- サーバーの Web UI に接続して、**ユーザーとロール**⁵⁷ などの設定などの管理機能を実行します。
- MobileTogether デザインを (MobileTogether ソリューションとして) サーバーにデプロイします。MobileTogether Designer はデザインをデプロイするための MobileTogether Server のアドレスとポートを指定する設定があります。

管理者ポート:

管理者が使用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュリティ保護付き (HTTPS) ポートを選択してください。

サーバー構成、ユーザー、ロール、ユーザーライセンスの管理、ワークフローのデプロイ、およびワークフローのシミュレーションのためにこれらのポートを使用することができます。

HTTPS バインドアドレスの有効化

全てのインターフェイス ポート: 8085

HTTPS バインドアドレスの有効化

全てのインターフェイス ポート: 8086

ホスト名:

Altova ServiceController から管理者ページを開く際にホスト名を指定してください。これにより、URL に証明書が一致しない際に表示されるブラウザ警告を回避することができます。

HTTP ポートはセキュリティ保護なしポート; HTTPS は保護付きポートです。HTTPS を使用するには [SSL 暗号化](#)²⁰ をセットアップする必要があります。HTTPS ポートを設定し、URL に一致しない SSL 証明書に関する警告を回避するには、MobileTogether Server 構成ページが開かれるコンピューターのホスト名を指定します。

サーバーが特定の IP アドレス または 全てのインターフェイスと IP アドレスを使用するかを指定することができます。単一の IP アドレスが使用される場合、ラジオボタンの 2 番目のフィールドに入力してください。

▼ SSL 証明書

SSL コミュニケーションのために使用される秘密キーの証明書と公開キーの証明書を指定します。「参照」をクリックして、証明書を含むファイルを選択します (秘密キーのために秘密キーを、公開キーのために証明書を) 選択します。詳細に関しては、[SSL 暗号のセットアップ](#)²⁰ を参照してください。

SSL 証明書:

セキュリティ保護付き (SSL) 通信に必要な秘密キーと証明書を選択してください。
セキュリティ保護付き (HTTPS) ポートを使用するため有効な秘密キーと証明書が必要です。
秘密キー/証明書は PEM フォーマットでなければなりません。

秘密キー:

参照... ファイルが選択されていません。

証明書:

参照... ファイルが選択されていません。

第三者パーティ [Let's Encrypt](#) サービスを使用して安全な (SSL) 通信に必要な自動的に無料の証明書を取得することができます。
Encrypt サービスを使用するには、HTTP ポート 80 を使用する必要があります。

[Let's Encrypt 証明書](#)

[Let's Encrypt](#) サービスの無料の証明書を使用するには、以下の条件を満たす必要があります:

- MobileTogether Server がポート 80 の外部で表示されている必要があります。これは Let's Encrypt が ID を検証するために使用中のドメインリクエストを送信するためです。
- [altova.com](#) などの有効なドメイン名の使用は登録のために必要です。IP アドレスは許可されていません。
- 使用中のドメインホストが Certification Authority Authorization (CAA) レコードをサポートしている必要があります。

HTTP クライアントポートが 80 に設定されると、「Let's Encrypt 証明書」ボタン (上のスクリーンショット参照) が有効化されます。Let's Encrypt 証明書を取得するための詳細を入力する Let's Encrypt 証明書ダイアログをクリックして開きます (下のスクリーンショット)。

Let's Encrypt 証明書 ✕

Let's Encrypt は無料な第三者パーティのサービスであることに注意してください。週ごとに最高5つの証明書を取得することができます。Let's Encrypt 証明書は 90 日間有効で、2 カ月ごとに自動的に更新することができます。さらなる詳細に関しては、Let's Encrypt [レート制限](#) を参照してください。

ドメイン:
(mobiletogether.com のように修飾されているドメイン名です。IP アドレスは許可されていません。)

国名:
(以下のような2文字から構成される国名コード: US, DE, FR, ES, JP, etc)

州:

市名:

機関:

機関のユニット:

電子メール:

以下で自動的に証明書を更新する ✕
自動更新を有効化することにより、証明書は2カ月ごとに更新されます。
これを行うことにより、指定された時刻にサービスが再起動されます。

Let's Encrypt サービスの [利用規約](#) に同意します。

ダイアログ内に、必要とされる詳細を入力し、**契約条件ステートメント**をチェックします。Let's Encrypt 証明書は90日間有効ですので、MobileTogether Server は証明書を(証明書を取得した日付と同じ日付から)2か月ごとに自動的に更新するオプションをオファーしています。使用可能になる場合このオプションをチェックしてください。サーバーは証明書の更新が実行されている数秒間使用できなくなるため、更新の日付の更新時間を選択することもできます。ダイアログが完了すると、「OK」をクリックします。

設定を保存し、変更が反映されるように「保存」ネットワークタブの下のをクリックします。

5.7.2 ログ

ログ タブはMobileTogether Server のログ機能のための設定を提供します。設定を変更する場合、タブの下の **保存** をクリックして効果を反映させます。

ログ

Web UI の **ログ** ^{T2} タブに表示されるログはワークフローのアクティビティのレポートを含みます。ログペインの設定はログの パラメータを定義します。

ログ中

ログレベルの詳細:

エラー ▼

ワークフロー実行に使用するログ詳細を選択してください。ログはデフォルトではデータベースに保存され、[ログ](#) ページでアクセス可能です。

ログリミット: 7 ▼ 日

ログメモリのリミット: 1024 ▼ MB

ログデータベースへ書き込む前に使用することのできるメモリログメカニズム。メモリの最小は 256MB です。

ファイルにログ

ワークフロー トレース特権を持つユーザーにファイルへのワークフロー実行ログを有効化します。ログファイルは詳細ワークフロー実行情報(作業中 XML を含む)を含んでいます。

ファイルディレクトリにログ中:

C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer\logs

ログファイルが置かれるサーバー側のディレクトリを指定します。

- **ログレベルの詳細:** 詳細は以下により異なります:(i) ログのみのエラー、(ii) ログエラーを警告 (iii) (最も詳細な) ログエラー、警告と情報。
- **ログリミット:** ログの保管期間を指定します。
- **ログメモリのリミット:** ログ DB へのメッセージの書き込みは、ワークフローの実行より低い優先順位が与えられています。この結果、ログ DB に直接メッセージは書き込まれません。ログ DB にメッセージを書き込むためにワークフローの実行内のギャップがプロセッサ時間を開放するまでメモリ内に保管されます。しかしながら以下の点に注意してください! (i) ログ DB に書き込む時

間はありません (ii) ログしようされるメモリの量がログメモリリミットに達すると、メモリ内の全てのログメッセージは消去されます。単一のログメッセージは破棄されたメッセージと置き換えられます。ログメモリリミットに達したことを記録します。(メモリからメッセージを破棄するタイミングを指定することにより) ログメモリリミットのオプションによりメモリスペースを作成することができます。それ以外の場合、処理ロードとメモリロードは、MobileTogether Server 処理を停止する可能性があります。リミット値の選択に影響する要素は以下のとおりです: (i) マシン上のメモリの容量、(ii) ログレベルの詳細。許可されているログメモリリミットの最小値は 256 MB です。

- **ログファイル:** ファイルへのログオプションが選択されている場合、ワークフローのトレース特権を与えられているユーザーはファイルのログを保存することができます。ログが保存されているディレクトリは、ファイルディレクトリへのログオプションで指定されています。

Syslog

Syslog は特定のサーバーへのシステムログまたはメッセージを転送するために使用される標準のプロトコルで、syslog サーバーと呼ばれます。開発者は頻繁に syslog サーバーを使用して更に詳細な分析のために中央ロケーションにある多種のマシンからログを収集します。Syslog は Linux 内のデフォルトのログメカニズムです。Windows では syslog サーバーのインストールが必要となります。(Windows Event Log をこの目的のために使用することはできないことご注意ください。)

Syslog 設定ペイン (下のスクリーンショット) により syslog サーバーのための設定を定義することができます。

Syslog

Enable
Enable log messages forwarding to Syslog server.

Host:

Port:

Protocol:

Private Key:
 No file selected.

Certificate:
 No file selected.

- **ホストとポート** 設定は Syslog サーバーのためのものです。下のメモを参照してください。
- **プロトコル** 以下のプロトコルから選択することができます: BSD (UDP または TCP) または IETF (TCP または TLS/SSL)。BSD プロトコルは非ブロックUDP コミュニケーションを提供します。(MobileTogether Server はブロッキングを使用しないためこれは必須のコミュニケーションプロトコルではありません)。更なる詳細を送信し安全なコミュニケーションをサポートするため IETF syslog プロトコルが奨励されます。(ユーザー、ソリューション、およびクライアントバージョン) などの追加情報はマクロを介して syslog サーバーからアクセスすることができます: `${.SDATA.meta.user}`, `${.SDATA.meta.session}` と `${.SDATA.meta.version}`。

メモ

Linux は通常 `rsyslog` がインストールされています。しかしながら `syslog-ng` は更にデフォルトなオプションであることに注意してください。(異なる方法で構成されない場合) デフォルトのポートは以下の通りです:

- BSD: 514 (UDP と TCP のため)
- IETF: TCP を介した 601
- IETF: TLS を介した 6514

`syslog` サーバー設定の追加設定を [構成ファイル](#)⁹⁷ を介して行うことができます。これらの設定は [構成ファイル設定](#)⁹⁷ 内にリストされています。

5.7.3 LDAP

ディレクトリサービスログインが有効化されている場合、ドメイン固有のユーザー名とパスワードを持つサーバーユーザーがログインすることができます(下のスクリーンショットを参照してください)。ディレクトリサービスログインの有効化後、ディレクトリサービスからログインのために Active Directory ログイン、または ライトウェイト ディレクトリアクセスプロトコル(LDAP) を選択することができます。Microsoft Active Directory は Active Directory ログインを使用します。LDAP オプションは LDAP をサポートする他のディレクトリサービスプロバイダーと共に使用することができます。

ディレクトリサービスログイン:

有効化
ディレクトリサービスログインを有効化します。

Active Directory

ライトウェイトディレクトリアクセスプロトコルクエリ (LDAP)

ホスト:

ユーザー:

パスワード:

すべてのドメインユーザーにログインを許可する
チェックされていない場合[ユーザー ライセンス]ページの[ドメインユーザーのインポート]により特定のドメインユーザーのログインを許可する。
注意: ドメインユーザーがログインした場合、ワークフローパーミッションを使用して特定のワークフローへのアクセスを管理することができます。

デフォルトのログインドメイン: ▼
サーバーへのログインのためにドメイン名のリスト内で最初のドメインとして表示されるドメインを選択してください。

デフォルトとして設定
プロバイダリストの最初に Active Directory ログインプロバイダーを強制的にリストする。

LDAP 設定

「変更」をクリックして構成し LDAP 設定を編集します。

- (Mobile Together Serverをホストするマシンである) ホストの名前とIP アドレスを入力し、ユーザー名とパスワードを入力します。
- ユーザー名は、ユーザープリンシパル名 (UPN)、または 識別名 (DN) の書式である必要があります。UPN は Active Directory のためにのみ使用することができます。他のLDAP サーバーのために、識別名を使用する必要があります。
- (LDAP サーバーがサポートする場合) LDAP サーバーへの安全な接続を使用する場合は、SSL チェックボックスを選択します。証明書の使用に関しては[SSL 暗号化のセットアップ](#)²⁰ と [ネットワークの設定](#)⁷⁹ を参照してください。

メモ 無効なパスワードが4回入力されると、Active Directory ログインはロックされ、アカウントをアンロックするためにIT 部署に連絡を取る必要があります。Directory Service ログイン設定

Directory Service ログイン

既存のドメインユーザーのログインを許可するかチェックされていると、既存のユーザーはログインすることができます。チェックされていない場合、どのドメインユーザーが[ドメインユーザー機能のインポート](#)⁵⁹を使用してログインすることができるかを指定することができます。「[ユーザーとロール | ユーザー](#)⁵⁹」タブに移動して、特定のユーザーを Mobile Together Server ユーザーとしてインポートすることができます。許可されているドメインユーザーは、[通常のロールまたは特権](#)⁵⁷ に割り当てられることができます。これらの設定が完了すると、許可されているユーザーは Mobile Together Server にログインするためにドメイン固有のログイン情報を使用することができます。

- **既存のドメインユーザーにログインを許可する** MobileTogether Server にログインすることのできるドメイン内のすべてのユーザーです。チェックされていない場合、MobileTogether Server ユーザーとしてドメインユーザーを個別にインポートする必要があります。[ユーザー](#)⁵⁹ タブの「ドメインユーザーのインポート」ボタンを使用してこのインポートを行います。
- **デフォルトのログインドメイン**：使用することのできるドメインから、最初リストされるドメインを選択します。このドメインがデフォルトのドメインになります。
- **デフォルトとして設定する**：設定されている場合、ディレクトリサービスログインのプロバイダーがドメインのドロップダウンリストの最初にリストされます。

新規の設定の効果を反映するために、設定ペインの下の「保存」を押します。

5.7.4 認証

これらの設定により他の MobileTogether Server からのそのサーバーでの認証済みのユーザーはこの MobileTogether Server から2番目の MobileTogether Server にログインする必要なくソリューションの使用を開始することができます。

MobileTogether Authentication Server:

Let another MobileTogether server perform the user authentication of web solutions.

Enable
Enable user authentication for mobile client port.

Authentication Host:

Authentication Mobile Client Port:

Audience:

認証を MobileTogether Server から現在のものに安全に移動する場合、有効化を選択し、認証設定に移動します:

- **認証ホスト**: 認証が実行されている MobileTogether Server をホストしているマシンの IP アドレスです。
- **認証モバイルクライアントポート**: これはクライアントデバイスがサーバーに接続されているポートです。注意点: (i) 両方のサーバーが [SSL 暗号化](#)²⁰ (HTTPS 接続) を使用しており、(ii) 両方のソリューション (呼び出し元、呼び出し先) が匿名のユーザーであること。 [ネットワーク設定](#)⁷⁹ 参照してください。
- **オーディエンス**: 認証が許可されているソリューションのオーディエンスを定義する文字列です。ユーザーを現在の MobileTogether Server (MobileTogether Designer) 上のソリューションに送るソリューションは同じ **オーディエンス** 文字列を送信するように (MobileTogether Designer 内で) デザインされている必要があります。

5.7.5 JWT

JWT 認証 この設定は埋め込まれた Web ページソリューションの JSON Web Token (JWT) 認証を有効化します (下のスクリーンショット)。Web ページにソリューションが埋め込まれており、JWT 認証がサーバー上で有効化されていると、ユーザーが MobileTogether Server にログインせず埋め込まれた Web ページ内にソリューションがロードされます。 [MobileTogether Designer ドキュメント](#) 内の埋め込まれた Web ページソリューションの詳細を参照してください。

JWT 認証:

iframe に埋め込まれたソリューションのために JWT 認証パラメーターを構成します。

有効化
JWT 認証をモバイルクライアントポートのために有効化します。

秘密:

オーディエンス:

JWT 認証を有効化した後、2つの設定を定義する必要があります:

- **秘密:** 対称キー（共有された秘密）を使用して JWT を作成した場合、共有された秘密キーをここに入力してください。非対称暗号化（公開、秘密キー暗号化）を使用した場合、公開キーをここに入力してください。この情報により、サーバーは埋め込まれたソリューションからの最初の GET リクエストから送信された JWT を検証することができます。
- **オーディエンス:** JWT の作成時にオーディエンスのために入力された文字列と同じ文字列を入力してください（詳細に関しては、the [Mobile Together Designer ドキュメント](#) を参照してください）。

設定を変更した場合、タブの下の「保存」をクリックして、変更された設定の効果を反映させることができます。

5.7.6 キャッシュ

キャッシュ設定 は次を指定します: (i) キャッシュファイルが保存されているディレクトリ、(ii) 各キャッシュオペレーションのタイムアウト、および (iii) キャッシュログアイテムの表示期間日数。詳細に関しては [キャッシュタブ](#)⁷⁴ を参照してください。

キャッシュ設定:

キャッシュディレクトリ:

 キャッシュファイルが置かれるサーバー側のディレクトリを指定します。

キャッシュ オペレーション タイムアウト: 秒
 各キャッシュ操作のためのタイムアウト (秒)。'0' は無限を意味します。

ログリミットのキャッシュ: 日

設定を変更した場合、タブの下の「保存」をクリックして、変更された設定の効果を反映させることができます。

5.7.7 ソース

「ソース」タブより、以下を行うことができます。(i) ソリューションのデータファイルが保存されるフォルダーを指定する。設定を変更した場合、タブの下の「保存」をクリックして、変更された設定の効果を反映させることができます。

▼ サーバー側ソリューションの作業ディレクトリ

ソリューションがサーバーで実行される場合、この設定は以下を指定します:

- このデザイン内の全ての相対パスのベースURI。デザイン内で、サーバーにデプロイされていないすべてのファイルのパスは、この設定で指定されているディレクトリに対して解決されます。例えば、デザイン内のファイルが `MTSData\Test.xml` の相対パスに対してアドレスされていて、ファイルがデプロイされていない場合、ファイルは `Working-Directory-Setting-Of-Server>MTSData\Test.xml` にある必要があります。(ファイルがサーバーにデプロイされている場合は、デザインは内部メカニズムを使用してファイルにアクセスします。)
- デザイン内で、ファイルの場所に絶対パスがある場合、このパスは、この設定で指定されている作業ディレクトリのサブディレクトリであるディレクトリの内部をポイントしてはいけません。例えば、ファイルが絶対パス `C:\MTSData\Test.xml` に対してアドレスされている場合、ファイルは、作業ディレクトリが `\\ 共有` または `C:\MTSData` の場合のみアクセスすることができます。

サーバー側ソリューション作業ディレクトリ:

ディレクトリ:

 ソリューションが保存できるサーバー側ディレクトリを指定してください。ソリューションの相対パスの解決ベースとしても使用されています。

この設定は、ソリューションの実行中のローカルファイルへのすべての読み込み書き込みアクセスの制限をします。このディレクトリ内のファイルのみ、またはサブディレクトリのみ、ソリューションの実行のため Mobile Together Server からアクセスすることができます。

▼ サーバー側データベース接続

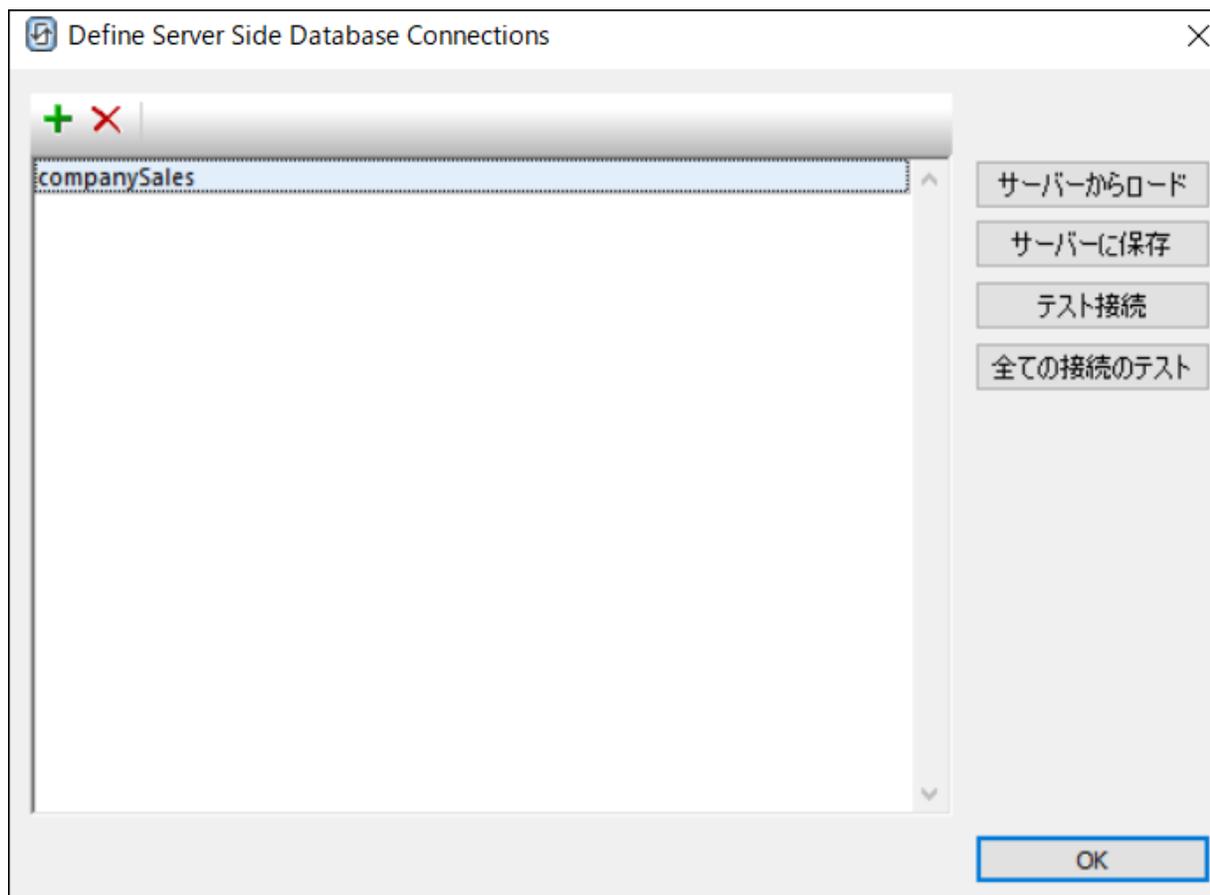
この設定（下のスクリーンショット）によりデータベース(DB) 接続をサーバー上のDB 接続 XML ファイルに保存することができます。サーバー側のDB 接続を作成し、ソリューションのDB 構造の読み取りアクションによりDB 内のデータを読み取るために使用することができます（このアクションを定義する方法に関しては、[Mobile Together Designer ユーザーマニュアル](#)を参照してください）。

メモ この設定は次の特権が有効化されている場合のみ表示されます：[データベース構造の読み取り](#)³² と [サーバー設定の管理](#)³²。

メモ この機能（サーバー側 DB 接続）はWindows 固有であるため、Linux ベースまたは、macOS ベースの MobileTogether Server で使用することはできません。



新規のサーバー側 DB 接続の作成、または、既存の接続を管理するには、「サーバー側のデータベース接続」をクリックしてください（上のスクリーンショット参照）。表示されるダイアログ内で、「Altova Define Server Side DB Connections」を選択し、「リンクを開く」をクリックします。サーバーへのアクセスをプロンプトされた場合、入力して、「OK」をクリックします。サーバー側のデータベース接続の定義 ダイアログが表示されます（下のスクリーンショット）。



サーバー側 DB 接続を作成するには、以下を行います:

1. 左上名のツールバー内の「DB の追加」ボタンをクリックします (上のスクリーンショット参照)。
2. 表示される [DB 接続ウィザード](#) 内で [ウィザードのステップ](#) に従い 新規の DB 接続を追加します。
3. DB 接続が作成されると、ダイアログ内に表示されます。名前をダブルクリックして名前変更を行うことができます。上のスクリーンショットは、companySales という名前の接続が作成されたことを表示しています。
4. 「サーバーに保存」をクリックして、接続をサーバーに保存します (上のスクリーンショット参照)。接続はすべての定義済みの DB 接続が保存される (サーバー上の) XML ファイルに追加されます。

次の追加アクションが「サーバー側のデータベース接続の定義」ダイアログから実行することができます:

- ダイアログ内で選択し、接続を削除し、左上のツールバー内で「削除」ボタンをクリックします。「サーバーに保存」をクリックして、接続ファイルに変更を保存します。
- 「サーバーからロード」をクリックして、DB 接続ファイルに現在保管されている接続をダイアログにロードします。
- DB 接続をテストするには、選択して「テスト接続」をクリックします。テストの成功と失敗はメッセージウィンドウ内に報告されます。
- 「全ての接続のテスト」をクリックして、現在ウィンドウ内に存在するすべての接続をテストすることができます。メッセージウィンドウは、それぞれのテスト結果と共にすべての接続のリストを表示します。

5.7.8 その他

「その他」タブよりサーバー機能の広範囲の設定が提供されています。設定を変更した場合、タブの下の「保存」をクリックして、変更された設定の効果を反映させることができます。

▼ 統計

サーバーの使用に関する統計は内部 Mobile Together データベースに保管されます。public/admin コンテナ内の新規 Mobile Together Server インストール(バージョン 4.0 または以降) 内にある statistics.mtd ファイルを開きこれらの統計を確認することができます。統計設定(下のスクリーンショット)により補完される統計の期間を指定することができます。デフォルトの設定は、統計がトラッキングされないことを示す 0 です。

統計

統計が保存される期間 (日数)。統計の収集を無効化するには、'0' を指定します。

統計のリミット: 日

タイミングの統計 (これによりサーバーのパフォーマンスが若干落ちる可能性があります)。

以下の点に注意してください

- Mobile Together Server の新規のインストールの際に、public/admin コンテナは自動的に作成されます。Mobile Together Server のバージョンをアップデートすると、statistics.mtd ワークフローをサーバーに明示的にデプロイする必要があります。全てのコンテナにデプロイすることができますが、public/admin コンテナを作成し、そこにデプロイすることが奨励されます。
- statistics.mtd デザインを明示的にデプロイする必要がある場合、Mobile Together Designer インストールの MobileTogetherDesignerExamples/SimpleApps フォルダ内で使用することができます。
- ソリューションを実行すると、内部 Mobile Together Server 統計データベースからデータが読み取られ、データベース内の統計のグラフを閲覧することができ、オプションをフィルター選択することのできるインターフェイスが表示されます。
- ソリューションはデータの 4 つの主なカテゴリを表示しています: (i) サーバーに接続しているユーザー数。(ii) サーバーに接続されている異なるデバイスの数。(iii) サーバーに送信されるリクエストの数。(iv) サーバー上発生するソリューションの開始数 (各ソリューションは複数回開始することができます、各開始は個別の開始として数えられます)。(例えば、特定のソリューション、またはデバイスで追加のフィルターも使用することができます。ソリューションの実行のみがトラッキングされ、管理リクエストはトラッキングされないことに注意してください)。
- ユーザーが統計を読み取るためには、そのユーザーのために [統計の読み取り](#)⁵¹ 特権がチェックされている必要があります。

異なるオペレーティングシステム上での Mobile Together Server AppData フォルダのロケーション

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Mac	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

ソリューションを使用してセム アップする方法に関する詳細は、[ソリューションを使用する統計](#)⁴⁰ を参照してください。

▼ サーバーでのワークフローのシミュレーション

チェックボックスをチェックすることにより、サーバーでのシミュレーションの実行の特権を与えられているユーザーがサーバーでのワークフローのシミュレーションを行う許可をアクティブ化します。

サーバー上のシミュレーション:

サーバーシミュレーションの実行特権を与えられたユーザーのためのサーバーでのワークフローシミュレーションを有効化する。

サーバー上のシミュレーション

▼ ワークフローの実行

チェックボックスをアクティブ化することにより、Web ブラウザーからワークフローの実行が行われます。

ワークフローの実行:

Web ブラウザーからのワークフロー有効化

Web ブラウザーからのワークフローの実行

▼ セッション

新しいログインが行われるまでのタイムアウト期間を設定します。このタイムアウトは管理者アクセスとクライアントアクセスに適用されます。

セッション:

保管されているセッションデータのための有効期限タイムアウト (分)。

セッションがタイムアウトしました: 分

▼ アップグレードの設定

この設定 (下のスクリーンショット) は MobileTogether Server のあるバージョンから高いバージョンへのアップグレードに関連する手順と関連しています。新しい MobileTogether Server バージョンがインストールされるとデフォルトでは [全ての重要なサブファイルとフォルダーが含まれるバックアップフォルダーが作成されます](#)⁴⁶。MobileTogether Server インストールをアンインストールすると、これらの MobileTogether Server ファイルとフォルダーはシステム内に保管されます。後に新規の MobileTogether

Server パッケージがインストールされると [MobileTogether Server アプリケーションフォルダー](#)⁴⁶ 内で作成されたバックアップフォルダー内にデータがコピーされます。

設定のアップグレード:

バックアップの無効化

サーバー設定と各サーバーアップグレードのデータの自動的なバックアップを無効化します。

この設定は、次のアップグレードのための自動的なバックアップを無効化します。バックアップフォルダーをいつでも手動で作成することができます。詳細については [MobileTogether Server をバックアップし復元する方法](#)⁴⁶ を参照してください。

▼ 電子メールの設定

これらの設定によりサーバーを介してエンドユーザーに電子メールを送信することができます。通常、ソリューションは、サーバーから電子メールを送信する「電子メールの送信」アクションをトリガーするイベントを提供します。サーバーから電子メールを送信するには、電子メールサービスプロバイダー（通常使用中のISP）のSMTPサーバーへのアクセスが必要になります。SMTPサーバーの設定はこのページに入力されます（下のスクリーンショット）

電子メール設定:

サーバー側からの電子メールの送信のための設定を構成する。

SMTP ホスト:

SMTP ポート:

SSL の使用:

ユーザー名:

パスワード:

テスト電子メールを送信する

- **SMTP ホスト と SMTP ポート:** ISP のSMTPサーバーのSMTPホスト名とSMTPポートです。詳細は使用中のISPにより提供されます。
- **SSL の使用:** SSL が使用されるかを指定します。
- **ユーザー名 と パスワード:** 電子メールサービスプロバイダーに登録されているアカウントのユーザー名とパスワードです。

5.7.9 LicenseServer

MobileTogether Server はネットワーク上で Altova LicenseServer に登録されている必要があります。**LicenseServer** 設定は接続する LicenseServer マシンを指定し、MobileTogether Server を LicenseServer に登録することができます。ライセンスの拱与に関しては、[Mobile Together Server セットアップ](#) ¹³ のセクションを参照してください。設定を変更した場合、タブの下の「保存」をクリックして、変更された設定の効果を反映させることができます。

- ネットワークで LicenseServers を検索するには、「検索」ボタンをクリックしてください。検出された LicenseServers がドロップダウンリストとしてコンボボックスに表示されます。このリストから、接続を希望する LicenseServer を選択します。
- サーバーアドレスを入力するには、「アドレスを手動で入力」ボタンをクリックして、サーバーのアドレスを入力してください。

LicenseServer が検出されると、「LicenseServer への登録」が有効化されます。LicenseServer に MobileTogether サーバーを登録するボタンをクリックします。「ライセンスの取得」をクリックして、LicenseServer へ移動し、MobileTogether Server にライセンスを与えます。

5.7.10 構成ファイル設定

効果を理解している場合のみ変更されない、または変更される必要があるため、設定の一部は Web UI (前のセクション参照) 内で行うことはできません。これらの設定はデフォルトでアプリケーションデータフォルダー内にある `mobiletogetherserver.cfg` という名前の構成ファイル内に保管されています (以下参照)。`.cfg` 構成ファイルをテキストエディター内で編集することができます。このセクションは構成ファイル内で追加編集するために安全な重要な設定に関する情報が含まれています。

アプリケーションデータフォルダーのロケーションはオペレーティングシステムとプラットフォームにより異なりますが、デフォルトでは以下のようになります。

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Mac	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

サーバーを介して送信されるデータファイルのサイズリミット

サーバーはデフォルトで 100 MB までの大きさのファイルを受け入れるよう設定されています。これより大きなファイルは拒否されます。100 MB よりも大きなファイルが期待される場合、構成ファイル内の `Listen` と `ListenSSL` セクション内の `max_request_body_size` 設

定を指定してサイズミットを増量することができます。下のリスティング内では、サーバーが200 MB までの大きさのファイルを受け入れられるようにサイズが増量されています。

```
[Listen]
host=0.0.0.0
port=8084
active=1
ssl=0
admin=0
max_request_body_size=209715200
```

```
[ListenSSL]
host=0.0.0.0
port=8084
active=1
ssl=1
admin=0
max_request_body_size=209715200
```

メモ max_request_body_size のデフォルトの値は構成ファイル内で設定がリストされていない場合でも 104857600 (100 MB) です。

サーバータイムアウト

サーバーのデフォルトのタイムアウトは 10 秒です。これが低すぎる場合、timeout 設定を使用して更に高いタイムアウト値を秒で設定することができます。timeout 設定が不足している場合、または < 1 の場合、デフォルトのタイムアウトである 10 秒が使用されます。

```
[Listen]
host=0.0.0.0
port=8084
active=1
ssl=0
admin=0
max_request_body_size=209715200
timeout=300
```

```
[ListenSSL]
host=0.0.0.0
port=8084
active=1
ssl=1
admin=0
max_request_body_size=209715200
timeout=300
```

Syslog サーバー設定

これらの設定は syslog サーバーを定義します。 [Web UI の設定ページ](#)⁸⁵ を介してこれらの設定の一部を指定することができます。しかしながら、他の設定は以下にリストされるように構成ファイル内でのみ指定することができます。

```
[Log]
syslog_enabled = 0 Or 1
syslog_protocol = BSD_UDP Or BSD_TCP Or IETF_TCP Or IETF_TLS
syslog_host = <IP address>
syslog_port = <usually 514 or 601 or 6514>
syslog_key = <key for TLS communication>
syslog_cert = <cert for TLS communication>
```

`syslog_ca` = この設定はUI 内で使用することはできません。これはPC 上で既にインストールされているRoot CA です。インストールが不可能な場合、この設定を使用して指定します。

`syslog_timeout` = この設定はUI 内で使用することはできません。デフォルトは5 秒です。設定の値が高すぎる場合、およびSyslog サーバーを使用できない場合、ログをMobileTogether Server ログデータベースに書き込むことが危険である可能性があります。

6 MobileTogether Server コマンドライン

実行可能ファイルのロケーション

このセクションで説明されているコマンド呼び出し実行する MobileTogether Server 実行可能ファイルのデフォルトの場所は以下の通りです:

Linux	/opt/Altova/MobileTogetherServer/bin/mobiletogetherserver
Mac	/usr/local/Altova/MobileTogetherServer/bin/mobiletogetherserver
Windows	<ProgramFilesFolder>\Altova\MobileTogetherServer\bin\MobileTogetherServer.exe

使用方法

コマンドライン構文は以下の通りです:

```
mobiletogetherserver --h | --help | --version | <command> [options] [arguments]
```

- `--help` (短縮形 `--h`) は与えられたコマンドのヘルプテキストを表示します。コマンドに名前がない場合、実行可能ファイルの全てのコマンドがコマンドの短い説明と共にリストされます。
- `--version` は MobileTogether Server のバージョン番号を表示します。
- `<command>` は実行されるコマンドです。このセクションのサブセクション内でコマンドについて説明されています (のリストを参照してください)。
- `[options]` はコマンドのオプションです。これらのコマンドはリストされ、対応するコマンドと共に説明されています。
- `[arguments]` はコマンドの引数です。これらのコマンドはリストされ、対応するコマンドと共に説明されています。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の MobileTogetherServer
Windows と Unix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

- * 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。
- * Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

CLI コマンド

使用可能なコマンドは下にリストされており、このセクションのサブセクションで説明されています。

- [addtorole](#)¹⁰²: MobileTogether Server ロールプリシを追加します。
- [applicationid](#)¹⁰³: アプリケーション ID を返します。
- [assignlicense](#)¹⁰⁴: LicenseServer にライセンスをアップロードし、MobileTogether Server にライセンスを割り当てます。
- [createcontainer](#)¹⁰⁶: ルートまたは既存のコンテナ内に新規のコンテナを作成します。
- [creatorole](#)¹⁰⁷: 新規の MobileTogether Server ロールを作成します。
- [createuser](#)¹⁰⁹: 新規の MobileTogether Server ユーザーを作成します。
- [debug](#)¹¹¹: MobileTogether パッケージを (.mtp ファイル) を MobileTogether Server にデプロイします。
- [deploy](#)¹¹²: MobileTogether パッケージ (.mtp ファイル) を MobileTogether Server にデプロイします。
- [exportresourcestrings](#)¹¹⁴: XML ファイルに全てのリソース文字列をエクスポートします。

- [help](#)¹¹⁷: 引数内に送信されたコマンドに関する情報または引数が送信されていない場合すべてのコマンドに関する情報を表示します。
- [install](#)¹¹⁸: MobileTogether Server をサービスとしてインストールします。
- [licenseserver](#)¹¹⁹: ローカルネットワーク上のLicenseServer にMobileTogether Server を登録します。
- [resetpassword](#)¹²¹: MobileTogether Server の管理者インターフェイスのパスワードをリセットします。
- [setdeflang](#)¹²²: MobileTogether Serverのデフォルトの言語を設定します。
- [start](#)¹²⁵: MobileTogether Server をサービスとして開始します。
- [uninstall](#)¹²⁶: MobileTogether Server をサービスとしてアンインストールします。
- [upgradedb](#)¹²⁷: 内部MobileTogether Server データベースを新規のMobileTogether Server バージョンに更新し正しいデフォルトの値を挿入します。
- [verifylicense](#)¹²⁸: 現在のMobileTogether Server にライセンスが供与されているかをチェックし、任意で、与えられたライセンスキーと共にライセンス供与されているかを確認します。
- [version](#)¹²⁹: MobileTogether Server のバージョン番号を表示します。

6.1 addtorole

構文と説明

`addtorole` コマンドは送信されたプリンシパル(ユーザーまたはロール)を指定されたロールに追加します。ロールに対するプリンシパルのロールシヨシツプのためのトピック [ロール](#)⁶² を参照してください。

```
mobiletogetherserver addtorole [options] Role Principal
```

- `Role` 引数は必須で、送信されるプリンシパルが追加される MobileTogether Server ロールの名前を指定します。
- `Principal` 引数は必須で、指定されるロールに追加されるプリンシパルの名前を送信します。
- `--h, --help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`

Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

* 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

サンプル

`addtorole` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver addtorole Legal Tech-01
```

- コマンドは `Legal` という名前のロールに `Tech-01` という名前のプリンシパルを追加します。

オプション

`--h, --help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

6.2 applicationid

構文と説明

`applicationid` コマンドはMobileTogether アプリケーションのID を表示します。

```
mobiletogetherserver applicationid [options]
```

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`

Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

* 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

サンプル

`applicationid` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver applicationid
```

- アプリケーション id を返します。

オプション

`--h`, `--help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

6.3 assignlicense (Windows のみ)

構文と説明

`assignlicense` コマンドは Windows 上のみで使用することができます (Linux または Mac システム上では使用することができません)。MobileTogether Server が登録されている Altova LicenseServer にライセンスファイルをアップロードし、MobileTogether Server にライセンスを割り当てます (licenseserver コマンドを参照してください)。ライセンスの `N` を引数として取ります。コマンドによりライセンスの有効性をテストすることができます。

```
mobiletogetherserver assignlicense [options] FILE
```

- `FILE` 引数はライセンスファイルの `N` を取ります。
- `--test-only` オプションは LicenseServer にライセンスをアップロードし、ライセンスを検証しますが、MobileTogether Server にライセンスを割り当てません。

ライセンスに関する詳細は LicenseServer ドキュメントを確認してください (<https://www.altova.com/manual/ja/AltovaLicenseServer/>)。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の MobileTogetherServer
Windows と Unix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

- * 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラットフォーム (Windows, Linux, および Mac) で使用することができますが、小文字 (MobileTogetherServer) は Windows と Mac のみで使用することができます。
- * Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上でのバックスラッシュ、スペース および特別文字

Windows システム (例えば、ファイル、または、フォルダ名、企業名、または、個人、または、製品名内でスペース、または特別文字が文字列内で発生すると引用符を使用してください。例えば、"My File"。しかしながら、二重引用符の後のバックスラッシュ (例えば、"C:\My directory\") は正確に読み取られない場合があります。これはバックスラッシュ文字がエスケープシーケンスの開始を示すためであり、エスケープシーケンス `¥` は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は、以下のように前のバックスラッシュを次のように使用します: `\\`。要約すると、スペースまたはバックスラッシュを含むファイル `N` を作成する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\\"。

例

`assignlicense` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver assignlicense C:\licensepool\mylicensekey.altova_licenses
mobiletogetherserver assignlicense --test-only=true C:
\licensepool\mylicensekey.altova_licenses
```

- 上記の最初のコマンドは LicenseServer に指定されたライセンスをアップロードし、MobileTogether Server に割り当てます。
- 最後のコマンドは LicenseServer に指定されたライセンスをアップロードし、MobileTogether Server に割り当てることなく検証します。

オプション

(使用できる場合) オプションは短いおよび長い書式でリストされています。短いおよび長い書式のため `o` または `l` のフラグを使用することができます。オプションは値を取る、または、取らない場合があります。値をとる場合、以下のようにします: `--option=value`。値は引用符無しで `o` の場合で指定することができます: (i) 値文字列にスペースが含まれる場合、または、(ii) 引用符が必要とするオプションの説明

明内で明示的に指示されている場合。オプションがブール値の値を取り、ブールの値が指定されていない場合、オプションのデフォルトの値は TRUE です。 `--h`, `--help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

▼ test-only [t]

`--t`, `--test-only` = `true|false`

値は `true|false` です。`true` の場合、LicenseServer にライセンスファイルがアップロードされ、検証されますが、割り当てられることはありません。

6.4 createcontainer

構文と説明

`createcontainer` コマンドは引数内で名前が付けられた場所にコンテナを作成します。

```
mobiletogetherserver createcontainer [options] Path
```

- `Path` 引数は作成されるコンテナへのルートコンテナから開始するパスです。例: `/public/contacts/personal`。全ての祖先コンテナが存在する必要がある場合があります。例: 前のパス内で与えられた `personal` コンテナを作成するには、コンテナ `/public/contacts/` が存在する必要がある場合があります。
- `--h, --help` オプションを使用してコマンドに必要な情報を表示します。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`

Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

* 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows, Linux, および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

サンプル

`createcontainer` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver createcontainer /public/contacts/personal
```

- コマンドは `personal` コンテナをコンテナ `/public/contacts` の子として追加します。

オプション

`--h, --help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

6.5 creatorole

構文と説明

`creatorole` コマンドは MobileTogether Server [ロール](#)⁶² を作成し、`Privileges` 引数で指定されている特権をこのロールに割り当てます。

```
mobiletogetherserver creatorole [options] Role [Privileges]
```

- `Role` 引数は作成される MobileTogether Server ロールの名前です。
- `Privileges` 引数はロールに与えられる特権のコマンドで区切られたリストです。
- `--h, --help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

▼ 特権のリスト

ロールに割り当てる特権を入力します。これらの特権に関する詳細は、[ロール](#)⁶² を参照してください。

- maintain-users
- set-own-password
- override-security
- allow-store-password
- view-log
- view-cache
- view-licenses
- read-users
- manage-settings
- trace-workflow
- read-statistics
- read-dbstructures
- read-globalresource
- write-globalresource
- open-workflow-from-designer
- save-workflow-from-designer
- run-server-simulation

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の MobileTogetherServer

Windows と Unix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (MobileTogetherServer) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

サンプル

`creatorole` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver creatorole MyNewRole maintain-users,set-own-password,override-security
```

- コマンドは `maintain-users`, `set-own-password`, `override-security` 特権を持つ `MyNewRole` という名前の新規のロールを追加します。

オプション

`--h`, `--help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

6.6 createuser

構文と説明

`createuser` コマンドは MobileTogether Server [ユーザー](#)⁵⁹ を作成し、このユーザーに初期のパスワードと特権を割り当てます。

```
mobiletogetherserver createuser [options] User Password [Privileges]
```

- `User` 引数は作成される MobileTogether Server ユーザーの名前です。
- `Password` 引数はこのユーザーの最初のパスワードを設定します。この引数は必須です。
- `Privileges` 引数は任意です。ユーザーに与えられる特権のカンマで区切られたリストです。
- `--h, --help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

▼ 特権のリスト

ロールに割り当てると特権を入力します。これらの特権に関する詳細は、[ロール](#)⁶² を参照してください。

- maintain-users
- set-own-password
- override-security
- allow-store-password
- view-log
- view-cache
- view-licenses
- read-users
- manage-settings
- trace-workflow
- read-statistics
- read-dbstructures
- read-globalresource
- write-globalresource
- open-workflow-from-designer
- save-workflow-from-designer
- run-server-simulation

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`

Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

* 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

サンプル

`createuser` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver createuser NewUser NewUserPwd
mobiletogetherserver createuser NewUser NewUserPwd maintain-users,set-own-
password,override-security
mobiletogetherserver createuser --change_password_on_next_login=true NewUser
NewUserPwd
```

```
mobiletogetherserver createuser --passwordpolicy=PolicyName NewUser NewUserPwd
```

- 最初のコマンドは最初のパスワードを持つ新規のユーザーを作成します。
- 2番目のコマンドは最初のパスワードを持つ新規のユーザーを作成し、このユーザーに3つの特権を割り当てます。
- 3番目のコマンドは最初のパスワードを持つ新規のユーザーを作成します。最初のパスワードはユーザーがログインする際に変更される必要があります。
- 4番目のコマンドは最初のパスワードを持つ新規のユーザーを作成します。[パスワードポリシー](#)⁶⁶を使用してこのユーザーのパスワードを変更します。

オプション

(使用できる場合) オプションは短いおよび長い書式でリストされています。短いおよび長い書式のためには、オプションの両方を使用することができます。オプションは値を取る、または取らない場合があります。値をとる場合、以下のようにします: `--option=value`。値は引用符無しで2つの場合で指定することができます: (i) 値文字列にスペースが含まれる場合、または (ii) 引用符が必要とするオプションの説明内で明示的に指示されている場合。オプションがブール値の値を取り、ブールの値が指定されていない場合、オプションのデフォルトの値は `TRUE` です。 `--h`, `--help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

▼ change_password_on_next_login

```
--change_password_on_next_login = true|false
```

このオプションはユーザーが次のログインでパスワードを変更するかを決めます。デフォルトは、すなわちオプションが指定されていない `false` です。

▼ passwordpolicy

```
--passwordpolicy = Policy
```

このユーザーのパスワードのために従う必要があるパスワードポリシーを設定します。パスワードポリシーの作成に関する詳細はトピック [パスワードポリシー](#)⁶⁶ を参照してください。

6.7 debug

構文と説明

`debug` コマンドはデバッグのための MobileTogether Server をサービスとしてではなく開始します。このモードでの MobileTogether Server を停止するには「Ctrl+C」を押します。

```
mobiletogetherserver debug [options]
```

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`
Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

* 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上でのバックスラッシュ、スペース、および特別文字

Windows システム (例えば、ファイル、または フォルダー名、企業名、または、個人、または、製品名内でスペース、または特別文字が文字列内で発生すると引用符を使用してください。例えば、"My File"。しかしながら、二重引用符の後のバックスラッシュ (例えば、"C:\My directory\") は正確に読み取られない場合があります。これはバックスラッシュ文字がエスケープシーケンスの開始を示すためであり、エスケープシーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は、以下のように前コバックスラッシュを次のように使用します: \\\"。要約すると、スペースまたはバックスラッシュを含むファイルパスを作成する場合は、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\\\"。

サンプル

`debug` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver debug
```

6.8 deploy

構文と説明

`deploy` コマンドは MobileTogether パッケージ (.mtp ファイル) を MobileTogether Server にデプロイします。MobileTogether パッケージが MobileTogether Designer 内で作成されると パッケージ内でデプロイ パッケージを作成することができます。これは必須ではありません。デプロイコマンドの引数はこの点を考慮します。

```
mobiletogetherserver deploy [options] Package [Path]
```

- `Package` はデプロイする MobileTogether パッケージへのパスを指定します。
- `Path` (任意) は パッケージをデプロイするサーバーの場所を指定します。引数が指定され、パッケージにデプロイ パッケージが含まれている場合、コマンドラインは提供されているパスが使用されます。引数が与えられてなく、パッケージにデプロイ パッケージが含まれていない場合、関連したエラーメッセージが表示されます。
- デプロイ先に同じ名前を持つパッケージが既存で、上書きする場合 `force` オプションを使用します (下を参照)。デプロイ先でパッケージが既存で `force` 引数が指定されていない場合、関連するエラーメッセージが表示されます。

メモ このコマンドが実行される前にサーバーを停止する必要があります。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`
Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

* 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上でのバックスラッシュ、スペース、および特別文字

Windows システム (例えば、ファイル、または、フォルダー名、企業名、または、個人、または、製品名内でスペース、または特別文字が文字列内で発生すると引用符を使用してください。例えば、`"My File"`。しかしながら、二重引用符の後のバックスラッシュ (例えば、`"C:\My directory\"`) は正確に読み取られない場合があります。これはバックスラッシュ文字がエスケープシーケンスの開始を示すためであり、エスケープシーケンス `¥` は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は、以下のように前にバックスラッシュを次のように使用します: `\\`。要約すると、スペースまたはバックスラッシュを含むファイルパスを作成する場合、以下のような名前を与えます: `"C:\My Directory\\"`。

サンプル

`deploy` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver deploy "C:\temp\ParcelDelivery.mtp"
mobiletogetherserver deploy --force "C:\temp\ParcelDelivery.mtp"
mobiletogetherserver deploy "C:\temp\ParcelDelivery.mtp" "/public/ParcelDelivery"
mobiletogetherserver deploy --force "C:\temp\ParcelDelivery.mtp"
"/public/ParcelDelivery"
```

オプション

`--h`, `--help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

▼ `datadir`

```
--datadir = PathToDatabaseDirectory
```

データベースディレクトリへのパスを指定します。

▼ force

--force

このオプションが指定されていると (deploy コマンドにより) デploy される MobileTogether パッケージが deploy コマンドにより使用されているデプロイパスにより指定されている場所にある同名前のパッケージを上書きします。デプロイパスはパッケージから取られるまたは path 引数内で指定されています (上記参照)。force をこのシチュエーションで使用しない場合、パッケージが指定されるデプロイ場所に既存であることを示すエラーが表示されます。

6.9 exportresourcestrings

構文と説明

`exportresourcestrings` コマンドは特定の言語内の MobileTogether Server アプリケーションのリソース文字列を含む XML ファイルを出力します。使用することのできる言語は英語 (en)、ドイツ語 (de)、スペイン語 (es)、フランス語 (fr)、と日本語 (ja) です。

```
mobiletogetherserver exportresourcestrings [options] LanguageCode XMLOutputFile
```

- `LanguageCode` 引数は、出力 XML ファイル内のリソース言語の言語を与えます。これは *エクスポート言語* です。許可されているエクスポート言語は以下の通りです (それぞれの言語コードが括弧で囲まれています) : 英語 (en)、ドイツ語 (de)、スペイン語 (es)、フランス語 (fr)、と日本語 (ja)。
- `XMLOutputFile` 引数は出力 XML ファイルのパスと名前を指定します

ローカライゼーションの作成方法は以下のとおりです。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の MobileTogetherServer
Windows と Unix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (MobileTogetherServer) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上でのバックスラッシュ、スペース、および特別文字

Windows システム (例えば、ファイル、またはフォルダー名、企業名、または個人、または製品名内でスペース、または特別文字が文字列内で発生すると引用符を使用してください。例えば、"My File"。しかしながら、二重引用符の後のバックスラッシュ (例えば、"C:\My directory\") は正確に読み取られない場合があります。これはバックスラッシュ文字がエスケープシーケンスの開始を示すためであり、エスケープシーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は、以下のよう前にバックスラッシュを次のように使用します: "\\ "。要約すると、スペースまたはバックスラッシュを含むファイルパスを作成する場合、以下のよう名前を与えます: "C:\My Directory\\"。

例

`exportresourcestrings` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver exportresourcestrings de c:\Strings.xml
```

- 上のコマンドは MobileTogether Server のドイツ語リソース文字列を含む Strings.xml と呼ばれるファイルを c:\ に作成します。

MobileTogether Server のローカライズされたバージョンの作成

選択された言語で MobileTogether Server のローカライズされたバージョンを作成することができます。5つのローカライズされたバージョン (英語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、および日本語) は C:\Program Files (x86)\Altova\MobileTogetherServer\bin フォルダー内で使用することができるため、作成する必要はありません。

ローカライズされたバージョンを以下のよう作成します:

1. `exportresourcestrings` コマンドを使用してリソース文字列を含む XML ファイルを作成します (上記のコマンド構文を参照してください)。この XML ファイル内のリソース文字列は、サポートされる以下の5つの言語のひとつです: コマンドと共に使用

- される LanguageCode 引数に従い英語(en)、ドイツ語(de)、スペイン語(es)、フランス語(fr)、または日本語(ja)。
- 5つのサポートされる言語の1つからのソース文字列からターゲット言語に翻訳します。ソース文字列はXML ファイル内の <string> 要素のコンテンツです。{option} または {product} などの中かっこ内の変数は翻訳しないでください。
 - ローカライズされた MobileTogether Server DLL ファイルを翻訳された XML ファイルから生成するために、[Altova サポート](#) に連絡してください。
 - [Altova サポート](#) からローカライズされた DLL ファイルを受信すると DLL を C:\Program Files (x86)\Altova\<% APPFOLDER\bin フォルダー内に保存します。DLL ファイルはフォーム MobileTogetherServer2021_lc.dll の名前を持ちます。名前の lc 部分には、言語コードが含まれています。例えば、MobileTogetherServer2021_de.dll では、de の部分はドイツ語 (Deutsch) のための言語コードです。
 - setdeflang コマンドを実行し、使用する MobileTogether Server アプリケーションと同様にローカライズされた DLL ファイルを設定します。setdeflang コマンドの引数のために、DLL 名の一部である言語コードを使用してください。

メモ Altova MobileTogether Server は5つの言語のためのサポートを提供しています: 英語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、および日本語。これらの言語のローカライズされたバージョンを作成する必要はありません。これらの言語をデフォルトの言語として設定するには、MobileTogether Server の setdeflang コマンドを使用します。

6.10 grant

構文と説明

Grant コマンドは特定のコンテナのためにこのパーミッションがプリンシパル(ユーザーまたはロール)を持つかを設定します。このコマンドが実行される前にサーバーを停止する必要があります。

```
mobiletogetherserver grant [options] Principal Path Container Workflow Security
```

- 5個の引数は必須です。
- プリンシパルはパーミッションが割り当てられるユーザーまたはロールを指定します。サーバー上でプリンシパルを定義する必要があります。
- パーミッションが割り当てられるパスはコンテナへのパスを指定します。コンテナへのパスはディレクトリのルートから開始する絶対パスである必要があります。
- コンテナはコンテナのパーミッションレベルを指定します(読み込み 書き込み | 読み取り | 継承 | 無し)。
- ワークフローはワークフローのパーミッションレベルを指定します(読み込み 書き込み 使用 | 読み込み 使用 | 継承 | 無し)。
- セキュリティはプリンシパルがコンテナのセキュリティ設定に対して持つアクセスのレベルを指定します(読み込み 書き込み | 読み込み | 継承 | 無し)。

メモ パーMISSIONの値の説明に関しては[ワークフロー | パーMISSION](#)⁵¹を参照してください。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の MobileTogetherServer
Windows と Unix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (MobileTogetherServer) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上でのバックスラッシュ、スペース および特別文字

Windows システム (例えば、ファイル、または、フォルダー名、企業名、または、個人、または、製品名内でスペース、または特別文字が文字列内で発生すると引用符を使用してください。例えば、"My File"。しかしながら、二重引用符の後のバックスラッシュ (例えば、"C:\My directory\") は正確に読み取られない場合があります。これはバックスラッシュ文字がエスケープシーケンスの開始を示すためであり、エスケープシーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は、以下のように前にバックスラッシュを次のように使用します: "\\\"。要約すると、スペースまたはバックスラッシュを含むファイルパスを作成する場合は、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\\"。

サンプル

grant コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver grant tech-01 /public/contact read-write read-write-use read-write
mobiletogetherserver grant tech-02 /public/contact inherit inherit inherit
mobiletogetherserver grant tech-03 /public/contact read read-use none
```

オプション

--h, --help オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

6.11 help

構文と説明

`help` コマンドは、ヘルプを必要とするコマンドの名前である単一の引数 (Command) を取ります。コマンドの構文、オプション、および他の関連する情報を表示します。Command 引数が指定されていない場合、説明と共に実行可能ファイルのすべてのコマンドがリストされます。

```
mobiletogetherserver help Command
```

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`
Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

- * 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。
- * Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

例

`help` コマンドのサンプルは `licenseserver` コマンドに関する情報を表示します。

```
mobiletogetherserver help licenseserver
```

—help オプション

ヘルプ情報が必要とされるコマンドの `--help` オプションを使用してヘルプ情報を使用することもできます。下の2つのコマンドは同じ結果を生成します:

```
mobiletogetherserver licenseserver --help
```

上記のコマンドは `licenseserver` コマンドの `--help` オプションを使用します。

```
mobiletogetherserver help licenseserver
```

`help` コマンドは引数として `licenseserver` を取ります。

両方のコマンドは `licenseserver` コマンドに関するヘルプ情報を表示します。

6.12 install

構文と説明

`install` コマンドは MobileTogether Server をサービスとしてサーバーマシンにインストールします。

```
mobiletogetherserver install [options]
```

- MobileTogether Server をサービスとしてインストールしても、サービスは自動的に開始されないことご注意ください。サービスを開始するために `start` コマンドを使用します。
- MobileTogether Server をサービスとしてアンインストールするには `uninstall` コマンドを使用します。
- `--h, --help` オプションを使用してコマンドの情報を表示します。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`

Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

* 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows, Linux, および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

サンプル

`install` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver install
```

6.13 licenseserver

構文と説明

`licenseserver` コマンドは MobileTogether Server を Server-Or-IP-Address 引数により指定されている Altova LicenseServer を使用して登録します。`licenseserver` コマンド実行されるのは、2つのサーバー (MobileTogether Server と LicenseServer) が同じネットワーク上で作動しており LicenseServer が作動している必要があります。MobileTogether Server を LicenseServer と登録する管理特権が必要になります。

```
mobiletogetherserver licenseserver [options] Server-Or-IP-Address
```

- `Server-Or-IP-Address` 引数は、LicenseServer マシンの名前、または IP アドレスを取ります。

MobileTogether Server が LicenseServer へ登録されると、この件に関連するメッセージを受け取ります。メッセージは LicenseServer の URL も表示します。LicenseServer に移動して、MobileTogether Server にライセンスを割り当てることもできます。ライセンスに関する詳細は、LicenseServer ドキュメントを確認してください (<https://www.altova.com/manual/ja/AltovaLicenseServer/>)。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`
Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

- * 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。
- * Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上でのバックスラッシュ、スペース、および特別文字

Windows システム (例えば、ファイル、またはフォルダー名、企業名、または個人、または製品名内でスペース、または特別文字が文字列内で発生すると引用符を使用してください。例えば、"My File"。しかしながら、二重引用符の後のバックスラッシュ (例えば、"C:\My directory\") は正確に読み取られない場合があります。これはバックスラッシュ文字がエスケープシーケンスの開始を示すためであり、エスケープシーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は、以下のように前にバックスラッシュを次のように使用します: "\\ "。要約すると、スペースまたはバックスラッシュを含むファイルパスを作成する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\\"。

例

licenseserver コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver licenseserver DOC.altova.com
mobiletogetherserver licenseserver localhost
mobiletogetherserver licenseserver 127.0.0.1
```

上記のコマンドは、それぞれ `DOC.altova.com` という名前のマシンとユーザーのマシン (`localhost` と `127.0.0.1`) を Altova LicenseServer を作動するマシンとして指定します。双方の場合、指定されているマシン上の LicenseServer を使用してコマンドは MobileTogether Server を登録します。最後のコマンドは、コマンドを実行するためサーバー実行可能ファイルを呼び出します。

オプション

(使用できる場合) オプションは短いおよび長い書式でリストされています。短いおよび長い書式のためには、それぞれ2つのダッシュを使用することができます。オプションの値を取る、または、取らない場合があります。値をとる場合、以下ようになります: `--option=value`。値は引用符無しで2つの場合で指定することができます: (i) 値文字列にスペースが含まれる場合、または、(ii) 引用符が必要とするオプションの説明明内で明示的に指示されている場合。オプションがブール値の値を取り、ブールの値が指定されていない場合、オプションのデフォルトの値は

TRUE です。 `--h, --help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

▼ json []

`--j, --json = true|false`

値は `true|false` です。 `true` の場合、マシン解読可能な JSON オブジェクトとして登録の結果を出力します。

6.14 resetpassword

構文と説明

`resetpassword` コマンドは、パスワードをデフォルトの値 (ルート) にリセットし、root ユーザーに全ての特権を与えます。MobileTogether Server の作動中のインスタンスはこの操作を行う前に停止される必要があります。

```
mobiletogetherserver resetpassword [options]
```

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`
Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

* 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上でのバックスラッシュ、スペース、および特別文字

Windows システム (例えば、ファイル、または フォルダー名、企業名、または、個人、または、製品名内でスペース、または特別文字が文字列内で発生すると引用符を使用してください。例えば、"My File"。しかしながら、二重引用符の後のバックスラッシュ (例えば、"C:\My directory\") は正確に読み取られない場合があります。これはバックスラッシュ文字がエスケープシーケンスの開始を示すためであり、エスケープシーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は、以下のように前にバックスラッシュを次のように使用します: \\\"。要約すると、スペースまたはバックスラッシュを含むファイル名を作成する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\\\"。

サンプル

`resetpassword` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver resetpassword --datadir=C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer\mobiletogether.db
```

オプション

`--h, --help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

▼ datadir

`--datadir = PathToDatabaseDirectory`
データベースディレクトリのパスを指定します。

6.15 setdeflang

構文と説明

`setdeflang` コマンド (`sdl` と略される) は MobileTogether Server のデフォルトの言語を設定します。英語 (en)、ドイツ語 (de)、スペイン語 (es)、フランス語 (fr)、および日本語 (ja) を使用することができます。コマンドは必須の `LanguageCode` 引数を取ります。

```
mobiletogetherserver setdeflang [options] LanguageCode
```

- `LanguageCode` 引数が必須で、MobileTogether Server のデフォルトの言語を設定します。対応する値は以下の通りです: en, de, es, fr, ja.
- `--h, --help` オプションを使用してコマンドの情報を表示します。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`

Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

* 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

例

`setdeflang (sdl)` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver sdl de
mobiletogetherserver setdeflang es
```

- 最初のコマンド MobileTogether Server のデフォルトの言語をドイツ語に設定します。
- 2番目のコマンドは MobileTogether Server のデフォルトの言語をスペイン語に設定します。

オプション

`--h, --help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

6.16 setpassword

構文と説明

`setpassword` コマンドはユーザーのパスワードを設定およびセトします。このコマンドが実行される前にサーバーを停止する必要があります。

```
mobiletogetherserver setpassword [options] User Password
```

- 両方の引数は必須です。
- ユーザー はパスワードが割り当てられるユーザーを指定します。サーバー上でユーザーを定義する必要があります。
- Password は前の引数で名前の付けられているユーザーに割り当てる新規のパスワードを設定します。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の MobileTogetherServer

Windows と Unix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (MobileTogetherServer) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上でのバックスラッシュ、スペース、および特別文字

Windows システム (例えば、ファイル、または、フォルダー名、企業名、または、個人、または、製品名内でスペース、または特別文字が文字列内で発生すると引用符を使用してください。例えば、"My File"。しかしながら、二重引用符の後のバックスラッシュ (例えば、"C:\My directory\") は正確に読み取られない場合があります。これはバックスラッシュ文字がエスケープシーケンスの開始を示すためであり、エスケープシーケンス ¥' は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は、以下のように前にバックスラッシュを次のように使用します: "\\\"。要約すると、スペースまたはバックスラッシュを含むファイルを作成する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\\"。

サンプル

`setpassword` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver setpassword "tech-01" myNewPassword
mobiletogetherserver setpassword tech01 myNewPassword
```

オプション

`--h, --help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

▼ datadir

```
--datadir = PathToDatabaseDirectory
データベースディレクトリへのパスを指定します。
```

6.17 setsmtp

構文と説明

setsmtp コマンドにより電子メールのサーバー設定を構成することができます。コマンドの引数は [設定ページのその他のタブ](#)⁹⁴ 内の値セットと同じです。このコマンドが実行される前にサーバーを停止する必要があります。

```
mobiletogetherserver setsmtp [options] --host=StringValue --port=StringValue --
ssl=true|false [--user=StringValue] [--password=StringValue]
```

- --host、--port、と--ssl 引数は必須です。
- host と port は SMTP ホスト名とISP のSMTP のSMTP ポートを指定します。詳細は使用中のISP により提供されます。
- ssl はSSL が使用されるかを指定します。
- user は電子メールサービスプロバイダーに登録されているアカウントのユーザー名を指定します。
- password はユーザーのパスワードを指定します。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の MobileTogetherServer

Windows と Unix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (MobileTogetherServer) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上でのバックスラッシュ、スペース および特別文字

Windows システム (例えば、ファイル、またはフォルダー名、企業名、または個人、または製品名内でスペース、または特別文字が文字列内で発生すると引用符を使用してください! 例えば、"My File"。しかしながら、二重引用符の後のバックスラッシュ (例えば、"C:\My directory\") は正確に読み取られぬ場合があります。これはバックスラッシュ文字がエスケープシーケンスの開始を示すためであり、エスケープシーケンス ¥ は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は、以下のように前にバックスラッシュを次のように使用します: \\\"。要約すると、スペースまたはバックスラッシュを含むファイルパスを作成する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\\\"。

サンプル

setsmtp コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver setsmtp --host=mySMTPServer --port=25 --ssl=false
mobiletogetherserver setsmtp --host=mySMTPServer --port=25 --ssl=false --
user=AltovaMT --password=MyPassword
```

オプション

--h, --help オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

6.18 start

構文と説明

start コマンドは MobileTogether Server をサービスとしてサーバーマシン上で開始します。

```
mobiletogetherserver start [options]
```

- If MobileTogether Server はサービスとしてインストールされません install コマンドとして(起動する前)に最初にインストールしてください。
- To uninstall MobileTogether Server をサービスとしてアンインストールするには, uninstall コマンドを使用します。
- `--h, --help` オプションを使用してコマンドの情報を表示します。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の MobileTogetherServer

Windows と Unix (Linux, Mac) 上の mobiletogetherserver

* 小文字 (mobiletogetherserver) はすべてのプラットフォーム (Windows, Linux, および Mac) で使用することができますが、小文字 (MobileTogetherServer) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

▼ Windows システム上でのバックスラッシュ、スペース、および特別文字

Windows システム (例えば、ファイル、または、フォルダー名、企業名、または、個人、または、製品名内でスペース、または特別文字が文字列内で発生すると引用符を使用してください! 例えば、"My File"。しかしながら、二重引用符の後のバックスラッシュ (例えば、"C:\My directory\") は正確に読み取られない場合があります。これはバックスラッシュ文字がエスケープシーケンスの開始を示すためであり、エスケープシーケンス ¥' は二重引用符文字を示すためです。この文字のシーケンスをエスケープする場合は、以下のように前にバックスラッシュを次のように使用します: \\\"。要約すると、スペースまたはバックスラッシュを含むファイル ¥を作成する場合、以下のような名前を与えます: "C:\My Directory\\\"。

サンプル

start コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver start
```

6.19 uninstall

構文と説明

`uninstall` コマンドは、サーバーマシン上で MobileTogether Server をサービスとしてアンインストールします。

```
mobiletogetherserver uninstall [options]
```

MobileTogether Server をサービスとして再度インストールするには、`install` コマンドを使用します。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`

Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

* 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

例

`uninstall` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver uninstall
```

6.20 upgradedb

構文と説明

`upgradedb` コマンドは新規の MobileTogether Server バージョンの内部 MobileTogether Server データベースの構造をアップデートし、正確なデフォルトの値を入力します。これは DB の構造が MobileTogether Server のバージョンを次のバージョンに変更する必要があるためです。DB 構造は新規のバージョンか既存のデータと作業するために更新される必要があります。古いデータベース内に既存のソリューションは更新されたデータベースで使用することができます。

`--nosamples` オプションにより Altova サンプルソリューションを含み、新規のデータベースをインストールすることができます。これはデプロイを希望するソリューションのみが含まれるクリーンな MobileTogether Server をインストールする場合役に立ちます。

```
mobiletogetherserver upgradedb [options]
```

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`
Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

- * 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。
- * Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

サンプル

`upgradedb` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver upgradedb
```

オプション

`--h, --help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

▼ datadir

```
--datadir = PathToDatabaseDirectory
```

データベースディレクトリへのパスを指定します。

▼ nosamples

```
--nosamples
```

指定されると、(標準のインストールでデプロイされる、または `upgradedb` コマンドがこのオプション無しで使用される) Altova サンプルソリューションを含み、新規のデータベースが作成されます。

6.21 verifylicense (Windows のみ)

構文と説明

`verifylicense` コマンドは、使用中の製品がライセンス供与を受けているかチェックします。更に、`--license-key` オプションにより特定のライセンスキーが製品に既に割り当て済みかをチェックします。このコマンドは Windows 上でのみサポートされています。Linux または Mac システム上ではサポートされていません。

```
mobiletogetherserver verifylicense [options]
```

- MobileTogether Server に割り当てられた特定のライセンスが、`--license-key` オプションの値としてライセンスキーを与えるかをチェックします。

ライセンスに関する詳細は、LicenseServer ドキュメントを確認してください (<https://www.altova.com/manual/ja/AltovaLicenseServer/>)。

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`
Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

- * 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows, Linux, および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。
- * Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

例

`verifylicense` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver verifylicenseserver  
mobiletogetherserver verifylicenseserver --license-key=ABCD123-ABCD123-ABCD123-  
ABCD123-ABCD123-ABCD123
```

- 最初のコマンドは MobileTogether Server がライセンス供与されているかをチェックします。
- 2番目のコマンドは MobileTogether Server が `--license-key` オプションで指定されているライセンスキーと共にライセンス供与されているかをチェックします。

オプション

(使用できる場合) オプションは短いおよび長い書式でリストされています。短いおよび長い書式のためコマンドラインでオプションを使用することができます。オプションは値を取る、または、取らない場合があります。値をとる場合、以下のようなります: `--option=value`。値は引用符無しで2つの場合で指定することができます: (i) 値文字列にスペースが含まれる場合、または、(ii) 引用符が必要とするオプションの説明内で明示的に指示されている場合。オプションがブール値の値を取り、ブールの値が指定されていない場合、オプションのデフォルトの値は TRUE です。 `--h`, `--help` オプションを使用してコマンドに関する情報を表示します。

▼ license-key [I]

`--l`, `--license-key = Value`
MobileTogether Server がこのオプションの値としてライセンスキーと共にライセンス供与されているか確認します。

6.22 version

構文と説明

`version` コマンドは MobileTogether Server のバージョンを表示します。

```
mobiletogetherserver version
```

▼ コマンドライン上の大文字と小文字の区別とスラッシュ

Windows 上の `MobileTogetherServer`

Windows と Unix (Linux, Mac) 上の `mobiletogetherserver`

* 小文字 (`mobiletogetherserver`) はすべてのプラットフォーム (Windows、Linux、および Mac) で使用することができますが、小文字 (`MobileTogetherServer`) は Windows と Mac のみで使用することができます。

* Linux と Mac 上ではスラッシュを使用し、Windows 上ではバックスラッシュを使用します。

例

`version` コマンドのサンプル

```
mobiletogetherserver version
```

インデックス

A

Active Directory, 87
Active Directory ログイン, 78
Altova LicenseServer,
 以下で登録, 78
 開始, 16
 接続設定, 78

D

Directory Service ログイン, 87

H

HTTP と HTTPS ポート,
 サーバー管理者のための, 78, 79
 モバイルクライアントのための, 78, 79
HTTP トリガーの設定, 39

J

JWT 認証, 89

L

LDAP 設定, 87
LicenseServer,
 Altova LicenseServer を参照してください, 16
 以下で登録, 78
 接続設定, 78
LicenseServer 設定, 97

M

MobileTogether Server, 6
 インストール, 13
 セットアップ, 13
 ライセンス, 13
 開始, 18
 使用, 11
MobileTogether Server のバックアップ, 46
MobileTogether Server の復元, 46
MobileTogether Server 概要, 9

S

SSL 暗号化, 20
SSL 証明書, 78, 79
Syslog サーバー設定, 97

W

Web ブラウザー,
 ソリューションの実行の有効化, 78

Z

アップグレードの設定, 94
キャッシュ,
 の設定, 74
 作成, 74
キャッシュの設定, 78, 90
クライアントポート, 78, 79
クライアントユーザーリスト, 70
コア, 14
コマンドライン命令,
 addtorole, 102
 applicationid, 103
 assignlicense (Windowsのみ), 104
 createcontainer, 106
 creatorole, 107
 createuser, 109

- コマンドライン命令,
 - debug, 111
 - deploy, 112
 - exportresourcestrings, 114
 - grant, 116
 - help, 117
 - install, 118
 - licensserver, 119
 - resetpassword, 121
 - setdeflang, 122
 - setpassword, 123
 - setsmtp, 124
 - start, 125
 - uninstall, 126
 - upgradedb, 127
 - verfiylicense (Windows のみ), 128
 - version, 129
- コマンドライン命令 (CLI), 100
- サーバーアクションのログ, 72
- サーバーアドレス, 78, 79
- サーバーサービスのためのトリガー,
 - HTTPトリガーの設定, 39
 - タイマーのトリガーの設定, 37
 - タイムトリガー, 36
 - の管理, 36
 - ファイルシステムトリガー設定, 38
- サーバーセッションのタイムアウト, 78
- サーバーのアドレス, 78, 79
- サーバーの統計, 40
- サーバーフォルダー,
 - 管理, 51
 - 構造, 51
- サーバーへのデータファイル,
 - サイズリミットの設定, 97
- サーバー管理者ポート, 78, 79
- サーバー側 DB 接続, 91
- サーバー側ソリューションの作業ディレクトリ, 78, 91
- サーバー側データベース接続, 78
- サーバー側のソリューションディレクトリ, 78
- サーバー側のデータベース接続, 91
- サービス,
 - HTTPトリガー, 39
 - タイマーのトリガー, 37
 - トリガーの管理, 36
 - ファイルシステムトリガー, 38
 - 構成概要, 36
- ソリューションの設定, 78
- タイマーのトリガーの設定, 37
- データファイルのサイズリミット, 97
- パーミッション, 51
- パスワード,
 - ドメインの有効化, 78
- パスワードポリシー,
 - メンバーの割り当て, 66
 - 作成, 66
- ファイルサイズリミット, 97
- ファイルシステムトリガー設定, 38
- ブラウザー,
 - ソリューションの実行の有効化, 78
- プロセッサコア, 14
- ポート,
 - サーバー管理者、http と https のための, 78, 79
 - モバイルクライアント、http と https のための, 78, 79
- ホスト設定, 78, 79
- モバイルクライアント,
 - の情報, 45
- モバイルクライアントポート, 25, 78, 79
- ユーザー, 29
 - ロールの割り当て, 59
 - 管理, 59
 - 削除, 59
 - 新規作成, 59
- ユーザーライセンス,
 - の管理, 70
- ユーザーログイン,
 - ドメイン特有のパスワード, 78
 - ユーザードメインのインポート, 78
- ユーザー認証, 89
- ライセンスとプロセッサコア, 14
- レポート,
 - ユーザーの特権の, 68
 - 特権の, 68
- ロール, 29
 - メンバーの割り当て, 62
 - 作成, 62
 - 特権の定義, 62
- ログ設定, 78, 85
- ワークフロー, 51
- ワークフローシミュレーション設定, 94
- ワークフロー実行設定, 94
- 暗号化, 20
- 管理者ポート, 25, 78, 79
- 作業ディレクトリ, 78, 91
- 実行アクション,
 - のログ, 72
- 設定, 78

設定, 78

JWT 認証, 89

LDAP, 87

LicenseServer, 97

キャッシュ, 90

ソース, 91

その他, 94

ログ, 85

大きなファイルのためのサイズリミット, 97

認証, 89

単一スレッド実行, 14**電子メールの設定, 94****電子メール設定, 94****統計,**

ソリューションの使用, 40

統計設定, 94**特権, 29**

詳細リスト, 32

認証設定, 89